

# 下関市立市民病院 年報

第7巻

平成30年度



地方独立行政法人

下関市立市民病院

SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

# 目次

はじめに	2	検査部	91
病院の沿革	3	栄養管理部	94
下関市立市民病院組織図	7	薬剤部	99
委員会組織図	8	臨床工学部	102
各部門の活動状況		地域連携部	111
内科・リウマチ膠原病内科	9	健診部	116
血液内科	11	医療安全対策室	117
腎臓内科	12	ドクターズクラーク室	121
緩和ケア内科	16	審議会・委員会、部会活動報告	
ペインクリニック内科	19	薬事審議会	122
循環器内科	21	感染管理委員会	123
消化器内科	24	保険委員会	128
小児科	26	輸血療法委員会	129
外科	29	治験審査委員会	134
脳神経外科	37	検体検査管理委員会	136
呼吸器外科	39	診療録管理委員会	137
心臓血管外科	41	安全管理委員会	139
小児外科	44	褥瘡対策委員会	142
整形外科	45	NST 運営委員会	143
皮膚科	50	栄養管理委員会	148
泌尿器科	51	広報年報委員会	149
眼科	53	臨床倫理委員会	151
耳鼻咽喉科	55	倫理研究委員会	152
放射線診断科	56	研修管理委員会	154
放射線治療科	57	CS 推進委員会	155
麻酔科	58	クリニカルパス推進委員会	156
病理診断科	59	緩和ケア委員会	159
歯科・歯科口腔外科	61	ボランティア活動	160
看護部	64	出前講座	161
リハビリテーション部	82		
放射線部	88		

# はじめに

院長 田中雅夫

平成最後の31年が終わり、元号が「令和」と決まりました。天皇が退位されて上皇になられるので、前もって「平成最後の年」などということが言えたのですが、明治以来なかったことが起こったわけです。元号が改まるとさまざまなシステム上の表記を追加するなど結構手間と費用がかかるので、もう西暦だけにしてはなどという意見もあるようですが、天皇制のように一国の象徴代表が古代から綿々と続いている国はこの地球上で日本しかないのですから、やはり日本人としては元号も使いたいと思います。

さて世界は、政治的には中国と北朝鮮が、経済的には英国が一触即発の危うさを秘めています。英国の国民投票は僅差でEU離脱を決めたものですから、さあいよいよという今になって反対の意見の方が強くなってきたわけです。国民投票とか住民投票というものは、2割くらいの差がついて初めて有効というような制限をつける必要があるのではないのでしょうか。僅差で重要な全体の方向を決めると、実行の段階で反対方向への揺れが起こるのが当然です。

さて、病院は今年、手術部の倉庫になっていた手術室を稼働させれば手術予定の時間内消化に役立つので、倉庫の方を増築することによってその手術室を実用に供することにします。問題は麻酔科医の不足です。この春は減少することは防げましたが増やすことはできませんでした。工夫しながら安全第一にやってもらっていますが、引き続き麻酔科医の充足に努力が必要です。満杯で予約が入りにくい状態のMRIも、今年の年末までには何とか増設できるように急いでもらい、近隣の先生方の検査の要望にもより早くお応えすることができるようにしたいと思います。

令和元年を期して、当院に九州大学の病理学講座から常勤医を派遣していただくことができました。これでこれまで頑張ってきた安田大成部長も多少ゆとりを感じながら働いてもらえることでしょうか。また、整形外科と歯科口腔外科にも1名ずつ医師の増員を得ることができました。東京、大阪、名古屋、福岡など限られた大都市への医師の集中が進む中、県内で医師の増員がかなえられる病院はそう多くはないのではないかと思います。

また、令和は安倍内閣が進める「働き方改革」の法制化が実行に移される時代ともなります。しかし、ワークライフバランスという言葉が、まるでワークを減らしてライフとバランスをとるというふうに誤解されて流行し、働く時間を制限するのが善とする傾向がみられるのが気になります。ワークライフバランスとは私生活と仕事の調和という意味ですから、家庭を大切に私生活の安寧を保ち、心身を充実させることで仕事にやりがいを見出し、短時間で成果をあげることで私生活に使う時間も増えるということです。決して労働時間を制限することで目指せるものではありません。日本民族は平均的であることを良しとして右へ倣えをする習性がありますから、私生活も安定させながら自己研鑽のために長時間仕事をしようという人を異端視する風潮が生まれてくることを危惧します。それでは日本は衰退していくでしょう。特別に仕事のできる人を特別視せず、突出することを賞賛する社会にならないといけないと思います。

## 病院の沿革

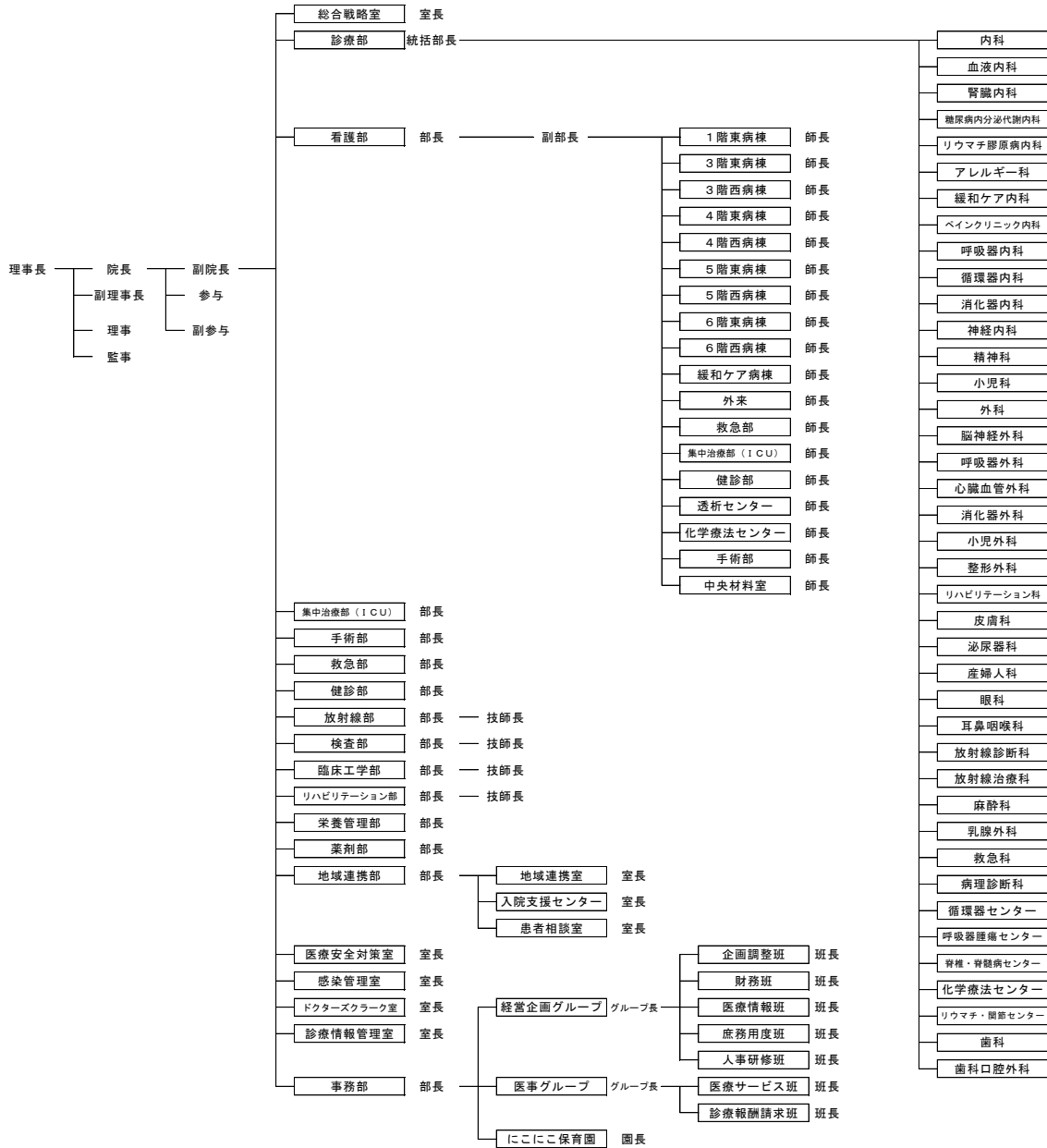
明治34年12月	赤間関市立高尾病院（伝染病院）開設
明治35年 6月	赤間関市から下関市に改称
大正15年 4月	下関市立高尾病院改築
昭和 8年 5月	下関市立診療所併設
昭和22年 8月	下関市立診療所を病院に改める。（名称は以前の名称を使用 医師5名）
昭和23年 6月	下関市立診療所小月分院開設
昭和23年 6月	日本医療団下関病院を買収、下関市立病院として発足
昭和25年 1月	下関市立中央病院 初代院長 常松順介就任
昭和25年 3月	下関市立高尾病院、下関市立診療所と下関市立病院を統合し、下関市立中央病院として発足（医師9名） 一般 53 床、結核 51 床、伝染 50 床、下関市立病院を下関市立中央病院付属新町診療所に改称（13 床）
昭和25年 6月	長府診療所設置
昭和25年10月	耳鼻咽喉科新設
昭和26年 1月	第2代院長 浜崎邦夫就任
昭和26年 4月	弟子待仮診療所設置
昭和26年 8月	新町診療所病室設置（6室9床）
昭和28年 3月	弟子待仮診療所廃止
昭和28年 6月	小月（14床）、長府（8床）隔離病舎廃止
昭和29年12月	小月診療所廃止
昭和30年10月	吉田、王喜伝染病院隔離病舎廃止
昭和31年 1月	長府診療所廃止
昭和32年 7月	伝染病院2階建（53床）増築
昭和33年 1月	新町診療所を増設、下関市立中央病院新町分院として開設（30床）、基準給食実施
昭和33年10月	基準給食、基準看護実施2類 本院 医師12名 看護婦36名 新町分院 基準看護実施2類 分院 医師3名 看護婦11名
昭和35年 3月	分院改築（2病棟）
昭和35年 7月	本院、分院保険医療機関指定、分院基準看護1類に変更
昭和36年 3月	新築（本院）190床（分院30床）、結核51床、伝染53床
昭和36年 8月	本院1類に変更（結核は2類）
昭和37年 4月	地方公営企業法の一部適用 結核44床に変更
昭和38年 1月	総合病院の名称使用許可（県）
昭和38年 4月	身体障害者福祉法に基づく指定（耳鼻科、眼科）

昭和38年11月	診療及び公衆衛生に関する実施修練病院の指定
昭和39年 4月	第3代院長 亀田五郎就任
昭和40年 1月	病院開設許可申請事項一部変更許可 一般 304 床、結核 36 床、伝染 53 床、合計 393 床、(76 床増床)
昭和40年 2月	救急病院指定 (救急専用優先病院 10 床)
昭和41年 3月	新町分院廃止
昭和41年 6月	健康保険法による基準寝具の実施について承認
昭和42年 3月	新館 150 床 (改築 74 床、増築 76 床) 増改築完成
昭和42年 4月	消化器科、循環器科、脳神経外科の3科を新設
昭和42年 9月	上田中町医師公舎 (16 戸) 完成
昭和44年 6月	人工腎臓室を設ける
昭和46年 3月	大学町医師公舎 (8 戸) 完成
昭和46年 4月	呼吸器科、神経精神科、理学診療科の3科を新設 19 科となる
昭和47年 5月	健康保険法による基準看護特類承認
昭和49年 7月	外科病棟 2 単位制実施
昭和49年 9月	内科病棟 2 単位制実施 病院用地取得 71.96 m <sup>2</sup> (向洋町 2 丁目 10-53)
昭和50年 2月	院内保育所開設 (にこにこ保育園運営委員会)
昭和50年 4月	健康保険法による基準看護甲表特2類承認 (結核、甲表2類) 診療科目 20 科となる。神経精神科を神経科、精神科に分ける。
昭和51年 4月	医師 30 名、医療技師 34 名、看護婦 195 名、事務 50 名、職員定数 309 名、病棟 2 - 8 体制実施
昭和52年 4月	医師 30 名、医療技師 35 名、看護婦 200 名、事務 50 名、職員定数 315 名
昭和54年 3月	呼吸器科外科、心臓血管外科、小児外科の3科を新設 23 科となる
昭和56年 1月	結核病床 36 床一般病床へ転床
昭和56年 7月	特定病床 15 床承認
昭和59年 5月	移転改築に係る新病院開設許可 (一般 430 床・伝染 30 床)
昭和60年 4月	第4代院長 四宮 衛就任
昭和61年 3月	新病院建設起工式
昭和63年 3月	新病院完成
昭和63年 4月	新病院における診療開始 (一般 430 床のうち 377 床・感染症 30 床)
平成元年 4月	第5代院長 徳永正晴就任
平成元年 4月	閉鎖部分の一般 53 床の診療開始
平成元年 6月	内科外来の予約診療制実施
平成元年 8月	登録医制度実施
平成元年 9月	基準看護 (特3類) 一般 6 棟 212 床、(特2類) 一般 248 床承認
平成 2年 7月	外科、整形外科外来の予約診療制実施
平成 4年 4月	臨床研修病院の指定
平成 4年 6月	基準看護 (特3類) 一般 7 棟 265 床、(特2類) 一般 195 床変更承認
平成 4年10月	外来全科の予約診療制実施
平成 5年 4月	週休 2 日制導入
平成 5年 7月	人間ドック受診者ホテル宿泊実施

平成 6年10月	中華人民共和国青島市市立医院と友好病院締結
平成 7年 6月	新看護（2対1看護A）体制実施 11単位 460床
平成 7年 7月	入院時食事療法特別管理加算実施
平成 8年 4月	第6代院長 赤尾元一就任 夜間勤務看護加算実施
平成 8年 6月	MR棟（増築）完成
平成 8年 7月	MRを更新、CTを増設する。又、脳ドック、肺癌ドックを創設
平成 9年 2月	理学療法科をリハビリテーション科へ診療名を変更し歯科口腔外科を追加し 24科に
平成 9年 3月	透析センター（増築）完成 外来駐車場を40台分増設 旧NHK下関支局局舎取得
平成 9年 6月	新病院開設10周年記念講演会開催
平成10年 3月	新病院開設10周年記念誌発行
平成10年 4月	災害拠点病院の指定
平成10年10月	病院情報システム導入委員会の設置
平成11年 3月	心臓部血管連続撮影装置更新 無菌室完成
平成11年 4月	感染症医療機関（感染症2類）の指定 感染症病床数30床から6床へ減床 感染症病棟を1階東病棟へ変更（一般9床、感染症6床）
平成11年11月	中央採血室増築工事開始 1階東病棟へ普通個室4室増加
平成12年 3月	中央採血室増築工事完成 多目的血管連続撮影装置更新
平成12年10月	病院情報システム稼動（一次）
平成13年 3月	病院情報システム稼動（二・三次）
平成13年 4月	第7代院長 小柳信洋就任 外科、整形外科外来の予約診療制実施 院外処方開始
平成14年 4月	蓋井島診療開始
平成15年 1月	病院機能評価受審（平成15年8月認定）
平成16年 3月	救急センター改修（外来化学療法室の設置）
平成17年10月	CT更新（64列マルチスライス）
平成18年 4月	看護職員配置基準 10対1体制（制度変更による）
平成18年 8月	地域がん診療連携拠点病院の指定
平成20年 2月	ESCO事業供用開始（ESCO事業：下関市立中央病院省エネルギー化事業）
平成20年 3月	リニアック室増築完成、リニアック装置更新
平成20年 6月	病院機能評価（Ver5.0）受審（平成20年8月認定）
平成23年 2月	電子カルテシステム稼動
平成23年 3月	地方独立行政法人下関市立市民病院定款議決
平成23年12月	地方独立行政法人化関連条例議決

平成24年 2月	法人認可取得
平成24年 4月	地方独立行政法人下関市立市民病院設立（下関市立市民病院開設） D P C 準備病院、医療費預かり金制度開始
平成25年 3月	クレジットカード払制度開始 病棟改修工事（病室、デイルーム等）開始
平成25年 7月	コンビニエンスストア（ローソン）オープン
平成25年11月	I C U 10 床運用開始
平成25年12月	病棟改修工事（病室、食堂デイルーム等）完成
平成26年 6月	一般病棟入院基本料 7 対 1 入院基本料算定開始
平成26年 8月	地域医療センター（仮称）建設工事安全祈願祭 リハビリテーションセンター（改築）完成
平成27年 3月	地域がん診療連携拠点病院の指定終了 院内改修工事（薬剤部、健診センター他）開始
平成27年 4月	第 8 代院長 田中雅夫就任
平成27年10月	地域医療センター（仮称）建設工事完成
平成27年11月	新館にて化学療法センター12 床、透析センター32 床、医局の運用開始
平成28年 3月	病院機能評価(3rdG:Ver. 1. 1)受審（平成 28 年 6 月認定）
平成28年 4月	D P C 対象病院移行
平成28年 5月	健診センター開設
平成28年 7月	緩和ケア病棟 20 床開設
平成28年 8月	緩和ケア病棟入院料算定開始（20 床）
平成28年10月	地域包括ケア病棟入院料算定開始（54 床） 栄養相談室改修
平成28年11月	救急センター改修
平成28年12月	生理検査室改修
平成29年 2月	地域医療支援病院の承認
平成29年 5月	入院支援センター開設 中央採血室改修
平成29年 6月	内視鏡室・3 階西病棟改修
平成29年 7月	診察室、医療機器室改修
平成29年11月	サーバー室増設
平成30年 3月	電子カルテシステム更新 C T 更新（64 列マルチスライス）
平成30年 7月	番号表示システム導入
平成30年10月	入院支援センター増設

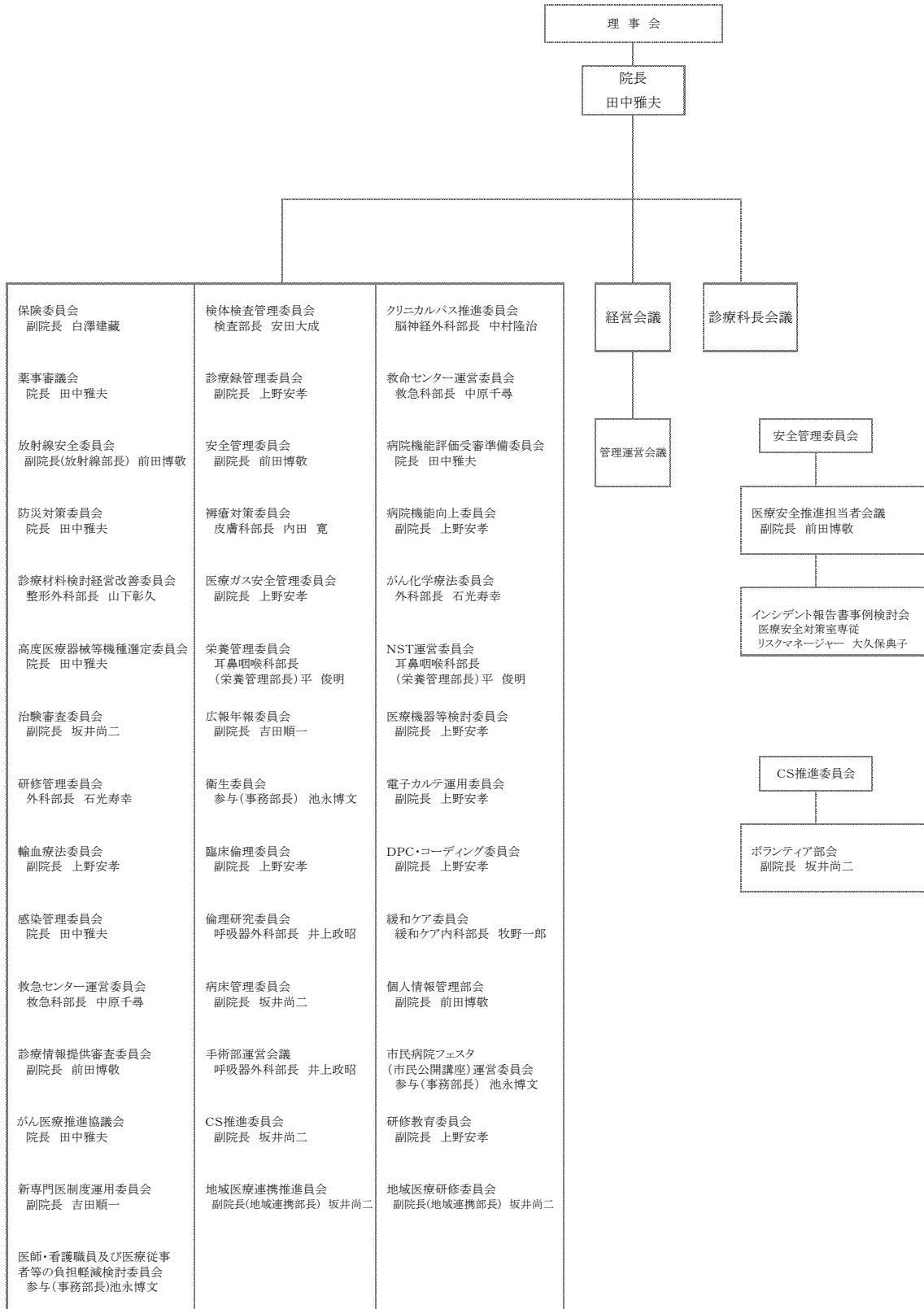
# 下関市立市民病院組織図



(平成 31 年 4 月 1 日 現在)



# 委員会組織図



(平成 31 年 3 月 31 日 現在)

## 内科・リウマチ膠原病内科

### 【スタッフ】

大田 俊一郎 医長 日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医

### 【診療】

市内唯一のリウマチ専門医常勤施設として、関節リウマチや全身性エリテマトーデスをはじめ下記のような様々な難治性自己免疫疾患の診察・診療を行いました。2015年度より地域連携をより重要視し、院内開催の地域連携のための研究会を立ち上げました。2019年3月時点で計8回開催し、この4年間で多くの先生にご参加いただきました。紹介・逆紹介ともに著明に増加しています。

また2015年度より関節超音波検査を行う体制を構築しましたが、年々症例数も増加しており、関節疾患の鑑別、治療評価に役立っています。

### 【外来診療実績】（平成30年度）

関節リウマチ	370名	強皮症	79名
リウマチ性多発筋痛症	56名	混合性結合組織病	13名
RS3PE（自然治癒傾向のある、圧痕、浮腫を伴う血清反応陰性の対称性滑膜炎）症候群	13名	血管炎症候群	35名
悪性関節リウマチ	3名	Behcet病	13名
若年性関節リウマチ	2名	Sjogren症候群	71名
脊椎関節炎	13名	サルコイドーシス	8名
SAPHO（滑膜炎、ざ瘡、膿疱症、骨化過剰症、骨尖）症候群	4名	成人発症 Still病	5名
全身性エリテマトーデス	66名	IgG4関連疾患	4名
多発性筋炎・皮膚筋炎	19名		

【生物学的製剤使用実績】（平成 30 年度；2019 年 3 月時点で使用中のみ）

薬剤名	例数
抗 TNF $\alpha$ 阻害薬	
レミケード	9 例
エンブレル	9 例
ヒュミラ	7 例
シンポニー	16 例
シムジア	6 例
抗 IL-6 受容体阻害薬	
アクテムラ	39 例
ケブザラ	1 例
抗 CTLA4 抗体	
オレンシア	30 例
JAK 阻害薬	
ゼルヤンツ	8 例
オルミエント	4 例
抗 BAFF 抗体	
ベンリスタ	7 例
計	136 例

# 血液内科

## 【スタッフ】

久保 安孝 医長 日本内科学会 認定内科医  
日本血液学会 血液専門医

## 【概要】

血液内科は火曜日と木曜日に外来診療を行っています。血液疾患は症状に乏しく、検査で見つかることが多いです。血液という特殊な専門の立場から下関の医療に貢献したいと考えています。

## 【診療実績】

入院疾患件数（平成 30 年 1 月～12 月）

非ホジキンリンパ腫	38
多発性骨髄腫	26
非濾胞性リンパ腫	22
ホジキンリンパ腫	17
濾胞性リンパ腫	17
骨髄性白血病	14
血液および造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8
成熟 T/NK 細胞リンパ腫	5
T/NK 細胞リンパ腫	4
リンパ性白血病	4
悪性免疫増殖性疾患	4
骨髄異形成症候群	4
その他	51
合 計	214

# 腎臓内科

## 【スタッフ】

坂井 尚二      中村 亜輝子      田中 洋澄      佐藤 憲仁（4月～10月勤務）

## 【概要】

平成 30 年 10 月佐藤医師退職後は、3 名体制で診療にあたりました。診療活動は腎疾患や透析療法を中心とした専門内科として診療活動を行っています。専門内科のない呼吸器疾患や糖尿病のコントロールや治療、多臓器にわたる重症疾患に対して救急対応など総合内科としての治療も多く担当しています。日常診療だけでなく教育面では、研究会・学会での発表をコメディカルと共に行い、研修医の指導にも力を注いでいます。

糖尿病をはじめ生活習慣による疾患、超高齢社会を反映して高齢者の慢性腎不全が増加しています。そのため福祉介護支援の重要性が増し、多職種で地域包括ケアに対応しています。特に血液透析では福祉介護スタッフによる通院援助、在宅治療である腹膜透析（CAPD）では訪問看護師の協力など、多職種連携し地域で医療を看る体制づくりを行っています。

慢性腎臓病（CKD）の治療については全身疾患の一環として診るよう心がけており、早期診断・治療、予防には、患者さまやかかりつけ医への啓蒙活動も腎臓内科の重要な責務と考えています。そのためにも病診連携に力を入れ、紹介の患者さまには個別の栄養指導を受けていただき満足度向上をはかっています。実際の診療の場では看護師、薬剤師、臨床工学技士、管理栄養士などのコメディカルとの協力を密にして高品質な治療をめざしています。

透析センターでは、個々の患者さまの病態に応じた治療ができるよう心がけています。

入院・外来維持透析の他に、種々の分野で必要となる急性血液浄化療法に対しても透析センター並びに ICU にて対応しています。

## 【診療】

外来は週 4 日（火・水・金曜日午前、木曜日午前・午後）ですが、急性疾患や緊急時、院内外からの紹介には常時対応しています。透析センターでは、32 床を月・水・金曜日に午前・午後の 2 クール、火・木・土曜日は原則午前の 1 クールで運営し、常時約 100 名の患者さまが血液透析を受けています。また総合病院の使命として他の透析施設から各科に入院となる患者さまを積極的に受け入れています。整形外科・脳疾患はもとより、心・下肢血管のインターベンション治療目的の循環器疾患の患者さまが増加しています。

また、在宅治療である腹膜透析（CAPD）の導入も行っています。腎疾患はできるだけ腎生検を施行し、EBM に基づいて専門的治療を行うようにしています。IgA 腎症に対しては症例により扁桃腺摘出術ならびにステロイドパルス療法を積極的に行い、腎炎の改善、寛解に取り組み、寛解例をはじめ良好な成績をあげています。

最近が高齢者の急速進行性腎炎の代表である ANCA 関連腎炎が増加傾向にあります。遺伝性疾患である多発性嚢胞腎（ADPKD）も新たな薬物治療（バゾプレッシン V2 受容体拮

抗薬：トルバプタン) に取り組んでおり、腎嚢胞の増大を抑制し腎機能障害の進行抑制に取り組んでいます。

慢性腎不全の予防や治療に密接な関連のある高血圧、心不全、糖尿病の治療は、専門医との連携をはかり、特に食事治療の重要性から栄養指導、自己管理指導を保存期より積極的に行い、患者さまだけでなく紹介先の先生方の期待に応えるよう努めています。末期腎不全の腎代替療法（腎移植、血液透析、腹膜透析）については、透析センターにて腎代替療法選択外来で対応し、個別に説明しています。慢性腎臓病（CKD）の早期発見には、検診での尿異常など一般医と腎専門医との連携が必要です。特に高齢者は潜在的に腎機能低下を有しているため、わずかな誘因で急速に腎機能低下を招く危険性があり、早期診断・治療には今後とも病診連携を深めて治療にあたっていく必要があると考えています。

【入院患者統計】（平成 30 年度）

病 名	慢性腎不全	121
	急性腎不全	10
	慢性腎炎・ネフローゼ症候群	35
	電解質異常	6
	尿路感染症	18
	心不全	17
	糖尿病・糖尿病腎症	12
	シャントトラブル	103
	呼吸器感染症	48
	その他	50
	総症例数	420
治 療	内シャント造設術	56
	CAPD 手術	3
	PTA	107
	経皮的腎生検	12
	血漿交換療法	18
	血球成分除去療法	11
	腹水濾過濃縮再静注法	25
	持続的血液透析濾過	22
	総件数	254

【業績集】

<学会・研修会>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.6.29 ~7.1	頸部の感染のため急速に呼吸困難を生じた86歳の透析患者の一例	田中洋澄 <sup>1)</sup>	齊藤雄一 <sup>2)</sup> 前田大登 <sup>3)</sup> 中村重輝子 <sup>1)</sup> 平俊明 <sup>2)</sup> 坂井尚二 <sup>1)</sup>	第63回日本透析医学会学術集会・総会	神戸国際会議場・ワールド記念ホール
2018.6.29 ~7.1	シャント閉塞、感染をきたした患者の止血について	海野智枝 <sup>4)</sup>	市川智春 <sup>4)</sup> 松本和美 <sup>4)</sup> 行壽元子 <sup>4)</sup> 村田由紀 <sup>4)</sup> 鈴木雄揮 <sup>5)</sup> 中村重輝子 <sup>1)</sup> 田中洋澄 <sup>1)</sup> 坂井尚二 <sup>1)</sup>	第63回日本透析医学会学術集会・総会	神戸国際会議場・ワールド記念ホール
2018.6.29 ~7.1	血液透析患者におけるrSO <sub>2</sub> の検討	三田井盛将 <sup>5)</sup>	藤田忍 <sup>5)</sup> 前田友美 <sup>5)</sup> 鈴木雄揮 <sup>5)</sup> 佐々木毅 <sup>5)</sup> 前田大登 <sup>3)</sup> 吉村潤子 <sup>6)</sup> 坂井尚二 <sup>1)</sup>	第63回日本透析医学会学術集会・総会	神戸国際会議場・ワールド記念ホール
2018.7.24	当院における最近の不整脈治療	坂井尚二 <sup>1)</sup> (座長)		循環器疾患と糖尿病学術講演会	東京第一ホテル下関
2018.7.24	糖尿病治療と脂肪肝・肝がん	坂井尚二 <sup>1)</sup> (座長)		循環器疾患と糖尿病学術講演会	東京第一ホテル下関
2018.10.2	日本人2型糖尿病の患者背景から個別化治療を考える	坂井尚二 <sup>1)</sup> (総合司会)		日常診療に役立つ糖尿病勉強会	下関市立市民病院
2018.10.30	遺伝カウンセリングから繋げる診療	坂井尚二 <sup>1)</sup> (座長)		下関地区腎疾患診療連携講演会	下関市立市民病院
2018.10.30	透析患者のQOL向上を目指して～拡大するカルニチンワールド～	坂井尚二 <sup>1)</sup> (座長)		下関地区腎疾患診療連携講演会	下関市立市民病院

2018.11.3~4	ポスターセッション 23 急性腎不全・腎炎・ネ フローゼ・その他①	坂井尚二 <sup>1)</sup>		第 27 回中国 腎不全研究 会学術集会	広島国際 会議場
2018.12.2	透析導入時に粟粒結核 を発症した症例	中村亜輝子 <sup>1)</sup>	田中洋澄 <sup>1)</sup> 吉村潤子 <sup>6)</sup> 坂井尚二 <sup>1)</sup> 立田穂那実 <sup>7)</sup> 大田俊一郎 <sup>8)</sup> 原田由紀子 <sup>9)</sup> 吉田順一 <sup>10)</sup>	第 51 回九州 人工透析研 究会総会	SHIROYAMA HOTEL kagoshima
2019.1.24	作用臓器として診た腎臓	坂井尚二 <sup>1)</sup> (座長)		下関腎と高 血圧講演会	下関グラン ドホテル

腎臓内科<sup>1)</sup> 耳鼻咽喉科<sup>2)</sup> 前田内科<sup>3)</sup> 看護部<sup>4)</sup> 臨床工学部<sup>5)</sup> 吉村内科<sup>6)</sup> 研修  
医<sup>7)</sup> リウマチ膠原病内科<sup>8)</sup> 内科<sup>9)</sup> 呼吸器外科<sup>10)</sup>



# 緩和ケア内科

## 【スタッフ】

牧野 一郎 緩和ケア内科部長

関 千尋 緩和ケア内科医長

## 【概要】

平成 30 年の緩和ケア内科の活動をご報告します。

緩和ケア内科の診療は、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟の 3 部門から構成されています。

緩和ケア外来は週 1 回・金曜日(急を要する場合は随時)に診療を行っています。市内はもとより県外からも紹介をいただいております、昨年はのべ 300 名余りの患者さまが受診されました(図 1、図 2)。それぞれの患者さまにできるだけの時間を取り丁寧な診療を行うよう心がけています。緩和ケア病棟入院相談のための初診の患者さまのほか、必要に応じて再来の患者さまも診療しています。

緩和ケアチームは多職種からなる専門家集団であり、当院の一般病棟に入院されているがん患者さまの様々な苦痛(肉体的のみならず精神的、社会的、霊的など)を緩和するための活動を行っています。

緩和ケア病棟はがん患者さまの最後の砦です。平成 28 年 7 月の開設から 3 年余りが経ち、病棟運営も軌道に乗ってきました。院内外を問わず、幅広い領域の患者さまの診療・ケアを行っています(図 3、図 4)。緩和ケア病棟では根治手術や抗がん剤などの抗がん治療は行いませんが、がんに伴う症状の改善を中心にできるだけ長い間体調を維持していただくことを目標に診療を行っています。在宅復帰も視野に入れており、最近では体調を回復して自宅に退院する患者さまの数も増えてきました(入院患者さまの約 15%)。

緩和ケア病棟=後がない、とっておられた患者さまやご家族の方々から「来てよかった」とのお言葉をいただいております。

(図1) 外来患者数(初診+再診)



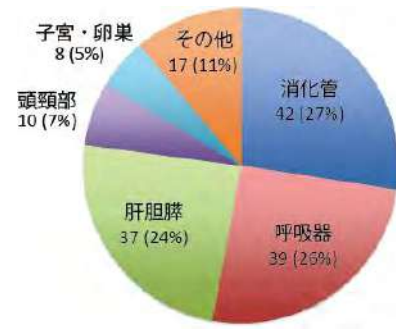
(図2) 外来初診患者数



(図3)入院患者数



(図4)原発部位別緩和ケア病棟入院患者数



## 【診療実績】(平成30年1月～平成30年12月)

緩和ケア外来	のべ外来患者数 320名(前年比+33名)	
緩和ケアチームラウンド	146名(前年比+15名)	
緩和ケア病棟診療概要	入院患者数	153名(前年比+28名)
	平均年齢	75.9歳(40歳～96歳)
	性別	男性:86名 女性:68名
	平均在院日数	37.4日(2～159日)

## 【業績集】

&lt;発表&gt;

開催年月日	演題名	演者	学会名	場所
2018.1.26	特別講演	牧野一郎 [座長]	第8回下関チーム医療緩和ケア懇話会	海峡メッセ 下関 (下関市)
2018.5.9	症例検討	牧野一郎	院内緩和ケアカンファレンス	下関市立 市民病院
2018.5.13		牧野一郎 [世話人]	第48回山口県緩和ケア研究会	徳山中央病院 (周南市)
2018.6.18	講演 「癌性疼痛コントロール」	牧野一郎	第一三共緩和ケア研修会	下関市生涯学習プラザ (下関市)
2018.6.20	講演 「地域の緩和ケア病棟と在宅医の連携により希望する自宅での看取りが実現した舌癌事例」	牧野一郎	第15回宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会	山口大学医学部附属病院 (宇部市)
2018.9.14		牧野一郎 [企画責任者、特別講演座長]	第9回下関チーム医療緩和ケア懇話会	下関市立市民病院

2018.9.14	講演「施設間で異なる鎮静に関する比較検討」	関千尋	第9回下関チーム医療緩和ケア懇話会	下関市立市民病院
2018.10.28		牧野一郎 [世話人]	第49回山口緩和ケア研究会	山口県教育会館 (山口市)

## ペインクリニック内科（疼痛外来）

ペインクリニックは多種多様な痛みの治療相談に応じる外来です。

特に難治性とされる神経そのものの損傷や機能異常で起こる痛みに対しての相談に力を入れています。最近は多くの種類の鎮痛薬が開発され治療成績も向上しつつあります。

当外来では患者さまと粘り強く治療を進めてゆくことを心がけています。

近年、痛みの治療において漢方薬の効果も確認され、当外来においても積極的に応用し、確かな治療成績を認めています。

### 【担当医】

藤原義樹（日本麻酔科学会麻酔科専門医）

### 【対象とする疾患】

帯状疱疹後神経痛

三叉神経痛

腰痛

偏頭痛

難治性の腰痛

線維筋痛症など

### 【診察日時】

毎週 月曜日、水曜日、金曜日（午前 11 時まで受付）

### 【診療実績】

平成 30（2018）年は新患数 108 名でかなりの増加でした。

内訳は帯状疱疹後痛が 50 例、腰椎症を含む腰下肢痛が 13 例、三叉神経痛を含む顔面痛 14 例、頭痛・頸部痛 9 例、頸肩腕症候群などによる上肢の痛み 6 例、胸壁痛 8 例、癌性疼痛 4 例などとなっています。他に心因性の疼痛や線維筋痛症などがあります。

治療方法としてトリガーポイント注射、硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、キセノン光照射などの手技のほか、各種鎮痛薬、漢方薬などを併用しています。

近年、外来における神経ブロック（注射）が減少傾向ですが、疼痛管理のための内服薬の効能が向上しており、注射に頼らなくとも疼痛治療、管理が可能となってきています。

慢性の難治性疼痛に対する麻薬の貼付薬の処方が可能です。

近年、慢性の疼痛に対応する科が少ない関係上当科への紹介が激増しており、今後も増加が見込まれます。

## 【主な疾患とその症状】

### 帯状疱疹後神経痛：

帯状疱疹は水疱ができて皮膚科で治療を開始しますが、それが治癒した後も、その部分にピリピリと走る痛みが続く場合をいいます。通常の“鎮痛薬”は無効なことが多く、特殊な薬剤が必要です。可能なら神経ブロックも行います。

### 頭痛：

頭痛には痛み方によりいくつかの診断があります。ドクドクと拍動するのは偏頭痛、目の周りがえぐられるように痛むのは群発頭痛、頭全体が締め付けられるように痛むのは緊張性頭痛、などです。脳の検査で異常がなく、たびたびの頭痛が起こる場合は、詳しく問診して適切な処方で行くことが多いです。

### 三叉神経痛：

世間で言うところの“顔面神経痛”のことです。目の周り、鼻の横、顎などに食事、歯磨き、ひげそりなどで誘発されるピリピリと電気が走るような痛みのことです。脳の検査も必要ですが、異常がなくて起こる方が多いです。

### 線維筋痛症：

原因不明の長引く全身痛です。あらゆる検査をしても“原因不明”の場合、その可能性があります。慢性化しているためうつ状態が加味されていることも多いです。通常の痛み止めはなかなか効果がありません。

## 循環器内科

### 【スタッフ】

金子 武生	部長	日本循環器学会循環器専門医
安田 潮人	医長	日本循環器学会循環器専門医
辛島 詠士	医長	日本循環器学会循環器専門医
與田 俊介	医師	日本循環器学会循環器専門医
梶山 渉太	医師	平成 30 年 9 月 30 日まで当院勤務
有馬 岳史	医師	平成 30 年 10 月 1 日より当院勤務

### 【概要】

昨年に引き続き 5 名態勢で診療に当たりました。10 月より梶山医師の交代で有馬医師が赴任しました。

冠動脈形成術、下肢血管形成術は昨年とほぼ同数、カテーテルアブレーション症例数は増加しました。

### 【診療実績】（平成 30 年 1 月～平成 30 年 12 月）

1 日平均外来患者数は 29.2 名（前年+3.3 名）、年間入院総数は 840 名（前年+40 名）でした。

心臓カテーテル検査（PCI 含まず）	449 件	合併症	成功率
冠動脈形成術（PCI）	170 件	4 例	96%
緊急 PCI（急性心筋梗塞など）	40 件	0 例	100%
待機 PCI	130 件	4 例	95%
カテーテルアブレーション	32 件	0 例	97%

下肢等末梢血管造影（EVT 含まず）	64 件	合併症	成功率
下肢等末梢血管動脈形成術（EVT）	170 件	3 例	94%

ペースメーカー植込術	計 36 件	
	新規	31 件
	交換	5 件

【業績集】（平成 30 年 1 月～平成 30 年 12 月）

<学会発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.2.22	Iliac Compression Syndrome	辛島詠士	梶山渉太 與田俊介 安田潮人 金子武生	JET2018	大阪市ナレッジ キャピタルコングレ コンベンションセ ンター
2018.2.23	Lesion Modification by Scoring/Cutting Balloon	辛島詠士	梶山渉太 與田俊介 安田潮人 金子武生	JET2018	大阪市ナレッジ キャピタルコングレ コンベンションセ ンター
2018.2.24	Can We Get Good Vessel Preparation by Three Time Inflation of NSE PTA?	辛島詠士	梶山渉太 與田俊介 安田潮人 金子武生	JET2018	大阪市ナレッジ キャピタルコングレ コンベンションセ ンター
2018.6.3	当院における心不全入院期間に対するトルバプタン関与の検討	辛島詠士	梶山渉太 與田俊介 安田潮人 金子武生	第 112 回日本循環器学会中国・四国合同地方会	広島国際会議場
2018.6.16	Preparation Should do with Scoring Balloon	辛島詠士	梶山渉太 與田俊介 安田潮人 金子武生	LEVEL5	大阪市ブリーゼプラザ小ホール
2018.8.2	NSE PTA で Vessel Prep の真髄に迫る	辛島詠士	梶山渉太 與田俊介 安田潮人 金子武生	第 27 回日本心血管インターベンション治療学会	神戸国際会議場
2018.11.10	大動脈弁置換術後に発症したベラパミル感受性心室頻拍のアブレーション	安田潮人	有馬岳史 與田俊介 辛島詠士 金子武生	カテーテルアブレーション関連 秋季大会 2018	沖縄コンベンションセンター
2018.11.23	半端ない合併症～起こるんなら言うといてや～	辛島詠士	有馬岳史 與田俊介 安田潮人 金子武生	ARIA2018 EVT シンポジウム 5	福岡市電気ビル共創館

<研究会発表>

開催年月日	演題名	演者	学会名	場所
2018.1.28	下肢動脈治療への取り組みと下関の現状	辛島詠士	フットケアの日 2018 in 下関	海峡メッセ 国際会議場

2018.2.23	末梢動脈疾患における積極的脂質低下療法	辛島詠士	PCSK9 Round Table Discussion in JET2018	ホテルグランヴィア大阪
2018.5.10	石灰化で悩んでいます	辛島詠士	FOOT 12 <sup>th</sup> Meeting	ホテルクラウンパレス小倉
2018.6.7	最近気がついたリバロの使いやすさ	辛島詠士	下関循環器研究会	東京第一ホテル
2018.7.13	糖尿病管理を考慮した動脈硬化治療戦略～ゼロから始めた下肢動脈治療	辛島詠士	第2回生活習慣病ケア講演会	湯田温泉タベルホテル松政
2018.7.17	地域包括ケアを踏まえた心不全診療に挑む	辛島詠士	下関地区循環器疾患講演会	東京第一ホテル
2018.7.24	当院における最新の不整脈治療	安田潮人	循環器疾患と糖尿病学術講演会	東京第一ホテル
2018.11.26	ノコリタキセルのハジマリ～残り物には福がある～	辛島詠士	DCB meets POBA Summit in Yamaguchi	山口グランドホテル



# 消化器内科

## 【スタッフ】

具嶋正樹、澤野美由紀、大石篤美

\*平成30年3月で山口敦、村田征喜が退職、同年4月より澤野美由紀、大石篤美が就任しました。

## 【概要】

消化管領域を中心に、腫瘍や炎症性腸疾患などの消化器疾患全般に関する診断・治療にあたっています。

食道癌・胃癌に対しての内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を導入しており、ガイドラインに沿った加療を行っています。NBI 併用拡大内視鏡検査や超音波内視鏡（EUS）検査、消化管造影検査などを駆使し、消化管癌・消化管粘膜下腫瘍などの病変範囲・深達度診断を行い、治療方針を決定しています。その他、内視鏡的大腸ポリープ切除、胃瘻造設や消化管出血、異物除去などの内視鏡的処置も数多く実施しています。昨年度に内視鏡室が改装され、より快適な空間で、円滑に内視鏡検査、治療を行えるようになりました。

また、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に関しては、近年症例が多く集まるようになり、病状に応じて免疫調整剤や白血球除去療法、抗 TNF $\alpha$  抗体製剤なども適宜併用し治療を行っています。

外科的加療の必要な消化器疾患については、当院外科と密に連携を取りながら適切な加療が円滑に行えるよう心がけています。

（尚、肝疾患に関しては肝臓専門医が不在のため、専門的な処置、診療を必要とする場合は他院の専門医と連携し診療を行っています。）

## 【診療実績】（平成30年1月～12月）

### <内視鏡検査数>

上部消化管内視鏡検査	3,528 件
大腸内視鏡検査	917 件
超音波内視鏡検査	41 件
上部消化管内視鏡的粘膜切除術（EMR）・ポリープ切除術	2 件
上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	22 件
下部消化管内視鏡的粘膜切除術（EMR）・ポリープ切除術	184 件
下部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	4 件
内視鏡的消化管止血術	83 件
内視鏡的バルーン拡張術	8 件
内視鏡的ステント挿入術	2 件
内視鏡的異物除去術	10 件

胃瘻造設・交換	27件
---------	-----

<入院診療疾患>

食道癌	3	食道静脈瘤	7
食道良性疾患	7	胃癌	24
胃ポリープ	1	出血性胃十二指腸潰瘍	33
上部消化管出血	4	その他胃十二指腸良性疾患	13
大腸癌	13	大腸ポリープ	157
腸閉塞	24	下部消化管出血（大腸憩室出血など）	41
虚血性腸炎	21	結腸憩室炎	6
感染性腸炎	25	S状結腸軸捻転	1
クローン病	8	潰瘍性大腸炎	7
その他小腸大腸良性疾患	15	急性肝炎	2
肝硬変	3	急性膵炎	11
急性胆嚢炎	15	急性胆管炎	19
肝胆膵悪性腫瘍	1	その他肝胆膵良性疾患	5
腹膜炎	3	貧血	9
肺炎	42	その他内科疾患	67

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.2.15	循環器内科医はボノプラザンの適応をどう考えているか	具嶋正樹 (座長)		下関医師会学術講演会	東京第一ホテル 下関
2018.9.27	潰瘍性大腸炎におけるシンポニーの位置付け	具嶋正樹 (座長)		下関 IBD meeting	下関グランドホテル

# 小児科

## 【スタッフ】

常勤医師：河野 祥二 岡崎 咲栄

非常勤：大賀 由紀（医師） 綿野 友美（医師） 永田 良隆（医師）  
河原 典子（医師） 東 良紘（医師） 鮎川 淳子（臨床心理士）

## 【診療実績】

### I 外来実績

#### (1) 外来総数

	延患者数	新患者数	紹介件数	1日平均	健診	定期予防接種	おたふくかぜ	ロタウイルス
1月	394	63	25	20.7	14	54	3	5
2月	353	47	21	18.6	8	56	5	6
3月	465	74	32	22.1	12	65	7	7
4月	400	69	49	20.0	12	48	4	5
5月	403	64	27	19.2	10	50	5	5
6月	349	58	27	16.6	10	44	9	3
7月	435	66	50	20.7	8	66	10	8
8月	493	71	47	21.4	12	79	6	11
9月	343	50	37	19.1	13	56	1	2
10月	370	54	40	16.8	6	50	5	7
11月	354	59	38	16.9	4	44	4	4
12月	395	53	39	20.8	5	36	5	2
合計	4,754	728	432	19.4	114	648	64	65

インフルエンザの予防接種：124

#### (2) 専門外来

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アレルギー外来 (永田医師)	56	51	78	56	36	47	47	63	47	31	33	45	590
小児心身症外来 (大賀医師)	38	32	55	38	33	31	25	47	25	23	22	33	402
小児神経外来 (綿野医師)	27	25	41	27	43	22	35	45	35	28	31	30	389

II 入院実績（入院疾患別分類）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
上気道炎 (咽喉頭炎・扁桃炎)	4	3	1	2	2	2	3	2	3	6	1	1	30
気管支炎	1	0	1	1	0	1	2	0	0	3	2	2	13
肺炎	1	0	2	5	3	3	1	3	3	3	0	5	29
インフルエンザ	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
アデノウイルス扁桃炎	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
RSウイルス感染症	3	4	2	0	1	0	5	12	9	1	2	2	41
マイコプラズマ感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
ロタウイルス胃腸炎	0	0	1	5	2	0	0	0	0	0	0	1	9
感染性胃腸炎 (含ノロウイルス)	1	1	2	0	4	0	1	0	0	2	7	0	18
気管支喘息	1	0	0	1	0	2	7	2	1	0	1	2	17
喘息性気管支炎	0	0	0	0	1	0	3	1	2	0	0	1	8
食物アレルギー (負荷試験)	1	1	1	1	1	1	0	2	0	1	3	1	13
熱性けいれん	0	0	1	0	1	1	3	1	1	0	0	1	9
未熟児新生児疾患	2	3	5	3	4	4	2	3	1	0	0	0	27
川崎病	1	1	1	1	3	0	2	0	1	0	2	2	14
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
X連鎖無ガンマグ ロブリン血症	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	13
体重増加不良・ 低身長	1	1	2	0	0	0	3	6	0	1	0	0	14
検査入院・社会的 入院	0	1	2	2	1	2	0	0	0	0	1	1	10
小 計													272
IgA 血管炎 5 例、伝染性単核症 2 例、急性中耳炎 3 例、突発性発疹 4 例、膿痂疹・SSSS(疑い) 3 例、(慢性)ITP 4 例、起立性調節障害・片頭痛・摂食障害等 8 例、けいれん発作・てんかん 9 例、尿路感染症 15 例、ヒトメタニューモウイルス感染症 16 例、胃腸炎関連けいれん 2 例、サイトメガロウイルス感染症等 4 例、細菌性／カンピロバクター腸炎 8 例、腸重積・急性虫垂炎他消化器疾患 8 例、大腿骨骨髓炎・蜂窩織炎 2 例、アナフィラキシー 1 例、ホルネル症候群 1 例、急性白血病 1 例、筋ジストロフィー(疑) 1 例、組織球性壊死性リンパ節炎 1 例													98
合 計													370

【業績集】

<学会発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.6.13	左耳下腺が腫脹した 2例	岡崎咲栄 河野祥二		第54回下関小児 疾患カンファレ ンス	下関市立 市民病院
2018.7.1	当院において伝染性単 核症あるいはEBウイル ス感染症と診断した症 例の臨床的検討	岡崎咲栄		第132回日本小 児科学会山口地 方会山口県小児 科医会総会	ANA ク ラウンプ ラザホテ ル宇部
2018.10.10	最近経験したエンテロ ウイルス D68 感染症の 2例	岡崎咲栄 河野祥二		第55回下関小児 疾患カンファレ ンス	下関市医師 会会議室
2018.10.31	講演 1	河野祥二 [座長]		感染制御セミナ ーIN 下関	東京第一ホ テル下関
2018.12.16	当科で治療中の中枢 性思春期早発症 7 例 の治療方針	岡崎咲栄	河野祥二	第133回日本小 児科学会山口地 方会	山口大学医 学部第3講 義室

<論文>

発表年	表題	著書等	雑誌・巻・ページ
2018	重症心身障害者施設における抗菌薬サイク リング療法の有効性の検討	岡崎咲栄 他病院医師	脳と発達 50 (6) 441-442

# 外科

## 【概要】

平成 30 年 (2018) 1~12 月

本年は、外科スタッフとしてかつて当院に在籍していた持留直希医師が九州大学大学院医学系学府（形態機能病理分野）での 4 年間の課程を修了し、5 年ぶりに復帰してくれました。最新の知識を糧にして大いにはばたいてもらいたいものです。呼吸器外科は岡壮一医長、本多陽平医師の赴任で医師が一名増え、吉田順一副院長、井上政昭部長以下四名体制となりました。また緩和ケア内科には山口宇部医療センターより関千尋医師が赴任し、牧野部長と二名体制となっています。同医師は緩和医療だけでなく化学療法にも積極的に関わってくれています。本年は外科専門医を新たに取得した医師はありませんでした。

スタッフの布陣も充実し、救急、外科手術、化学療法、緩和医療にいたるがん治療のすべてを担っております。患者さまにとって安全で質の高い外科診療を目指し、日夜、研鑽と教育に勤しんでいます。

学会発表としては、11 月 24 日に東京で行われました第 80 回日本臨床外科学会総会において、当院外科を研修した立田穂那実研修医が「魚骨誤嚥により食道穿孔、縦隔炎をきたした一例」という演題を発表しましたが、惜しくも研修医 Award には今一步足りませんでした。

新たに発足した外科専門医制度について、吉田副院長（日本外科学会専門医研修施設指導責任者、山口県医師会部会員）が産業医科大学や九州大学のプログラムの提携病院としての割り当て症例数の調整を行っています。また、当院で外科専門医とその上のサブスペシャリティ（消化器外科専門医、小児外科専門医、呼吸器外科専門医など）が取得できるよう充実をはかり、若手外科医にとって魅力ある病院となるよう努めています。

## 【週間予定に沿って】

月・木曜日	術後カンファレンスにて、内視鏡手術ビデオを編集したものを全医師で検討し、医療安全の面や内視鏡外科技術認定資格取得に向けて研鑽しています。
火曜日	診療科・部門横断的にカンサーボードを行い、患者さま中心にがん治療チームとして最適な治療方針を決定しています。
水曜日	朝、化学療法カンファレンスにてその週の化学療法件数を報告し、レジメの変更の際は個別の症例の紹介を行っています。 午後は外科・呼吸器外科の総回診後、退院支援スタッフカンファレンスを看護師、医療ソーシャルワーカー（MSW）や理学療法士と行い、患者さまの継ぎ目無い（Seamless）退院や転院を図っています。
金曜日	抄読会で最新文献から自己研鑽と全医師への還元を行っています。また緩和ケアラウンドとチーム会議にて症例検討を行っています。
随時	標準医療を忌避する例や終末期の倫理的な問題について臨床倫理委員会で検討しています。また研究課題については、文部科学省・厚生労

	働省ガイドラインに従い、同委員会で審議を受けています。
--	-----------------------------

救急科では一般外科であれば緊急例の手術を担当しますが、その間の外来は外科チームの医師が補っています。また患者さまに救急→加療→緩和医療と継ぎ目無い診療を提供する体制をとっています。

小児外科医師は小児外科疾患だけでなく一般外科の疾患も対応します。

【外科と関連科の医師と資格など 2018年12月現在】

田中 雅夫	理事長・院長 日本膵臓学会名誉理事長、日本外科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会監事、アジアオセアニア膵臓学会プレジデント 日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医・消化器がん治療認定医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医
石光 寿幸	外科部長・乳腺外科部長 日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器病外科学会消化器外科専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医、日本乳癌学会乳腺認定医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本乳がん検診制度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定
大谷 和広	消化器外科部長 日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本胆肝道学会認定指導医
宮竹 英志	外科医長 日本外科学会外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科）
江口 大樹	外科医長 日本外科学会外科専門医、日本消化器病外科学会消化器外科専門医、日本救急医学会救急専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
持留 直希	外科医師 日本外科学会外科専門医

<呼吸器外科>

吉田 順一	副院長、外科部長・呼吸器外科部長、診療科長（外科・消化器外科・小児外科） 日本外科学会外科専門医、日本胸部外科学会呼吸器外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医、日本感染症学会感染症専門医・指導医、日本化学療法学会抗菌化学療法指導医、ICD（インフェクションコントロールドクター）、日本がん治療認定医機構がん治療認定医・
-------	--

	暫定教育医、日本臨床腫瘍学会暫定教育医
井上 政昭	呼吸器外科部長 日本外科学会外科専門医、日本胸部外科学会呼吸器外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医、日本呼吸器学会呼吸器専門医
岡 壮一	呼吸器外科医長 日本外科学会外科専門医・日本胸部外科学会呼吸器外科専門医
本多 陽平	呼吸器外科医師

<救急科>

中原 千尋	救急科部長 日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・消化器がん外科治療認定医
横田 太郎	救急科医師

<小児外科>

増田 吉朗	小児外科医師
-------	--------

<緩和ケア内科>

牧野 一郎	外科部長・緩和ケア内科部長 日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医、日本肝胆膵外科学会本胆膵外科名誉指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本緩和医療学会認定医
関 千尋	緩和ケア内科医師 日本内科学会認定内科医、日本緩和医療学会認定医

【年間手術症例数】（2018年1月～12月）

			開腹 開胸	鏡視下
消化管及び 腹部内臓	食道	食道切除再建術	0	0
		食道（粘膜下）腫瘍摘出術	0	0
		その他の手術	0	0
		（上記のうち）食道癌切除手術総数	0	0
	胃・十二指腸	胃全摘術	9	0
		幽門側胃切除術	8	10
		噴門側胃切除術	0	0
		胃部分切除術	0	1
		その他の手術	6	4



		(上記のうち) 胃癌切除手術総数	17	10
小腸・虫垂・結腸	小腸切除・狭窄形成術		3	2
	結腸切除術		11	35
	虫垂炎手術		0	27
	腸閉塞に対する手術		20	1
	人工肛門造設・閉鎖術		11	0
	その他の手術		4	2
	(上記のうち) 結腸癌切除手術総数		6	34
	直腸・肛門	直腸切除術		3
直腸切断術			0	3
大腸(亜)全摘術			0	0
肛門疾患手術			3	1
その他の手術			0	0
(上記のうち) 直腸癌切除手術総数			2	22
肝・胆・膵・脾	肝切除術		13	4
	胆のう摘出術		8	36
	総胆管結石症に対する手術		2	0
	膵頭十二指腸切除術		8	0
	膵頭十二指腸切除術以外の膵切除術		6	0
	脾臓摘出術		0	0
	その他の手術		6	1
	(上記のうち) 肝・胆道・膵癌切除手術総数		24	4
腹腔・腹膜・ 後腹膜	ヘルニア手術		55	0
	その他の手術		12	3
乳腺	乳房切除		18	0
	乳房温存手術		12	0
	その他の手術		1	0
	(上記のうち) 乳癌切除手術総数		30	0

呼吸器・縦隔	肺・気管・気管支	肺切除術	2	67
		その他の肺・気管・気管支の手術	10	14
		(上記のうち) 肺癌切除手術総数	2	55
	縦隔	胸腺摘除術	0	4
		縦隔腫瘍手術	0	1
		その他の手術	0	0
頭頸部・内分泌	甲状腺疾患に対する手術		0	0
	副甲状腺疾患に対する手術		0	0
	その他の手術		7	0
末梢血管	静脈瘤に対する手術		0	0
	その他の手術		45	0
外傷			1	0

### 【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.1.26	(特別講演) 緩和ケアにおけるチーム医療	牧野一郎 [座長]		第8回下関チーム医療緩和ケア懇話会	海峡メッセ 下関
2018.4.5	外国人名誉会員授与 記念講演	田中雅夫 [司会]		第118回日本外科学会定期学術集会	東京
2018.4.7	(ポスターセッション) 当院外科・呼吸器外科・救急科におけるトロンボモデュリンアルファ(遺伝子組み換え)注射剤使用例の救命要因の検討	中原千尋	川地眸 福原雅弘 森將鷹 奥村幹夫 尾中貞夫 江口大樹 宮竹英志 大谷和広 井上政昭 牧野一郎 石光寿幸 吉田順一 田中雅夫	第118回日本外科学会定期学術集会	東京

2018.4.7	(ポスターセッション) 当院における腹腔鏡 下側方郭清術の短期 および長期成績	江口大樹	福原雅弘 川地眸 奥村幹夫 宮竹英志 中原千尋 大谷和広 牧野一郎 石光寿幸 吉田順一 田中雅夫	第 118 回日本外 科学会定期学術 集会	東京
2018.4.26~28	IPMN の運営に関する国 際コンセンサス福岡ガイ ドラインの見直し	田中雅夫		AOPA&KPBA& KPSC2018	韓国 (ソウル)
2018.5.10~12	Educational Lecture	田中雅夫 [司会]		第 95 回日本消化 器内視鏡学会総会	グランドプリ ンスホテル 新高輪
2018.5.10~12	(特別発言) IPMN 診療における 内視鏡の役割	田中雅夫		第 95 回日本消化 器内視鏡学会総会	グランドプリ ンスホテル 新高輪
2018.6.7~9	第 30 回日本肝胆膵外 科学会学術集会	田中雅夫 [座長]		第 30 回日本肝胆 膵外科学会学術 集会	パシフィコ 横浜
2018.6.8~9	My journey in IPMN: establishing guideline and future perspective	Masao Tanaka		The 11th International Pancreatic Cancer Conference Commemorative Lecture of Pin-Wen Lin and 2018 Cancer Biology Symposium	台湾 台南市
2018.6.21	消化器外科領域にお ける低侵襲手術の最 前線	石光寿幸 [座長]		第 19 回福岡内視 鏡外科学研究会	西鉄グランド ホテル
2018.6.29~30	ランチョンセミナー 05	田中雅夫 [司会]		第 49 回日本膵臓 学会大会	和歌山
2018.7.13	ランチョンセミナー	田中雅夫 [座長]		第 73 回日本消化 器外科学会総会	鹿児島 (かごしま県民交 流センター)
2018.8.7	HER2 陽性乳癌に対す る治療～ガイドライン との今後の展望～	石光寿幸 [座長]		第 49 回九州乳癌 治療研究会	ホテルセント ラーザ博多
2018.9.7	Gemcitabine-nab-paclitaxell 併用化学療法により pCR が得	横田太郎	宮竹英志 大谷和弘	第 121 回北九州 外科学研究会	北九州市 立商工貿

	られた borderline resectable 膵頭部癌の1切除例		増田吉朗 持留直希 江口大樹 中原千尋 牧野一郎 石光寿幸 本多陽平 岡壮一 井上政昭 吉田順一 田中雅夫		易会館
2018.9.14	(特別講演) 宇部地域の緩和ケア 提供体制について	牧野一郎 [座長]		第9回下関チーム 医療緩和ケア懇話 会症例検討会	下関市立 市民病院
2018.10.4	(特別講演) 進行胃癌に対する最 新薬物療法	中原千尋 [座長]		下関市立市民病院 化学療法セミナー ～がん免疫療法～	下関市立 市民病院
2018.11.1～4	(基調講演) 嚢胞性膵疾患の手術 適応とタイミング	田中雅夫		JDDW 2018 KOBE	神戸
2018.11.3～4	Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm: Past, Present and Future	田中雅夫		41st World Congress of International College of Surgeons 2018	台湾
2018.11.22～24	魚骨誤嚥により食道 穿孔縦隔炎をきたし た一例	立田徳那実	井上政昭 本多陽平 岡壮一 具嶋正樹 石光寿幸 吉田順一	第80回日本臨床 外科学会総会	グランドプリ ンスホテル 新高輪
2018.11.28	アジュバント PERTUZUMAB ～DFS 100%を目指して～		石光寿幸 [座長]	Chugai Breast Cancer Symposium in SHIMONOSEKI	海峡メッセ 下関

<論文>

発表年	表題	著書	共同著者等	雑誌・巻・ページ
2018	敗血症の新・旧定義など諸因子に よる腹部感染症術後の転帰予測	吉田順一	褰惺哲 宮竹英志 江口大樹 大谷和広 石光寿幸	救急医学 42(1):115-119

			中原千尋 牧野一郎 井上政昭 田中雅夫	
2018	急速に増大し術後 3 ヶ月で多発肺転移を来した乳腺悪性葉状腫瘍の 1 例	奥村幹夫	石光寿幸 小山倫太郎 福原雅弘 川地眸 江口大樹 宮竹英志 中原千尋 大谷和広 井上政昭 牧野一郎 吉田順一 田中雅夫 安田大成	臨床と研究 95(1):113-119
2018	The effect of bezlotoxumab for prevention of recurrent Clostridium difficile infection(CDI) in Japanese patients		(Acknowledgement) Junichi Yoshida	Journal of Infection and Chemotherapy 24:123-129
2018	感染症に対する抗体医薬	吉田順一	他病院医師	医学のあゆみ 265(1):110-115
2018	主膵管断裂を伴った外傷性膵損傷に対して non-operative management にて救命し得た 3 例	裴惺哲	吉田順一 他病院医師	日救急医学会誌 29:115-122
2018	Thoracoscopic Lung Lobectomy for a Lung Cancer Patient with Situs Inversus Totalis	Masatoshi Kanayama	Masaaki Inoue Junichi Yoshida 他病院医師 1 名	J UOEH (産業医大誌) 40(3):237-241
2018	シンポジウム「感染対策について」	吉田順一		勤務医ニュース (22):1-16
2018	(膵嚢胞診療最前線-IPMN 国際診療コンセンサスガイドライン改訂を踏まえて-) 課題の多い分枝型 IPMN 患者の診療	田中雅夫		肝胆膵 77(5):917-919
2018	Correlation Between PD-L1 Expression and Expression of CDK4 and SPOP in Non-Small Cell Lung Cancer	Masaaki Inoue	Junichi Yoshida Souichi Oka Youhei Honda D.Yasuda	Journal of Thoracic Oncology 13(105):924-924
2018	感染症に対する抗体医薬	吉田順一	他病院医師	別冊・医学のあゆみ 108-113

# 脳神経外科

## 【スタッフ】

平成 30 年は医師 3 名体制で変更ありませんでした。3 月までは岩城、4 月からは小柳に代わっております。

部長 中村 隆治 (2010.4～)  
医長 尾中 貞夫 (2012.4～)  
医師 岩城 克馬 (2017.4～2018.3)  
医師 小柳 侑也 (2018.4～)

## 【概要】

外来日は予定手術日の木曜日以外は毎日行っております。木曜日でも可能であれば外来にも対応しております。急患にも対応しておりますのでご紹介ください。

脳神経外科での対象疾患は、脳血管障害、脳腫瘍、外傷、機能的疾患、先天奇形等幅広く多岐に涉っております。しかし、脳外科手術の手術症例は減少傾向にあり、脳血管障害の保存的治療の患者さまが増えているのが現状です。特に脳梗塞患者が増えており、初期治療として、時間が経過していなければ t-PA の投与を行っています。主幹動脈の閉塞であれば血栓回収の適応となり、予後改善に取り組んでおります。適応があれば頸動脈内膜剥離術や内頸動脈ステント留置などにも積極的に取り組んでおります。

下関市は高齢化率も高く、物忘れを主訴に受診される患者さまが増加しております。治療可能な認知症として慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症などが知られており、当科でも治療にあたっております。水頭症シャント手術後に物忘れや歩行障害が改善する患者さまがみられます。しかしアルツハイマー型認知症やレビー招待型認知症では、認知機能悪化が徐々に進行し、自宅での生活が困難になる症例が多くみられます。医師だけの努力では解決できないことも多く、ケースワーカーなど他職種と協力しての対応が必要になります。当院ではまだ認知症の対応が十分ではなく、地域社会で高齢者を支えていけるような取り組みが必要と考えております。

また、脳卒中後の痙縮に対しても、ボトックスやバクロフェンなどの使用により ADL (日常生活動作) 改善につなげたいと考えておりますのでご相談ください。

## 【診療実績】 2018 年(1 月～12 月)

1. 入院症例：約 358 例
2. 手術症例：60 例

内訳)

脳腫瘍	8 例
-----	-----

脳動脈瘤クリッピング（破裂4例、未破裂1例）	5例
硬膜動静脈瘻	1例
血腫除去術	3例
急性硬膜下および外血腫	3例
慢性硬膜下血腫	18例
水頭症（脳室腹腔シャント術等）	8例
その他	14例

### 3. 血管内手術：16例

内訳)

脳動脈瘤コイル塞栓術（破裂4例、未破裂1例）	5例
脳梗塞急性期 血栓回収術	10例
頸部内頸動脈ステント留置	1例

### 【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.3.16	当院における血栓回収療法の導入と成績	岩城克馬	尾中貞夫 中村隆治	第43回日本脳卒中学会学術総会	福岡サンパレス
2018.4.27	多様に分化し、悪性度の異なる組織を持った脳腫瘍の長期経過	尾中貞夫	小柳侑也 中村隆治	関門脳腫瘍カンファレンス	ホテルニュータガワ小倉
2018.9.20	当科のてんかん診療	中村隆治	小柳侑也 尾中貞夫	下関てんかんカンファレンス	下関グランドホテル
2018.11.2	t-PA投与時の注意を要する症例	小柳侑也	中村隆治 尾中貞夫	第9回関門CVDカンファレンス	クラウンパレス小倉

# 呼吸器外科

## 【概要】

呼吸器外科では胸部悪性疾患（原発性肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍等）、良性疾患（気胸、肺嚢胞症等）を呼吸器腫瘍センターで、感染性疾患の治療を呼吸器感染症センターで行っています。

2018年の全手術症例数は95例、原発性肺がん手術症例数は56例と前年と比較し増加しました。当科では外科としての手術治療のみでなく呼吸器腫瘍センターとしての役割も果たしており、手術治療を選択されず抗がん剤治療や放射線治療を選択された患者さまの治療も行っています。近年注目されているがん免疫治療は2016年から2018年末までの44例の治療を行いました。

原発性肺がん治療は早期発見、早期治療が基本です。当院での肺がん手術治療は多くは内視鏡（胸腔鏡）を使用して手術を行います。進行肺がんに対しては開胸で拡大手術にも取り組んでいます。また、進行肺がん患者さまにおいては術前に抗がん剤や放射線治療を行い、腫瘍を小さくした後で手術を行うこともあります。肺がん治療の進歩は目覚ましく、年々治療の適応が変化しています。

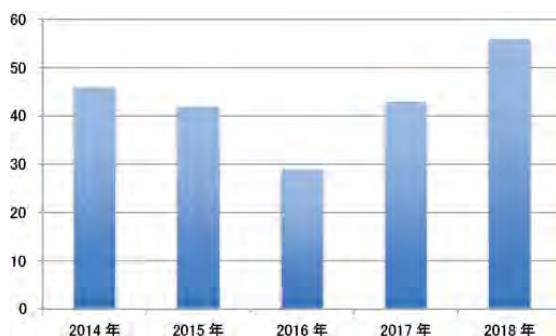
当院では手術のみで肺がん治療を行うのではなく、手術治療・抗がん剤治療（分子標的薬、がん免疫治療を含む）・放射線治療を併用し、最も治療効果の高い治療を提供しています。勿論、治療方針は患者さまやそのご家族の意見や希望は尊重して、話し合いで決定されます。

このように、当科の基本的治療方針である“患者さまが受けたい治療施設となれるように、最良治療の提供”が実現できるように、臨床・研究において日々精進しております。本年もよろしくお願いいたします。

## 【原発性肺がん手術症例数】

年	2014	2015	2016	2017	2018
手術症例数	46	42	30	42	56

原発性肺がん手術症例数

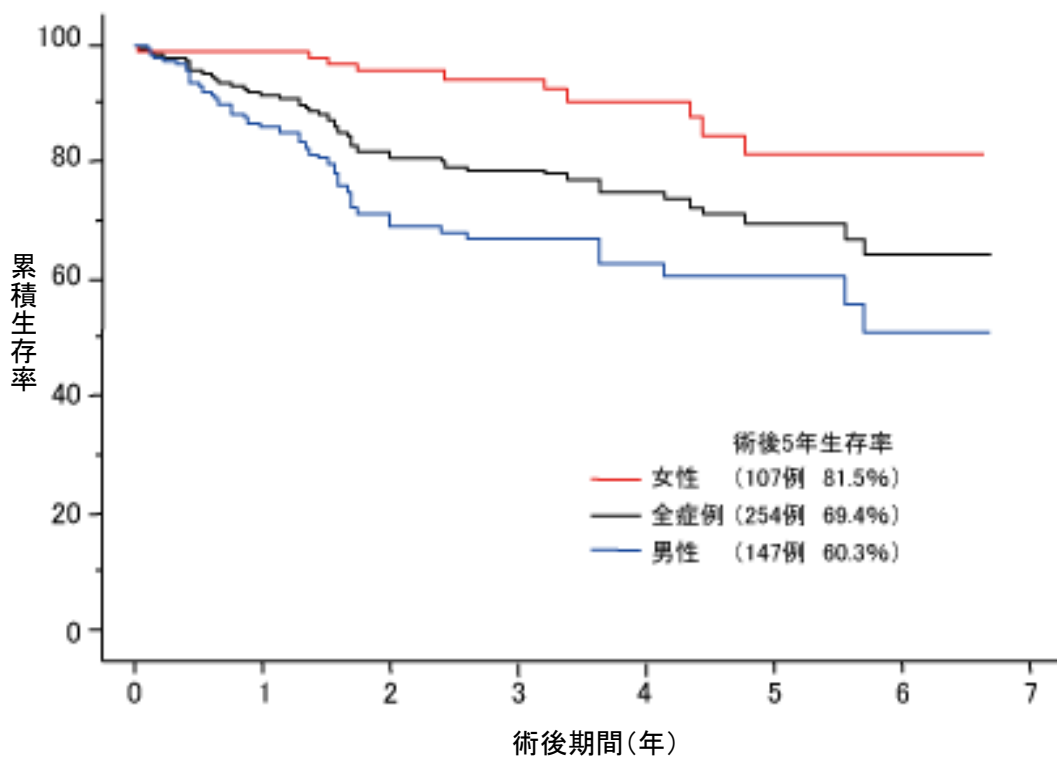


原発性肺がん手術術式





肺がん術後生存率



# 心臓血管外科

## 【スタッフ】

上野安孝副院長、栗栖和宏部長、元松祐馬医長、西健斗医師（～3月）と仁田翔大医師（4月～）の4名体制で診療を行いました。

## 【診療概要】

心臓血管外科では、成人の心臓疾患（虚血性心臓病、弁膜症、重症心不全、不整脈など）や大動脈疾患（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、腹部大動脈瘤など）、末梢動静脈疾患などに対する外科治療を中心とした診療を行っています。

虚血性心臓病に対する冠動脈バイパス術では、低侵襲で合併症の少ない心拍動下冠動脈バイパス術（人工心肺を使用しない手術）を第一選択として行っています。

僧帽弁膜症に対する手術では、心機能維持に優れる弁形成術をできるだけ行う方針としています。

大動脈疾患に対する治療では、通常の開胸・開腹下の手術に加えてステントグラフト内挿術も行っています。また胸部大動脈瘤において、手術時にステントグラフト内挿術を組み合わせる方法（オープンステントグラフト法）も取り入れています。

末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症など）に対しては、血行再建（バイパス手術や血栓除去、血管内治療など）を行っています。下肢の静脈瘤に対する治療は、静脈抜去術に加えて血管内焼灼治療も行っています。

## 【診療実績】（平成30年1月～12月）

心臓血管外科の平成30年の外来患者延数は2,108名、初診292名、紹介率90%、逆紹介率184%でした。入院延数は2,873名、平均在院日数16.5日でした。

心臓血管外科における平成30年の手術実績は下記の通りでした。手術室における手術件数は165件でした。

### A.心臓大血管手術

開心術症例数(人工心肺症例+人工心肺非使用冠動脈バイパス症例+胸部ステントグラフト症例)は58例でした。冠動脈バイパス術は人工心肺非使用心拍動下手術を10例、人工心肺使用手術を8例に行いました。弁膜症手術は24例でした。心臓腫瘍手術を1例に行いました。胸部大動脈手術は15例に行い、そのうち4例に対してステントグラフト内挿術を行いました。なお急性大動脈解離の症例5例に緊急手術を行いました。

### B.腹部大動脈瘤

腹部大動脈瘤に対する手術症例数は18例でした。人工血管置換術を9例に、ステントグラフト内挿術を9例に行いました。

### C.末梢動脈手術

末梢動脈手術症例数は 26 例でした。内訳は動脈バイパス術を 5 例、血栓除去術を 9 例、動脈内膜剥離術を 8 例、動脈形成術を 4 例に行いました。

### D.下肢静脈疾患

下肢静脈瘤手術症例数は 53 例でした。伏在静脈ストリッピング術が 10 例、血管内焼灼治療が 35 例でした。また高位結紮術を 8 例に行いました。

## <心臓血管外科手術統計> (平成 30 年 1 月～12 月)

### 心臓手術 43 例

虚血性心臓病手術	冠動脈バイパス術 18 例 (体外循環非使用心拍動下手術 10 例)
弁膜症手術	24 例 大動脈弁置換術 11 例 大動脈弁置換術+僧帽弁形成術 1 例 大動脈弁置換術+三尖弁形成術 1 例 大動脈弁置換術+僧帽弁置換術+三尖弁形成術 3 例 僧帽弁置換術 1 例 僧帽弁置換術+三尖弁輪形成術 3 例 僧帽弁形成術 1 例 僧帽弁形成術+三尖弁輪形成術 3 例
心臓腫瘍手術	1 例

### 大血管手術 33 例

上行大動脈置換術	6 例 (急性 A 型大動脈解離 5 例)
弓部大動脈置換術	5 例
胸部大動脈ステントグラフト内挿術	4 例
腹部大動脈置換術	9 例
腹部大動脈ステントグラフト内挿術	9 例

### 末梢血管手術 89 例

動脈バイパス術	5 例 (下腿動脈バイパス 3 例)
血栓除去術±血管形成術	9 例
血管内膜剥離+パッチ形成術	8 例
動脈形成術	4 例
下肢静脈瘤ストリッピング術	10 例
静脈血管内焼灼術	35 例
下肢静脈瘤高位結紮術	8 例
シャント造設術 (人工血管)	5 例
シャント瘤修復術	5 例

【業績集】

<学会・研究会>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.5.10~12	基部伸展を伴う急性大動脈解離に対して右 Valsalva 洞の Partial remodeling を施行した一例	元松祐馬	栗栖和宏 西健斗 上野安孝	第 46 回日本血管外科学会学術総会	山形テルサ・山形国際ホテル (山形)
2018.6.7	特別講演	上野安孝 [座長]		第 20 回下関循環器研究会	東京第一ホテル (下関)
2018.6.7	外科的 Entry 閉鎖後にさらなる偽腔拡大を来した慢性 B 型解離の一例	仁田翔大	栗栖和宏 元松祐馬 上野安孝	第 20 回下関循環器研究会	東京第一ホテル (下関)
2018.8.23~24	肺胞出血による呼吸不全を伴う感染性心内膜炎の一例	栗栖和宏	満尾博 仁田翔大 元松祐馬 上野安孝	第 51 回日本胸部外科学会九州地方会総会	鹿児島県医師会館・鹿児島市勤労者交流センター (鹿児島)
2018.8.23~24	巨大疣腫により急性心不全を来した人工弁感染の一例	仁田翔大	栗栖和宏 元松祐馬 上野安孝	第 51 回日本胸部外科学会九州地方会総会	鹿児島県医師会館・鹿児島市勤労者交流センター (鹿児島)
2018.8.23~24	Case Report Award 審査員(心臓・大血管)	栗栖和宏		第 51 回日本胸部外科学会九州地方会総会	鹿児島県医師会館・鹿児島市勤労者交流センター (鹿児島)

# 小児外科

## 【スタッフ】

医師：増田吉朗

## 【外来患者数】（平成 30 年 1 月～平成 30 年 12 月）

新患：105 名 再来：380 名 計 485 名（15 歳以下患者）

## 【入院症例】（平成 30 年 1 月～平成 30 年 12 月）

男：33 名 女：17 名 計 50 名

急性虫垂炎	8	臍ヘルニア	3
単径ヘルニア	16	停留精巣	11
包茎	1	水腎症	1
イレウス	1	便秘症	1
肛門周囲膿瘍	1	リンパ管腫症	2
頸部瘻	2	その他	3

## 【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.12.6	腹腔鏡下左結腸切除後の下腸間膜動静脈瘻による虚血性腸炎に Interventional Radiology (IVR) が奏効した例	増田吉朗	江口大樹 横田太郎 持留直希 宮武英志 中原千尋 大谷和広 牧野一郎 石光寿幸 吉田順一 田中雅夫	第 31 回 日本内視鏡外科学会	福岡国際会議場

# 整形外科

## 【スタッフ（専門、認定）】

副院長 兼 脊椎・脊髄病センター長 白澤建藏

（脊椎脊髄疾患・関節疾患、日本整形外科学会整形外科専門医・脊椎内視鏡下手術技術認定医・脊椎脊髄病医・リウマチ医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本リウマチ財団リウマチ登録医）

整形外科部長 山下彰久

（脊椎脊髄疾患・関節疾患、日本整形外科学会整形外科専門医・脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医）

医長 原田岳

（リウマチ・人工関節・膝関節・股関節疾患）

医長 渡邊哲也

（脊椎脊髄疾患・足の外科）

橋川和弘医師、太田浩二医師（日本整形外科学会整形外科専門医）、大迫浩平医師、綾部裕介医師、白石さくら医師、[非常勤] 野村裕医師（日本整形外科学会整形外科専門医・脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医）の10名が勤務しました。

## 【治療現況】

骨折等の骨関節の救急外傷の治療、脊椎脊髄疾患の診断と外科的治療、変形性関節症及び関節リウマチの薬物治療及び外科治療、小児の整形外科疾患、足の外科等を主体に治療を行っています。なかでも脊椎脊髄疾患の手術症例は、山口県内でも非常に多く、低侵襲脊椎手術では、内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術や腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症）に対する経皮的脊椎手術や最小侵襲脊椎手術（経皮的椎弓根スクリューによる脊椎固定術、側方進入前方固定術）、成人脊柱変形（いわゆる成人の腰曲がりや側弯症）に対する脊柱再建手術、特発性脊柱側弯症に対する側弯矯正手術、骨粗鬆性脊椎椎体（圧迫）骨折に対する椎体形成術やBKP（バルーンカイトフォプラスチック）、前側方アプローチによる椎体置換術、頸椎変性疾患（頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア）に対する椎弓形成術、透析やリウマチに伴う頸椎病変（環軸椎脱臼、軸椎下亜脱臼）の手術、アテトーゼ型脳性麻痺に伴う頸髄症手術、脊髄腫瘍や転移性脊椎腫瘍の手術等多岐にわたる実績を持っています。

平成30年度からは脊椎の術中ナビゲーションシステムを導入し更に安全性の高い高度な技術を要する手術が可能になりました。又、関節疾患では、変形性関節症やリウマチに対する人工関節手術が多く、特に人工膝関節手術は県内でも有数の症例数を誇っています。

スポーツ外傷やリウマチ、膝疾患に対する関節鏡下手術（膝半月板手術、膝前十字靭帯再建術、滑膜切除術）等で良好な成績を収めています。

## 【腰痛に対する最新の治療法】

### I.腰痛の薬物治療

腰痛を起こす疾患は多岐にわたり、若い人では腰椎椎間板ヘルニアが多く、高齢者では腰部脊柱管狭窄症が最も多くなっています。慢性の腰痛に対して、これまでは消炎鎮痛剤の投薬、トリガーポイント注射、温熱療法などが行われてきましたが、最近では消炎鎮痛剤の投与頻度は減り、これに変わってオピオイド系の薬の投与が保険で適応となりました。

さらに、様々な新薬が開発されています。このオピオイド系の薬（トラマドール、ブプレノルフィンの1週間持続貼付剤、デュロキセチンなど）は、麻薬と同じような作用で効果を示しますが、麻薬と違って厳しい管理は必要でなく長期投与が可能です。また、長期に服用しても安全で副作用も少なく安心して使用できます。人によっては便秘が起きますが、緩下剤投与でコントロールが可能です。更に、今後とも様々な疼痛治療薬が開発されており、先々市販される予定のものも多くあります。

### II.腰痛の手術治療

一方、手術治療も変遷してきました。様々な脊椎の手術をなるべく小さな侵襲で行う取り組みがなされています。小侵襲であるということはキズが小さく術後の疼痛が少ない、出血量を少なくできる、術後の回復が早く早期に退院や社会復帰ができるということです。

また、小侵襲であれば、免疫力や抵抗力が落ちにくいため術後の感染や全身の合併症も少なくすることができます。

現在、当科で行っている脊椎の小侵襲手術としては内視鏡下椎間板摘出手術（MED）が挙げられます。10年前から開始しており、すでに500例以上の実績があります。皮切は1.5cmと小さく、手術侵襲も小さいため術後1週間以内に退院可能です。

腰部脊柱管狭窄症に対しては、神経の圧迫を取り除く除圧術に内視鏡下手術や顕微鏡手術といった方法で侵襲を少なくする方法があります。また、病気の種類によっては脊椎を固定する必要があり、小さな皮切で筋肉や脊椎骨を術野に展開しない経皮的椎弓根スクリュー法（PPS）による脊椎固定術を行っています。この方法では従来法と比べて出血量を抑さえ、手術による身体への負担（小侵襲）を少なくするのが目的です。ただし、手術中にレントゲンの透視装置を使うため術者、助手、看護師は放射線防護のため鉛の服を着て手術に臨み、放射線の被曝もするため医師には優しくない手術といえます。

このPPS法に加えて、最近では小侵襲腰椎側方椎体固定（XLIF, OLIF）という最新の方法を平成27年3月より行ってきました。すでに100例以上の実績があります。

XLIFとは、側腹部（腸骨と肋骨の間）に約3cm程度の皮膚に小切開を入れ、筋肉を切離、切除せずに椎体の側方から腹膜外アプローチで椎間板を取り除き、ケージといった特殊な挿入物で固定して、脊椎の安定性を高める手術方法です。これまでの手術ではお腹に20cm程度の大きなキズで腹部の筋肉を切離しながら腹膜に到達する必要がありました。術後の疼痛が強く、侵襲も大きく大手術の部類に入っていました。腹部外科で腹腔内を手術する際、この腹筋群を切らずにする方法が腹腔鏡下手術です。このXLIFはお腹は切らずに腹膜外からアプローチします。ここは内視鏡ではできませんが、特殊な開創器や手術器械を使うので小皮切で行うことができるようになり、出血は少なく術翌日から歩行が可能となりました。日本では平成25年から厚生労働省に使用承認され、一部の認定病院で実施さ

れてきました。この XLIF と PPS を組み合わせて行うことで腰椎の強固な固定と間接除圧を小さな侵襲で行うことができます。PPS のため背部に数箇所の小切開と XLIF 用に側腹部に約 3cm の皮膚切開（皮切）で手術を実施できます。この手技の最大の利点は、間接除圧と言って脊髄の神経を直接触らないで神経を圧迫から解除することにあります。神経に直接触らないので脊柱管内の神経に対し安全性が高く、従来の術式で起こっていた術後神経合併症（下肢の運動麻痺など）の危険性が殆どありません。また、出血が従来に比べ非常に少ないなど体への負担が少ない手術方法です。対象となる疾患は、腰部脊柱管狭窄症のなかでも腰椎変性すべり症、腰椎変性側弯症、腰椎後弯症、腰椎分離（すべり）症の一部などです。手術の成績は極めて良好で、術前の腰痛や下肢のしびれはほとんど軽快します。また、出血量が少なく、皮膚の切開も小さいため、術直後の傷の痛みも非常に軽くリハビリも順調に進んでいきます。そのため、これまでの腰椎の固定術が 3-4 週間程度の入院期間であったのが、半分の 10 日-14 日程度に短縮されました。

XLIF は全国でも限られた医師と医療機関でのみ実施されており、XLIF 専用の手術研修を受けて認定医となる必要があります。また手術には安全性確保のため、XLIF 専用の脊髄神経機能のモニタリング装置が必要です。当院では指導医資格を 3 名が保有し、XLIF を日本導入早期から開始しており手術の安全性向上のため様々な取り組みも行っています。脊柱管狭窄症以外にもこの XLIF を成人脊柱変形（いわゆる腰曲がりや側弯症）や再手術症例に応用しています。従来方法と比して明らかに小さな侵襲で患者さまの身体への負担も少なく手術成績も良好です。

【手術症例数】（平成 30 年）

手術法		手術件数	
脊椎		311	
四肢外傷	大腿骨近位部骨折	168	
	骨折・脱臼	183	
	腱損傷・その他	10	
骨軟部腫瘍	良性	3	
	悪性	0	
上肢・手	人工関節（骨頭）置換術（外傷を除く）	肩	0
		肘	0
		手指	0
	関節鏡視下手術	肩	0
		肘	0
		手	0
	関節形成術（骨切り他）	1	
	神経、筋腱	19	
その他	50		
下肢	人工関節（骨頭）置換術（外傷を除く）	股	113
		膝	132



	関節鏡視下手術	股	0
		膝	69
		足	2
	関節形成術（骨切り他）		20
	神経、筋腱		6
	その他		60
合 計			1,147

【業績集】

<論文>

発表年	表 題	著書等	雑誌・巻・ページ
2018	【最小侵襲脊椎安定術 MIST の最前線】腰椎変性疾患に対する MIST	山下彰久	整形外科最小侵襲手術ジャーナル vol.87,p.21-33
2019	大腿骨近位部骨折の周術期におけるフィブリンモノマー複合体と深部静脈血栓症の検討	古川寛 (平成29年度在籍)	整形外科と災害外科 vol.68,No.2,p.194-197

<学会発表等>

開催年月日	演 題 名	演 者	学 会 名	場 所
2018.4.13	主題7 前方アプローチ VS 後方アプローチ アテトーゼ型脳性麻痺の頸髄症に対する椎弓根スクリューを使用した多椎間後方固定術の長期治療成績	白澤建藏	第47回日本脊椎脊髄病学会	神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場
2018.4.13	腰部脊柱管狭窄症に対する XLIF の間接除圧の定量的評価	野村裕	第47回日本脊椎脊髄病学会	神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場
2018.6.2	腰部脊柱管狭窄症に対する XLIF の間接除圧に影響する因子の検討	野村裕	第135回西日本整形災害外科学会	アクロス福岡
2018.6.2	踵骨脱臼骨折の2例	鶴居亮輔 (平成29年度在籍)	第135回西日本整形災害外科学会	アクロス福岡
2018.6.2	大腿骨近位部骨折の周術期におけるフィブリンモノマー複合体と深部静脈血栓症の検討	古川寛 (平成29年度在籍)	第135回西日本整形災害外科学会	アクロス福岡
2018.6.2	上腕骨人工骨頭置換術後のステム周囲骨折の治療経験	藤井勇輝 (平成29年度在籍)	第135回西日本整形災害外科学会	アクロス福岡
2018.6.23	脊髄症を呈した脊椎血管腫に対して椎体全摘を行った1例	綾部裕介	第150回山口県整形外科医会	下関

2018.6.23	胸腰椎移行部骨粗鬆性椎体骨折に対する各種再建術の比較検討－安定性と侵襲のバランス追求－	山下彰久	第 150 回山口県整形外科医会	下関
2018.6.23	腰部脊柱管狭窄症に対する XLIF の臨床成績と間接除圧の影響因子の検討	野村裕	第 150 回山口県整形外科医会	下関
2018.10.23	外科系 MRSA 感染症対策の今後 整形外科、脊椎外科領域の周術期 MRSA 対策	山下彰久	第 26 回日本外科感染症学会	神戸国際会議場
2018.11.23	経過不良因子を有する骨粗鬆症性椎体骨折に対する早期 BKP の有効性 手術時機の解釈と提言	白石さくら	第 136 回西日本整形災害外科学会	長崎大学医学部 記念講堂・良順会館・ポンペ会館
2018.11.23	当科における BKP+PPS の治療経験	太田浩二	第 136 回西日本整形災害外科学会	長崎大学医学部 記念講堂・良順会館・ポンペ会館
2018.11.23	脊髄症を呈した脊椎血管腫に対して椎体全摘を行った症例	綾部裕介	第 136 回西日本整形災害外科学会	長崎大学医学部 記念講堂・良順会館・ポンペ会館
2018.11.24	下肢切断術における EVT 併用の有効性に関する検討	綾部裕介	第 136 回西日本整形災害外科学会	長崎大学医学部 記念講堂・良順会館・ポンペ会館
2018.11.24	当院における 2D および 3D ポーラスカップの X 線学的短期成績の比較	大迫浩平	第 136 回西日本整形災害外科学会	長崎大学医学部 記念講堂・良順会館・ポンペ会館
2018.12.8	講演:アテトーゼ頸髄症の長期予後	白澤建藏	第 42 回福岡脊椎外科フォーラム	福岡
2018.12.8	首下がり症候群に対する矯正手術	太田浩二	第 42 回福岡脊椎外科フォーラム	福岡
2019.2.2	首下がり症候群に対する矯正手術	太田浩二	巖流整形外科フォーラム	下関
2019.2.2	経過不良因子を有する骨粗鬆症性椎体骨折に対する早期 BKP の有効性	白石さくら	巖流整形外科フォーラム	下関

# 皮膚科

(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)

平成元年 4 月から日本皮膚科学会皮膚科専門医である 内田 寛 が一人で担当しています。

## 【診療実績】

<外来>

患者数 6,003 名、新患数 538 名

皮膚生検 55 件

<入院>

細菌性疾患	21 件
ウイルス性疾患	17 件
湿疹 皮膚炎群	2 件
熱傷	2 件
良性腫瘍	1 件
水泡症	1 件
蕁疹	1 件
乾癬	1 件
計	46 件

<その他>

転移性皮膚腫瘍	3 件
乳房パジェット病	1 件
基底細胞癌	3 件
有棘細胞癌	1 件
風疹	4 件
スポロトリコーシス	1 件
コレステロール塞栓	1 件
ANCA 関連血管炎	1 件
計	15 件

# 泌尿器科

## 【概要・診療】

泌尿器科は、日本泌尿器科学会専門医教育施設としての認定を受け、医師 2 名【吉弘 悟；日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医、松隈 悠(2018 年 3 月まで)、徳永 貴範(2018 年 4 月より)】で診療を行いました。外来は二診体制で、二診は予約制再診のみです。

## 【手術】

2018 年も悪性腫瘍に対する手術が大多数を占め、手術件数は 95 件と例年と同等でしたが、TUR-P の減少が目立ちました。

今年の特徴として、膀胱癌が 42 例と多く、全例 TURBT でした。腎癌は 6 例(全摘 2 例、部分切除 4 例)でした。前立腺癌の根治的前立腺全摘術は 9 例と昨年より増加し、尿管癌に対して山口大学の協力を得て後腹腔鏡下腎尿管全摘術を行いました。また、比較的稀な陰茎癌 1 例と精巣腫瘍 3 例の手術を行いました。

＜手術実績＞(総数 95 件) 2018 年 1 月～12 月

主な手術	件数	主な手術	件数
TURP (経尿道的前立腺切除)	4	陰嚢水腫根治術	1
TURBT (経尿道的膀胱腫瘍切除)	41	尿道ステント前立腺部尿道拡張術	3
後腹腔鏡下腎尿管全摘	1	TUL (経尿道的尿管結石破碎)	6
根治的腎摘除術	2	膀胱結石破碎術	4
腎部分切除術	4	精巣摘除術	2
根治的前立腺全摘術	9	尿道狭窄内視鏡手術	4
陰茎部分切除術	1	その他	10
精巣悪性腫瘍手術	3		

## 【検査】

膀胱鏡検査は 300

件と例年より多く、軟性膀胱鏡検査が 180 件(60%)と半数以上に増加しました。2017 年 10 月よりハイビジョン軟性膀胱鏡システムを稼働し、早期がんの発見に貢献する狭帯域光観察(NBI)による詳細な検査が可能となりました。前立腺生検は 72 件と例年並みで 39 例(54%)が前立腺癌でした。

＜検査＞2018 年 1 月～12 月

主な検査	件数
膀胱ファイバー	300
前立腺生検	72

【業績集】

<発表>

開催年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
2018.6.3	膀胱原発印環細胞癌 の1例	徳永貴範	吉弘悟 岸弓景	第104回日本泌尿器科学会山口 地方会	山口大学 医学部霜 仁会館
2018.10.20	Nivolumab が短期間 で著効した肉腫様成 分を伴う乳頭状腎細 胞癌(type 2)の1例	徳永貴範	吉弘悟 松隈悠 廣吉俊弥	第4回日本泌尿 器腫瘍学会	横浜ラン ドマーク ホール

# 眼科

## 【スタッフ】

部長 石村 良嗣

## 【概要】

月曜日から金曜日の午前中は外来診療を行い、手術は火曜日、木曜日の午後に行いました。手術日以外の午後は特殊検査などを行い、第4木曜日午後は完全予約でロービジョン外来を行いました。

※眼鏡を使用しても十分に見えない、視野（見える範囲）が狭いために見えにくいなど、見え方に不自由があるために日常生活に何らかの支障がある方をロービジョン（Low Vision：低視覚）者といいます。

## 【診療実績】 2018年1月～12月手術件数

手術名	件数
水晶体再建術	122
後発白内障手術	20
網膜光凝固術	11
結膜結石除去術	9
虹彩光凝固術	5
角膜・強膜異物除去術	4
結膜縫合術	1

## 【月別入院患者数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
延数	36	63	41	16	45	50	48	51	8	45	52	32	487
入院	8	9	8	4	11	11	10	11	2	12	12	8	106
退院	5	8	12	4	11	10	9	13	2	8	16	8	106

## 【月別外来患者数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
延数	347	330	380	363	359	400	390	426	287	434	400	347	4,463
新患	18	26	29	15	14	27	19	25	12	20	26	11	242

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.6.30	当院でのロービジョ ンケア	河野清美		ロービジョン 勉強会 in 山口	ゆ〜あい プラザ山 口県社会 福祉会館
2018.12.15	ロービジョン勉強会 in 山口参加者アンケ ート結果と次年度の 会について	河野清美		第10回やまぐち ロービジョン勉 強会	山口大学 医学部附 属病院

<論文>

発表年月	表題	著書	共同著者等	雑誌・巻・ページ
2018.11	小児の視力検査	河野清美		眼科ケア 20(11):27-33

# 耳鼻咽喉科

## 【スタッフ】

平成30年度は平俊明部長と高良佳江医師、12月から増田智也医師が常勤医として勤務、診療は常勤医2名、伊藤彩医師（非常勤医）1名体制で行いました。

## 【スケジュール】

月曜日から金曜日の毎日、午前中は外来診療を行いました。手術日は火、水、金曜日の午後でした。手術日以外の午後は、外来での小手術など予約診療を行いました。

## 【診療実績】

注) その他は1例のみの手術。外来手術は含まず。

手術名	件数	手術名	件数
扁桃摘出術・アデノイド切除術	73例	乳突洞削開術	8例
鼓膜チューブ留置術	26例	リンパ節摘出術	4例
気管切開術	14例	甲状腺悪性腫瘍手術	2例
鼓室形成術	14例	甲状腺良性腫瘍摘出術	2例
内視鏡下副鼻腔手術	13例	顎下腺摘出術	2例
ラリngoマイクロサージャリー	11例	その他	12例
鼓膜形成術	9例	合計	190例

## 【月別入院患者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延数	218	217	210	202	240	227	282	110	201	147	200	326	2,580
入院	23	27	18	26	27	25	25	20	25	24	25	32	297
退院	25	27	21	24	28	24	32	18	26	19	24	35	303

## 【月別外来患者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延数	558	629	597	566	645	560	580	591	561	584	586	598	7,055
新患	96	106	97	112	115	96	91	86	83	74	112	101	1,169

今年度は、手術数は若干増加しました。入院延数は減少しましたが、新入院数は増加しています。平均在院日数が短くなっている影響と思われます。

これからも地域医療の中核病院として、より質の高い医療を目指して努力してまいります。



# 放射線診断科

## 【スタッフ】

箕田 俊文 日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本 IVR 学会 IVR 専門医  
瀬戸 明香 日本医学放射線学会放射線診断専門医

## 【診療】

放射線診断科は単純 X 線写真、CT、MRI、RI の画像診断を主に行っています。

各種の検査装置から作成された画像データを、サーバーを經由して画像読影システムで読影、診断しています。読影、診断結果は報告書の形で電子カルテ上に掲載され、各診療科担当医に報告されます。また病診連携を介して、院外からの画像診断の紹介も受け付けています。現在の医療では画像診断は重要な位置にあり、正確で迅速な読影を心がけています。主に放射線診断専門医 2 名により読影され、大部分は検査当日のうちに読影レポートが確定されます。

また X 線を用いた血管内治療（インターベンショナルラジオロジー：IVR）も行っています。主に動脈内にカテーテルを挿入し、血管造影装置の X 線透視下に目的の臓器、血管まで誘導し治療を行います。対象は肝細胞癌に対する化学塞栓療法、頭頸部癌に対する動注化学療法、喀血・消化管出血・子宮出血・外傷性出血（脾損傷、血胸、後腹膜出血）・鼻出血・肝腫瘍や腎腫瘍の破裂による出血、などに対する止血目的の動脈塞栓術、動脈血栓塞栓症に対する血栓溶解療法、内臓動脈瘤や肺動静脈奇形に対するコイル塞栓術、多血性骨腫瘍に対する術前塞栓術、門脈圧亢進症による消化管静脈瘤に対する BRTO、重症急性膵炎に対する蛋白分解酵素阻害剤持続動注療法、大動脈ステントグラフト内挿術の術前処置としての下腸間膜動脈・内腸骨動脈コイル塞栓術、透析患者の静脈狭窄に対するメタリックステント留置術、CT ガイド下生検や膿瘍ドレナージなど多岐にわたり、院内の各診療科からの依頼をうけて施行しています。近年では喀血に対する止血目的の血管塞栓術が年々増加してきています。

## 【平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月の画像診断レポート・IVR 件数】

CT (2 台 64 列) : 14,651 件

MRI (1 台 1.5T) : 5,165 件

RI : 241 件

単純写真 : 5,901 件

IVR : 57 件

# 放射線治療科

## 放射線治療：

放射線治療科では、日本医学放射線学会放射線治療専門医による質の高い放射線治療を行っています。各種悪性腫瘍への根治照射、疼痛などの症状や一部良性疾患への緩和照射を行っています。

2008（平成20）年7月よりVarian社製Clinac iXによる診療を開始し、定位放射線治療をはじめとしたより精密・正確・高度な放射線治療が可能になりました。

また2009（平成21）年4月より、医師・診療放射線技師(注1)・看護師とも女性スタッフによる診療を開始し、女性患者さまにご好評をいただいています。

(注1：診療放射線技師は、女性1名、男性3名の担当スタッフの中から毎日2名のローテーション勤務になるため、男性放射線技師のみが担当する日もあります。)

## 【放射線治療担当スタッフ】

職種名	氏名	卒業年次	所属学会・資格
医師	有賀 美佐子	平成6年	日本医学放射線学会放射線治療専門医 日本医学放射線学会会員 日本放射線腫瘍学会会員
看護師	廣田 知子	平成6年	
診療放射線技師	森本 健治 菊池 友紀 佐藤 秀喜 森田 浩正	平成1年 平成21年 平成9年 昭和62年	

## 【2018（平成30）年放射線治療数】（2018（平成30）年1月1日～12月31日）

部位別照射総数：172例			
脳・脊髄	22	胃・小腸・結腸・直腸	10
頭頸部	19	生殖器・婦人科系	0
食道	7	泌尿器・男性性器	24
肺癌・気管・縦隔	27	造血器・リンパ系腫瘍	4
乳房・胸壁	27	皮膚・骨・軟部腫瘍	31
肝・胆・膵	1		

\*うち 定位放射線治療 4例

# 麻酔科

## 【スタッフ】

平田孝夫、長畑佐和子、鈴木麻倫子

## 【概要】

平成30年4月より鈴木麻倫子医師が当院に赴任しました。手術部スタッフと協力し「手術室で働く全ての人々が、自信を持って、誇らしく働く環境、そしてお互いを尊重し、助け合いの精神」をモットーに手術室運営を行いました。

手術室の効率的利用のため外来、病棟スタッフの理解と協力で、予定手術の約85%を17時までに入室することができました。

院内教育では日本救急医学会が主催する ICLS (Immediate Cardiac Life Support) 講習会を開催しました。

人員面では山口大学医学部附属病院麻酔科、加えて非常勤麻酔専門医の応援態勢を確立しました。九州歯科大学からの歯科麻酔研修の受入を行いました。

教育・指導面では、スーパーローテート研修の小佐々医師の4ヶ月研修指導を行いました。また、救急救命士による気管挿管実習(2名)30症例を行いました。

「患者一人ひとりに安全で優しい、安心できる麻酔の提供」を心がけるといふ当科の目標のもと個々の症例に対し、麻酔方法、周術期管理について検討しています。

## 【活動内容】 麻酔科管理症例 2018年1月～12月

全身麻酔(吸入)	817例
全身麻酔(TIVA)	364例
全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	782例
全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	39例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	6例
硬膜外麻酔	1例
脊髄くも膜下麻酔	5例
伝達麻酔	4例
その他	1例
計	2,019例

(前年 1,929例)

## 病理診断科

### 【概要】

適切な治療の基礎に適切な診断があり、適切な診断の要となるのが病理診断です。日々高度化する臨床サイドの要求に応えるべく、臨床医との緊密な意思疎通を図り、新たな疾患分類に即応し、免疫染色等の付加的手法を積極的に導入しつつ、正確で迅速な病理診断に努めています。

病理診断認証としては、日本病理学会登録施設および日本細胞学会認定施設として認証取得しています。

免疫染色においては、ロシュ社の全自動免疫染色装置を導入しており、染色の安定性・再現性が図られ、乳腺では、HER2、ER、PgR、MIB1(Ki-67)、胃癌摘出例ではHER2免疫検査を、全例においてルーティン化して実施し、他にも、リンパ腫、中皮腫、転移、原発探求が行えるよう、多くの抗体を保有し、診断に役立てています。大腸のRAS-BRAF、肺のEGFR、ALK、PD-L1、ROS1、乳腺のHER2/FISHは外部へ委託しています。

迅速組織診、迅速細胞診は、日中での数量は制限することなく実施、脂肪を含む凍結検体は川本法を導入し、薄切の品質を保つようにしています。また、病変マッピングはギョータックを用いて原寸大コピーをすることで、臨床側から評価を得ています。加えて、診断のスキルアップとしては、College of American Pathologistsの病理診断生涯教育プログラムに参加して診断レベルの向上に努め、細胞診は、日本臨床衛生検査技師会、日本細胞学会、山口県臨床衛生検査技師会等の精度管理調査に参加、また、週1回実施の呼吸器カンファレンス、月1回の乳腺カンファレンスに参加し、臨床との整合性を図り、他にも多くの研修会や学会に参加するよう心掛けています。

機器は、解剖室の吸引装置を更新しました。

部門システムとして、Dr.ヘルパー（広鉄計算センター）と電子カルテとの連携を図っています。

リスクマネジメント対策として、部門システムにある機能を活用し、臨床側が報告書を閲覧したかどうかを適宜チェックし、閲覧されていない報告は一覧表にして各臨床医に配布し、確認するよう促しています。

ホルマリン対策としては、第1管理区分であり、ホルマリン濃度は低値ですが、低レベルを維持するよう常に改善を図っています。

### 【スタッフ】

病理医 2名（うち1名は非常勤嘱託医）

臨床検査技師 3名（うち1名は病理専属の細胞検査士、1名は午前中外来検査兼務）

常勤病理医：安田大成\*1

非常勤嘱託病理医：谷村晃\*2

技師：川元博之\*3、佐々木真理\*4、山本美奈\*5

【所属学会および資格】

*1	日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
*2	日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診指導医 日本病院病理学会、日本臨床病理学会
*3	日本臨床細胞学会細胞検査士、日本臨床衛生検査技師会病理検査技師 山口県医師会山口県糖尿病療養指導士 日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、日本乳癌学会 特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者
*4	日本臨床細胞学会細胞検査士 日本臨床細胞学会 特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者
*5	日本臨床細胞学会細胞検査士 日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会 特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者

【病理業務】（2018年4月～2019年3月）

組織診（生検、手術）	2,510 例
術中迅速組織診断	117 例
細胞診	2,810 例
術中迅速細胞診	102 例
病理解剖	2 例

## 歯科・口腔外科

### 【スタッフ】

歯科系統括部長、歯科・歯科口腔外科部長：上原雅隆

（博士（歯学）、日本口腔外科学会口腔外科指導医・専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）、日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医）

歯科医長：長畑佐和子（日本歯科麻酔学会歯科麻酔専門医）

非常勤歯科医師：入学陽一

歯科衛生士：奈須本理恵、浜崎朋美

歯科技工士：高林潤吏

歯科助手：竹本美保

受付：岡田志津代

### 【概要】

常勤歯科医師 2 名、非常勤歯科医師 1 名、歯科衛生士 2 名、歯科技工士 1 名、歯科助手 1 名、受付 1 名の計 7 名で構成されています。下関地域の二次医療機関として役割が果たせるように、一般開業医および他科との連携を重点に置き診療を行っています。平成 29 年 4 月より口腔外科指導医が常勤となり、全身麻酔手術を積極的に受け入れ、総合病院ならではの手術、診療を行っていることが特徴です。

手術内容は智歯抜歯から顎顔面外傷、口腔内の良性および悪性腫瘍などを対象としています。また、他科の全身麻酔手術症例および当科悪性腫瘍手術前に歯科衛生士が中心となり、周術期口腔ケアとして口腔衛生処置を行っており、当病院における術後肺炎の予防に貢献できるよう努力しています。また入院患者さま、および外来患者さまに対する一般歯科治療も行っています。

### 【活動報告】

第 63 回日本口腔外科学会出席。第 37 回日本口腔腫瘍学会出席。

院内 診療科長会議、手術部運営委員会（上原） 医療安全推進担当者会議（長畑）

公益社団法人日本口腔外科学会研修施設：認定申請準備中

### 【症例内容】

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

外来受診者数（新患＋再診）：7,945 名（内新患患者数：680 名） 一日平均 32.6 名

<外来小手術>

下顎智歯抜歯術	102	顎骨嚢胞開窓	6
上顎智歯抜歯術	28	ガマ腫開窓	4
根尖切除術	7	ヘミセクション	1
歯根嚢胞摘出術	3	上顎洞口腔瘻閉鎖	2
良性腫瘍切除術	11	異物除去	1
計：165 例（前年 167 例）			

<全身麻酔手術および入院下局所麻酔手術>

埋伏歯抜歯	69	気管切開	2
顎骨腫瘍摘出	11	歯根嚢胞摘出	1
頸部郭清術	4	頬粘膜悪性腫瘍切除	1
骨隆起切除	4	口底悪性腫瘍切除	1
舌悪性腫瘍切除	3	上顎洞口腔瘻閉鎖	1
舌良性腫瘍切除	2	下顎骨骨折観血的整復固定	1
顎下腺摘出	2	歯牙移植	1
遊離皮弁移植	2	有病者の抜歯（局所麻酔下）	15
全層植皮	2		
全身麻酔件数計：107 例（前年 78 例）			

<周術期口腔機能管理患者数>

計：374 名（前年 235 名） 月平均 31.2 名
------------------------------

<歯科技工物>

クラウン	43	義歯修理	47
インレー	20	スプリント	15
前装冠	45	ブリッジ	20
メタルコア	86	止血床	8
仮歯＋人工歯	49	HJK（硬質レジンジャケット冠）	4
義歯新製	46		
計：383 件（前年 538 件）			

【診療内容】

手術を中心とした口腔外科的治療、周術期口腔機能管理、一般歯科の 3 本柱で診療に当たっています。平成 29 年 4 月より口腔外科専門医・指導医が常勤となったことにより、一般開業医からの紹介患者を中心に、特に口腔外科手術症例に力を注いでいます。

外来小手術としては、下顎智歯抜歯が最も多く 102 例、それに続いて上顎智歯抜歯が 28 例、口腔内良性腫瘍切除術が 11 例、根尖切除術 7 例、歯根嚢胞摘出術がそれぞれ 3 例となっています。一方、全身麻酔手術症例としては、埋伏抜歯が 69 例、顎骨腫瘍摘出が 11 例、

遊離皮弁による再建を行った手術が2例および頸部リンパ節後発転移に対する頸部郭清術2例を含め、悪性腫瘍手術が7例となっています。

平成29年度と比較して一日外来患者数平均34.3名から32.6名へとやや減少、外来手術件数は167例から165例とほぼ同数、全身麻酔症例は78例から107例に増加しています。

特に悪性腫瘍の手術に関しては、遊離皮弁移植による再建も2例、頸部郭清術は4例行いました。

歯科技工物は計383件で、昨年度の538件を下回りました。



# 看護部

## 【看護部の概要】

看護部では、平成 30 年度の目標の一つを「働きやすい職場づくりに取り組む」としました。PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）の導入、他職種との連携・協力の強化、ノー残業デーの実施など、それぞれが自部署の問題点の解決や改善に向けて取り組み、全体の 4 割の部署で超過勤務時間の削減（昨年度比）ができました。今後も数値だけでなく、働き方改革の推進など、職員が働きやすさを実感できるよう、一層取り組んでいかなければならないと考えています。

次にもう一つの目標である「受け持ち看護師を中心とした個別性のある看護を実践する」については、昨年度に引き続き、退院支援を受け持ち看護師が中心となって取り組むことを目標に行ってきました。受け持ち患者さまへの退院支援には、まだまだ個人差が見られているのが現状です。しかし、顔の見える連携交流会の参加や、カンファレンスの参加の積み重ねから、少しずつですがスタッフの意識や関わりが向上してきていると感じています。

この他、今年度は、看護師長・看護主任での合同グループ活動として、看護必要度、業務改善、看護補助者の活用、退院支援の 4 つに分かれて活動しました。看護必要度グループは、研修やテストの実施のほか、定期的な監査の実施、記載基準の改訂を行いました。業務改善グループは主として入院に関わる業務の負担軽減に向けて検討を行いました。また、看護補助者の活用グループは看護補助者の業務内容の統一と明確化に向け、業務マニュアルの見直しと改訂に取り組みました。退院支援グループは、退院支援マニュアルの見直しや外来での継続看護の実践に向け取り組みました。この活動は、次年度も継続していく予定です。

最後に、看護部では平成 24 年から当院独自の教育ラダー（看護プラネット）を用いて、看護部の教育に取り組んできました。今年度は、従来のラダーの良い点を継承しつつ、JNA（日本看護協会）版ラダーに管理ラダーを加えた新しいキャリア開発ラダーの再構築を行いました。来年度からは、その新しい教育ラダーを導入し、現場での看護実践能力の向上を目指して取り組んでいきたいと考えています。

## 【業績集】

<学会発表>

開催年月日	演 題 名	演 者	学 会 名	場 所
2018.5.25-26	産科病棟と小児病棟合併による病棟改築工事に伴う感染対策の取り組み	又賀明子 <sup>1)</sup>	第 7 回日本感染管理ネットワーク学会学術集会	仙台国際センター
2018.6.29-7.1	シャント閉塞、感染をきたした患者の止血について	海野朋枝 <sup>2)</sup>	第 63 回日本透析医学会学術集会・総会	神戸国際会議場

2018.7.28-29	皮膚・排泄認定看護師の地域の看護師に対する役割意識と課題	藤重淳子 <sup>3)</sup>	第31回日本看護福祉学会学術集会	長野県看護大学
2018.8.4-5	当院 RST 発足 1 年後の活動報告と今後の課題	保村宏樹 <sup>4)</sup>	第40回日本呼吸療法医学会学術集会	東京ドームホテル
2018.8.9-10	認定看護師による擦式ノンアルコール手指消毒薬適応選定プログラム	浅野郁代 <sup>1)</sup> 藤重淳子 <sup>3)</sup>	第49回日本看護学会—看護管理—学術集会	仙台国際センター
2018.8.18	当院 NST における栄養障害患者の早期抽出への取り組み	栗原悠仁 <sup>5)</sup>	第11回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会	くれ絆ホール
219.2.22-23	リンクナースと取り組む手指衛生向上計画	浅野郁代 <sup>1)</sup>	第34回日本環境感染学会・学術集会	神戸国際展示場
2019.2.22-23	皮膚・排泄ケア認定看護師のオストメイトに対する気付きと地域の看護師への働きかけ	藤重淳子 <sup>3)</sup>	第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	大阪国際会議場

<論文>

発表年	表題	著書等	雑誌・巻・ページ
2018	3ステップでわかる血ガスの見方（電解質と有機酸、P/F比）	保村宏樹 <sup>4)</sup>	月刊ナーシング 38 (10)
2018	人工呼吸管理下の患者への鎮静・鎮痛管理に Behavioral Pain Scale(BPS)を使用した効果（※）	福永倫子 <sup>5)</sup> 木原智行 <sup>5)</sup> 石田清子 <sup>5)</sup>	人工呼吸 34 (2) 154-161

（※）機関誌「人工呼吸」2017年度優秀論文賞受賞

1) 感染管理認定看護師、2) 透析センター、3) 皮膚・排泄ケア認定看護師、4) 集中ケア認定看護師、5) 集中治療部

<学会参加>

学 会 名	主 催	参加者数
第7回日本感染管理ネットワーク学会学術集会	日本感染管理ネットワーク学会	2
第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	2
第63回日本透析医学会学術集会・総会	日本透析医学会	1
第23回日本老年看護学会	日本老年看護学会	1
第23回日本緩和医療学会学術大会	日本緩和医療学会	1
第31回日本看護福祉学会学術大会	日本看護福祉学会	1
第3回がんサポーターシップケア学会学術集会	がんサポーターシップケア学会	2

第 68 回日本病院学会	日本病院学会	1
日本ホスピス緩和ケア協会 2018 年度年次大会	日本ホスピス緩和ケア協会	2
第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会	日本呼吸療法医学会	3
日本看護管理学会学術集会	日本看護管理学会	2
第 24 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	1
第 20 回日本褥瘡学会学術集会	日本褥瘡学会	2
第 11 回日本徐脈経腸栄養学会中国支部学術集会	日本徐脈経腸栄養学会	1
第 56 回日本癌治療学会学術集会	日本癌治療学会	1
日本手術看護学会第 32 回年次大会	日本手術看護学会	1
第 36 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、第 11 回アジアストーマリハビリテーション学会	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	1
第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会	日本環境感染学会	4
第 33 回日本がん看護学会学術集会	日本がん看護学会	2
第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会	日本静脈経腸栄養学会	1
第 46 回日本集中治療学会学術集会	日本集中治療学会	1
第 32 回自己血輸血学会学術集会	日本自己血輸血学会	3

<認定・教育研修 他>

受講研修会名	主催	受講者数
認定看護管理者教育課程サードレベル	福岡県看護協会	1
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	西南女学院大学 山口県看護協会	1 1
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	西南女学院大学 山口県看護協会	1 3
平成 30 年度医療安全管理者養成研修	山口県看護協会	2
平成 30 年度実習指導者養成講習会	山口県看護協会	1
慢性心不全看護分野研修	北里大学キャリア開発・研究センター	1
NST 専門療法士	下関医療センター	1

<その他研修参加>

内 容	主 催	受講者数
`18 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修	ヴェクソンインターナショナル 22	11
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	山口県看護協会	6

第 48 回山口県緩和ケア研究会・第 19 回 日本死の臨床研究会中国・四国支部大会	山口県緩和ケア研究会	1
第 1 回中国四国ブロック DMAT 技能維持研修	厚生労働省 DMAT 事務局	2
第 190 回 JNTEC プロバイダーコース	日本救急看護学会	3
平成 30 年度全国自治体病院看護部会研修会	全国自治体病院協議会	1
平成 30 年度結核予防技術者地区別講習会 (中国・四国)	山口県、山口県医師会、山口県歯科医師会	1
糖尿病重症化予防(フットケア)研修	日本糖尿病教育・看護学会	1
平成 30 年度新人看護職員研修(研修責任者研修)	山口県看護協会	2
平成 30 年度新人看護職員研修(教育担当者研修)	山口県看護協会	2
平成 30 年度新人看護職員研修(実地指導者研修)	山口県看護協会	1
平成 30 年度院内コーディネーター初任者研修会	山口移植医療推進財団	1
平成 30 年度看護職員認知症対応向上研修	山口県看護協会	2
第 9 回下部尿路症状の排尿ケア講習会	日本老年泌尿器学会、日本創傷・オスト ミー・失禁管理学会、日本排尿機能学会	2
ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育 プログラム	山口大学医学部附属病院 岩国医療センター	1 1
平成 30 年度実習指導者養成講習会	山口県看護協会	1
看護管理研修 看護における機能連携	公益社団法人医療・病院管理研究会	2
看護補助者の活用促進のための看護管理者研修	山口県看護協会	3
学生の気質から考える臨地実習の中での 学生の育て方	ウエストジャパン看護専門学校ほか	3
平成 30 年度実習指導強化推進事業 実習指導者と看護教員の相互研修	山口県看護協会	3
認知症の理解とケア	日本精神科看護協会	2
平成 30 年度全国自治体病院協議会看護管理研修会	全国自治体病院協議会	1
第 29 回中国ストーマリハビリテーション講習会	日本ストーマリハビリテーション学会	1
平成 30 年度全国自治体病院協議会臨地実習研修会	全国自治体病院協議会	2
第 49 回山口県緩和ケア研究会	山口県緩和ケア研究会	1
がんのリハビリテーション研修会	日本理学療法士協会	2
平成 30 年度看護職員認知症対応力向上研修	山口県看護協会	2
平成 30 年度実習指導強化推進事業実習指 導者と看護教員の相互研修	山口県	1
第 106 回放射線看護課程	放射線医学総合研究所	1
医療事故・紛争対応研究会中国・四国セミナー	医療事故・紛争対応研究会	2
平成 30 年度結核臨床研修会	山口県、山口県医師会	1
第 2 回看護師のクリニカルラダー研修	山口県看護協会	4
移植医療者関係者研修会	やまぐち移植医療財団	1

**【院内看護研究発表会】**

日時：平成 30 年 6 月 13 日（水） 17 時 30 分～18 時 30 分

平成 30 年 11 月 14 日（水） 17 時 30 分～18 時 35 分

場所：講堂

方式：学会方式（前期）（後期）

評価者：山口香世、藤重淳子（両日とも）

	演題	発表病棟	座長
前期	緩和ケア病棟看護師と一般病棟看護師の死生観の相違	緩和ケア病棟	小濱主任 (5 階西病棟)
	病棟看護要約と外来看護記録の比較から見えてきた継続看護の課題	外来	古谷主任 (3 階東病棟)
後期	悪性リンパ腫で入退院を繰り返しながら化学療法を受ける患者の気がかりの変化	6 階東病棟	木下主任 (3 階東病棟)
	シャントトラブルを起こさない透析後の止血時間と圧迫圧の検討	透析センター	恵主任 (集中治療部)

**【研修生・職場体験の受け入れ、院外活動について】**

実習受け入れ状況	ウエストジャパン看護専門学校・下関看護専門学校・下関看護リハビリテーション学校・西南女学院大学・早鞆高等学校
職場体験他	山口県立下関中等教育学校 10 月 3・4 日（3 名） 山口県立長府高等学校 11 月 14～16 日（3 名） ふれあい看護体験 8 月 7 日小学生・中学生（10 名） 一日ナース体験 8 月 20 日 中学生・高校生（14 名）
市民病院フェスタ	9 月 29 日（土）10:00～15:00（来訪者 延べ 700 名） 市民の保健室（10:00～12:00）健康相談・血圧測定・体脂肪測定・骨密度測定・血管年齢測定・物忘れプログラム、医療機器体験・ミニコンサート・バザー部門担当 [看護部参加 31 名]
まちの保健室	シーモール下関 5 月 11 日（金）13:00～15:00（来訪者延べ 121 名） 各種測定・健康相談実施（リハビリテーション部、薬剤部、栄養管理部）[看護部参加 12 名]
彦島健康フェスタ	彦島保健センター10月27日（土）10:00～12:00（来訪者延べ 226 名） 健康相談・血圧測定・体脂肪測定・栄養相談・血管年齢測定 [看護部参加 7 名]
そのほか各行事の救護班	しものせき海峡まつり（1 名）、熱血！海峡ゆめタワー階段のぼり 2018（1 名）、第 64 回山口県中学校春季体育大会（1 名）、平成 30 年度中国四国地区高等学校 PTA 連合会大会（1 名）、夏休み子ども水道教室（1 名）、平成 30 年度山口県高等学校新人陸上大会（2 名）、第 13 回市民スポーツフェスタ（2 名）、下関海響マラソン 2018（2 名）、平成 31 年下関市成人の日記念式典（1 名）、豊かなこころ

	の園児を育てる親の学習会（1名）
学校講師	ウエストジャパン看護専門学校（8名） 下関看護専門学校（5名）
その他出前講座・ 職業講座	<p>摂食・嚥下認定看護師 高橋理恵 光市立大和総合病院 「摂食・嚥下について」</p> <p>認知症看護認定看護師 林邦厚 宇部西リハビリテーション病院 「認知症看護」 下関市立豊田中央病院 「認知症事例 他職種を交えての事例検討会」 山口県臨床工学技士会 「認知症看護について」</p> <p>皮膚・排泄ケア認定看護師 藤重淳子 山口県看護協会 「平成30年度訪問看護研修ステップⅠ」 株式会社モルテン 「褥瘡の発生要因とリスクアセスメント、スキンケア」 下関市立豊田中央病院 「スキンケアとスキンケア」 アルケア株式会社 「ストーマ関連合併症への対応」 武田薬品工業株式会社 「第2回生活習慣病ケア講演会」 持田ヘルスケア株式会社 「抗真菌剤配合石鹸の褥瘡部位での使用経験」</p> <p>がん化学療法看護認定看護師 上野妙子 久留米大学認定看護師教育センター「がん化学療法看護認定看護師が関わる家族看護」</p> <p>下関市立勝山中学校「職業講話」（1名） 下関市立彦島中学校「職業講話」（1名）</p>
認定看護師による 地域医療勉強会	年2回開催（1回目・7月7日、2回目・12月1日）
認定看護師による 健康支援教室	年5回開催（1回目・7月24日、2回目・8月28日、3回目・9月25日、4回目・10月23日、5回目・11月27日）
災害支援活動	平成30年7月豪雨（広島）7月9日～11日 DMAT（2名）、8月20～23日災害支援ナース（2名）

## 【各部署紹介】

### 6階東病棟

病棟主任医師：坂井 尚二

看護師長：津森 千佳子

#### <概要>

当病棟は、病床数 49 床（独立換気を備えた有料個室 3 床・特定病床 2 床を含む）の急性期の混合内科病棟です。主な科は血液内科・消化器内科・リウマチ膠原病内科・腎臓内科ですが、呼吸器外科や消化器外科の内科的治療や緩和治療、整形外科の安静目的など、複数科を受け入れています。治療・看護は多岐に渡り、その中でも血液内科においては次々と新たな治療を試みるため、その都度勉強会を行い安全な医療の提供に努めました。

超高齢・認知症患者は増加の一途であり、入院生活に適応できないケースが多々みられます。そのような中で、病棟に所属する認知症看護認定看護師の指導を得ながらスタッフ一丸となって対応に取り組み、認知症に対する理解も深まりました。地域包括ケアシステムの構築に伴い、在宅復帰を目指す高齢患者は増加し、その多くは日常生活に何らかの支援を必要としています。退院後も可能な限り入院前と同じ生活を送ることができるよう、入院時から院内外の多職種と連携しながら個別性のある退院支援に取り組みました。

多忙な業務で時間外勤務が多く、業務改善による時間外勤務の削減を試みましたが、大きな成果は得られていません。働きやすい職場となるように、次年度も引き続き業務改善に取り組み、経営にも貢献できるように努力していきます。

#### <病棟実績>（単位：件、輸血のみ：本）

独立換気稼動	2	クリーンルーム稼動	7
化学療法	498	骨髄穿刺	22
輸血	416	生物学的製剤	12
リンパ節生検	5	胸腔穿刺・ドレーン留置	18
人工呼吸器管理	2	全身麻酔手術	8
気管切開術	2	BAE	5
TAE	5	シャント PTA	3
内シャント造設	27	腎生検	9
ERCP	60	胃瘻造設	2
胃・食道・大腸 ESD	26	ポリペク	32
EVL	4	CAG	3
下肢 EVT	1		

#### <学会・研修実績>（単位：名）

21 日間（111 時間）	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	1
2018.6.23-24	日本老年看護学会	1

2018.7.4	実習指導者研修	1
2018.10.27-28	がんリハビリテーション研修	1
2018.11.10,11.21,12.7	看護職員認知症対応力向上研修	1
2019.2.22-23	日本環境感染学会総会・学術集会	1

## 5 階東病棟

病棟主任医師：石光 寿幸

看護師長：轟木 友里

### <概要>

当病棟は、病床 52 床（有料個室 2 床、重症個室 3 床を含む）の、主に消化器外科疾患・乳腺外科疾患・呼吸器外科疾患の治療を主体とした外科病棟です。

がん治療を中心とした入院患者さまが多く占めるため、肝胆膵の内視鏡検査・周手術期・化学療法・緩和治療などのがん治療全般と、終末期ケアまでを担っています。

近年の内視鏡治療・低侵襲手術の普及で、高齢者の手術を目的とした入院も珍しいものではなくなりました。短期間での在宅復帰、その後の治療に繋げていくために、多職種と連携が求められています。医師・がん化学療法看護認定看護師はもちろんのこと、緩和ケア認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、認知症看護認定看護師、集中ケア認定看護師ら院内の認定看護師、薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカー・管理栄養士ら多職種の職員と連携し、市民の皆さまの期待に応えられる質の高いチーム医療の充実に努めました。

また、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を活用して、患者さまのニーズに合った病床で、入院生活が継続できるように院内連携にも取り組みました。

### <病棟実績>

手術件数 合計 336 件			
外科症例	254	呼吸器外科症例	77
整形外科・腎臓内科・眼科等他科手術			5
化学療法件数 総数 460 件 (主な治療疾患：胃がん・大腸がん・胆管がん・肝臓がん・膵臓がん・乳がん・肺がん)			

### <学会・研修実績>

2018.6.25-8.6	実施指導者研修（全 4 回）河田百合枝
2018.8.3-10.26	医療安全管理者養成研修（45 時間）小嶋加寿子
2018.6.28-29	第 68 回日本病院学会 演題発表（金沢市）轟木友里
2018.8.24-25	第 22 回日本看護管理学会（神戸市）轟木友里

### <災害支援>

2018.7.9-7.11 DMAT 看護師派遣（広島県）山村光子



## 5 階西病棟

病棟主任医師：山下 彰久

看護師長：谷畔 由香

### <概要>

当病棟は、平成 28 年 10 月より地域包括ケア病棟になりました。毎週「転入判定会議」を行い、急性期治療を終えた患者さまを継続的治療や在宅復帰支援するため、各病棟から挙げられた転棟候補の患者さまを、リハビリ・在宅復帰率・DPC 算定・看護必要度の観点から協議して、1 週間の転棟する患者さまを決定しています。判定会議の結果は、院内電子掲示板（My Web）等で周知を図っています。

地域包括ケア病棟としての役割を果たすため、一般病床からのスムーズな受け入れ体制を整え、退院支援に力を入れています。早期より退院支援カンファレンス・退院支援スタッフカンファレンスを行っています。退院前に地域関係医療機関とも連携をとり、退院前カンファレンスや家屋調査にも積極的に取り組み、安心して在宅療養ができる環境作りを行っています。病院から在宅への支援をスムーズに行えるよう受け持ち看護師が主体となり、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等が連携し、療養生活を支援しています。

### <平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月 退院患者内訳>

合計：1,034 件		
他の病棟からの転棟 (680 件)		
	件数	割合(%)
6 階東病棟	36	5.3
5 階東病棟	56	8.3
4 階東病棟	62	9.1
4 階西病棟	461	67.8
3 階東病棟	26	3.8
3 階西病棟	39	5.7
ICU	0	0
合計	680	100
直接入院（354 件）		
	件数	割合(%)
ポリペク（短期滞在手術 3）	18	5.1
白内障	101	28.5
シャント PTA	87	24.6
歯科入院	20	5.7
鼠径ヘルニア	32	9.1
術前待機（ヘパリン化など）	12	3.4
整形外科局所麻酔・伝達麻酔手術	15	4.2
糖尿病教育入院	5	1.4

	ミエロ入院	54	15.2
	前立腺生検	4	1.1
	その他	6	1.7
	合計	354	100

<研修実績>

2018.7.20-11.16	平成30年度山口県実習指導者養成講習会 帆足由樹子
2018.8.2	看護職が行う意思決定支援のあり方～在宅療養を推進するために 藤井三津
2018.8.30	訪問看護研修がん看護 藤井三津
2018.9.27,9.28,11.21	実習指導者と看護教員の相互研修 長谷川査予子
2018.10.20,11.19,11.30	新人看護職員研修事業研修責任者研修 谷畔由香
2018.11.1-21	認知症対応力向上研修 藤井三津
2018.12.16	第20回中国糖尿病研修セミナー 小田恵子
2019.2.21	看護師のクリニカルラダー 帆足由樹子、小濱ゆかり、谷畔由香
2019.2.21	訪問看護入門研修会 岸本啓子
2019.3.31	訪問看護実習 岸本啓子

#### 4 階東病棟

病棟主任医師：中村 隆治

看護師長：小田 純子

<概要>

当病棟は、脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科を主とした混合病棟です。51床（有料個室2床・重症個室3床を含む）のうち約半数は脳神経外科の患者さまで、残りの半数を泌尿器科と耳鼻咽喉科の患者さまという構成になっています。また最近では整形外科・呼吸器外科・歯科口腔外科・救急科・皮膚科など多種・多様な患者さまが入院し、さらに混合病棟化が進んでいます。

在院日数の短縮が推進される中、DPC係数を意識しながら安全・安心な看護を目指し、全員で協力しながら患者さまの早期回復に向けて努力をしています。今年度は病棟目標にチーム医療の推進を挙げ、退院支援に繋がられるように努めました。薬剤部の介入、リハビリテーション部、栄養管理部、各診療科とのスタッフカンファレンスを行い、情報共有に努めました。今後も早期離床を推進し、転院調整や自宅退院に向けて各部署と連携をとりながらタイミングよい退院に向けて調整を進めていきたいと考えます。また転院後も安心してリハビリを含む加療が継続できるように、地域連携パスの活用をしています。今後も患者さまとご家族の立場に立った思いやりのある看護の提供に努めます。

また、多忙な業務の中においても、ワークライフバランスを念頭におき、業務改善を常に意識し、小さな改革を進めました。その結果、スタッフ同士の声かけ、助け合いの精神による業務量の分散等もあり、時間外業務の削減を行うことができました。

<病棟実績>

手術件数 合計 304 件			
脳神経外科症例	79	泌尿器科症例	95
耳鼻咽喉科症例	130		
化学療法件数 総数 110 件 脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科			

4 階西病棟

病棟主任医師：白澤 建藏

看護師長：小戸 美智子

<概要>

当病棟は、病床数 53 床（有料個室 2 床・重症個室 3 床を含む）の整形外科中心の病棟で、看護師は 2 交代勤務を行っています。

当病棟では、運動器疾患や外傷、整形外科領域の感染の患者さまが殆どで、入院生活を送る上で様々な援助を必要としています。手術前の看護、手術直後の全身管理、リハビリや在宅生活復帰に向けての支援など、患者背景をふまえた援助が必要とされ、看護師は、安全で質の高い看護を提供するために、日々自己研鑽に励んでいます。

近年、高齢で合併症を持ちながら手術を受ける患者さまや、手術後も ADL（日常生活動作）の低下によりリハビリが進まず在院日数が長くなるケースも多くなっています。

そのため入院時から、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーション部スタッフと連携して情報の共有をはかり、患者さまやご家族が安心して退院できるよう地域包括ケア病棟を利用した退院調整や介護支援連携への取り組み、地域連携パスを活用した転院調整にも力を入れています。

平成 30 年は、整形外科の手術が 1,147 件ありました。業務改善を行い時間外勤務削減に取り組むとともに、接遇能力の向上にも取り組みました。

<病棟実績> [平成 30 年度 転院・退院状況 単位：名] ※…死亡

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転院	19	27	23	20	23	20	22	22	20	19	26	18	259
自宅退院 (施設退院を含む)	23	29	17	22	35	16	26	21	22	17	22	34	284
地域包括ケア病 棟への転棟	34	37	40	32	42	33	52	44	41	30	36	32	453
その他 (一般病棟への転棟)	1	1	1	0	1	0	0	1※	0	0	0	2	7(1※)

### 3 階東病棟

病棟主任医師：金子 武生

看護師長：下口 広美

#### <概要>

当病棟は、52床（有料個室2床・重症個室2床を含む）、循環器内科・心臓血管外科・腎臓内科を主とした病棟です。また、複数科（内科・整形外科・外科）も受け入れ、24時間モニター監視を行い、急変の予見・回避に努め迅速な対応をしております。

平成30年度の病棟看護目標は“チャレンジ3東！成長する組織へ”でした。入院から退院後まで質の高い看護を途切れなく行うためには、業務改善に取り組み、多職種で退院支援に取り組むことが必要です。そのため、多職種でのカンファレンス・地域との関わり・ケアマネジャーとの連携・患者さまのご家族との信頼関係の構築をまいりました。

疾患に対する取り組みもパワーアップしております。下肢EVTや、ABL目的の入院が増えたため、今まで以上に休日の入院を受け、市民のニーズに答えてきました。心臓血管外科の急患も多くなり、ますます当病棟の役割が必要であることを感じています。

今後も市民のために、安心の優しい医療が提供できるように努力し続けます。

#### <平成30年度 症例件数>（単位：例）

開心術	172	F-F・F-P	20
ストリッピング術	8	CAG	449
PCI	170	PMI	31
EVT	153	ABL	31
シャントPTA	7	CAPD導入	1
PET	5	人工呼吸器管理	10
ASV管理	50		

### 3 階西病棟（女性と子どもの病棟）

病棟主任医師：前田 博敬

看護師長：重永 洋子

#### <概要>

3階西病棟は「女性と子どもの病棟」として、妊娠・出産・子育て期にわたり、継続的に支援できる体制作りをしてきました。しかし平成30年6月で産婦人科医師1名が退職し、これまで続けてきた常勤医師2名体制が困難となりました。済生会下関総合病院と提携し「産科セミオープンシステム」（普段の妊婦健診は通院が便利な当院で、お産については済生会下関総合病院で行う）を導入し、7月からは「計画分娩」（医師、助産師の体制が整う日に分娩を計画する）に変更し安全な分娩が行える体制を整えてきましたが、平成30年10月で分娩は休止となりました。助産師5名はアドバンス助産師の資格者で、母乳で悩んでいる方の相談に対応しています。

病床数は29床で、入院対象は、女性と子ども（新生児～中学3年生まで）で、現在はす

すべての診療科の女性患者さまが入院され、整形外科、外科、消化器内科などの患者さまが増えました。未経験の治療や検査に対応できるようスタッフ一同取り組んでいます。

コンセプトは変わらず「患者さんを中心として家族単位で療養できる安全で快適な病棟」で、「女性と子どもの病棟」の理想形を目指しています。小児の患者さまは全員が当病棟に入院されます。子どもたちは、心身ともに日々成長しています。年齢に応じたコミュニケーションを図り、患児の頑張る力を引き出せるように支援しています。また、お子さまの入院で心痛されているご両親への配慮も心がけています。

#### <基本方針>

入院した女性や子どもが家族と一緒に過ごすことで安心して療養できること

#### <平成 30 年度トピックス>

- ・ 平成 30 年 4 月 乳がん化学療法入院受入開始
- ・ 平成 30 年 11 月 大腸がん化学療法入院受入開始

#### <科別新入院患者数> (単位：名) 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

産婦人科	32	耳鼻咽喉科	67
小児科	380	泌尿器科	2
小児外科	57	血液内科	8
整形外科	193	皮膚科	11
歯科・歯科口腔外科	43	腎臓内科	12
外科	117	消化器内科	51
救急科	6	循環器内科	9
眼科	1	心臓血管外科	28
内科	3	呼吸器外科	21
脳神経外科	4	緩和ケア内科	2
		患者総数	患者総数 1,047 名

#### 緩和ケア病棟

病棟主任医師：牧野 一郎

看護師長：下野 美奈

#### <概要>

緩和ケア病棟とは、がんなどの悪性腫瘍を患った患者さまやご家族の抱える身体的な苦痛や気持ちのつらさ、精神的な不安が和らぐように支援することを目的とした病棟です。

病床数は 20 床で特別個室 2 床、個室 14 床、2 人床室 4 床を配置しています。入院される患者さまのがん種は多岐にわたっており、本年度は特に、呼吸器系、肝・胆道系、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科の方が多かったのが特徴です。年齢も 30 歳代から 90 歳代と様々な年齢の方に療養していただいています。

がんそのものを治療することはできませんが、付随する症状についての治療を積極的に行っています。また、様々な症状コントロールを行い、体調を整えて在宅療養をされる患者さまが増えているのも特徴の一つです。そのためにリハビリテーションも積極的

に取り入れています。

患者さまに四季を感じていただけるように季節ごとの行事を催したり、お誕生日にはご家族だけでなくスタッフも一緒にお祝いをしています。患者さま、ご家族の思い出作りに役立てたらと考えています。

患者さま、ご家族の意志を尊重し、気持ちに寄り添う看護を目標に、緩和ケア認定看護師を中心にケアの質の向上を目指しています。また、皮膚・排泄ケア認定看護師、リハビリテーション部、栄養管理部、医療ソーシャルワーカーとも連携を取りながら看護を行っています。

<病棟実績> (単位：名) 平成30年4月1日～平成31年3月31日

入院数	自宅より	33	転院	60	院内より	63
退院数	自宅退院	14	転院	6	死亡退院	133
平均在院日数：36.08日						

<主な学会・研修実績>

日本がん看護学会
第23回日本緩和医療学会
第42回死の臨床研究会
第56回日本がん治療学会集会
第16回山口がんチーム医療研究会
日本ホスピス緩和ケア協会年次大会
第48回・49回山口県緩和ケア研究会・世話人会
第9回下関チーム医療緩和ケア懇話会 [座長]・幹事会
下関医療圏緩和ケア看護師ネットワーク研修会・世話人会
第20回日本医療マネジメント学会
エンドオブライフ・ケア研修会
ELC 山口研修会
緩和ケア研修会 [企画・講師]

## 集中治療部 (ICU)

集中治療部部長：中原 千尋

看護師長：石田 清子

<概要>

病床数：8時30分から24時まで10床運用、0時から8時30分まで8床運用

集中治療部は中原部長のもと、2対1看護体制をとっています。救急初期治療後の患者さま及び心臓血管外科をはじめとする術後や、重症呼吸不全、循環不全など集中治療管理を要する患者さまを受け入れています。また、臨床工学部の協力のもと、血液浄化、体外循環管理を行っています。全身麻酔手術症例や合併症を有する高リスク症例は、ICU内で数時間術後管理を行い、安全に当該病棟へ移動できる体制をとっています。また、

本年度からは E-MAT (Early Mobilization Assistance Team : 離床チーム) が設置され、入室患者さまの早期離床・リハビリテーションの取り組みを始めました。

平成 30 年度は、年間入室者数 749 名、平均延べ入室患者数 212.83 名/月、平均在室日数 2.82 日でした。集中治療管理は各科の主治医が行い、入退室基準に基づき、スムーズに入退室が行われるようにしています。

日々、変化していく医療体制の中、最新の情報を取り入れ、安心して安全な医療・看護を提供できるように、スタッフ全員で取り組んでいます。

平成 30 年度 ICU 科別入室患者数													
科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
外科	24	23	26	25	32	26	27	28	21	24	20	26	302
脳神経外科	5	6	3	4	4	8	5	1	7	7	8	3	61
循環器内科	7	4	7	10	5	6	8	7	10	10	9	7	90
心臓血管外科	3	8	9	7	9	10	6	9	14	11	10	10	106
整形外科	13	15	8	6	5	6	5	13	14	9	5	9	108
内科	1	3	0	0	4	0	1	1	0	2	3	3	18
救急科	3	3	2	2	2	3	3	5	3	1	0	1	28
泌尿器科	0	1	2	2	1	3	4	2	4	4	2	1	26
その他	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	7
計	59	64	57	56	62	62	59	67	73	68	57	62	746

#### <学会実績>

2018.8-4-5	第 40 回呼吸療法医学会学術集会 「RST 活動報告」: 保村宏樹
2018.8.18	第 11 回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会 「栄養障害患者の早期抽出を目的とした CONUT 変法の導入検討」: 栗原悠二
「人工呼吸管理下の患者への鎮静・鎮痛管理に Behavioral Pain Scale (BPS) を使用した効果」(福永倫子、木原智行、田中亜紀、石田清子: 2016 年呼吸療法医学会学術集会において演題発表、2017 年 11 月発行機関誌「人工呼吸」第 34 巻 2 号掲載) 2018 年、日本呼吸療法医学会 2017 年度優秀論文賞に選出	

#### 救急部

救急部 部長: 中原 千尋

看護師長: 山口 香世 (化学療法センター及び 1 階東病棟 (感染症病棟) 師長兼務)

#### <救急部基本方針>

- (1) 夜間、休日の受診患者さんに対しても「安心の優しい医療」を提供する
- (2) 4 病院による輪番制 2 次救急体制での責務を果たす
- (3) ウォークイン、紹介、救急搬送患者さんのいずれも原則として断らない

### <概要>

当院は下関医療圏の二次救急医療機関としての役割を担っており、日本救急医学会救急科専門医指定施設として認定されています。救急部部長の中原医師を中心に当部署は上記の救急部基本方針に則り、本館1階救急センター（診察室：4室（うち簡易独立換気個室1室）・処置室：ストレッチャー3台・点滴室：ベッド3床）で診療・処置を行っています。

また、救急センターは救急外来診療の他に、各外来経由の点滴・輸血・処置・自己血貯血を行っています。中央処置室の開設に伴い、救急センターでの救急を要しない処置は減少傾向にあり、院内の業務分担が最適化されてきました。

院内全体の救急急変時対応、および救急看護の質の向上を目的に、毎月第1金曜日に全職員を対象に救急シミュレーションを開催、第3金曜日にはハリーコール（院内で患者さまの容態が急変した際の緊急コール）の検証を行っています。

平成30年度の救急部における救急受診の内訳は以下に示します。

### <救急実績>（単位：件）平成30年4月1日～平成31年3月31日

救急外来受診件数 （うち入院件数）	5,806 2,028
救急車受け入れ件数	2,456
CPA受け入れ件数	48

### <学会・研修実績>

2018.4.21	第2回下関市立市民病院 ICLS 講習会	[アシスタント参加者] 山口香世、磯部紀子
2018.6.2-3	第190回 JNTEC プロバイダーコース	山口香世、磯部紀子
2018.8.25-26	第31回 JNTEC インストラクターコース	磯部紀子
2018.9.21	平成30年度第1回山口県院内コーディネーター会議・ 山口県移植医療に関するワーキンググループ会議	工藤真理子
2018.10.2-5	平成30年度第5回東日本 DMAT 隊員養成研修	鋤田浩利
2018.11.17	第3回下関市立病院 ICLS 講習会	橋本恭子、木村理沙 [アシスタント参加者] 山口香世、磯部紀子、 藤井晶子
2019.1.20	第1回山口 PEEC コース in 下関市立市民病院	飯垣昌文
2019.2.9	移植医療関係研修会	工藤真理子

### 化学療法センター

化学療法センター長：石光 寿幸

看護師長：山口 香世（救急部及び1階東病棟（感染症病棟）師長兼務）

### <概要>

新館1階化学療法センター（ベッド数：12床（リクライニングチェア4床+ベッド8床）



うち個室 1 室)) で全診療科の外来で実施可能な化学療法を受ける患者さまを対象とし、がん化学療法および、炎症性腸疾患やリウマチ、ベーチェット病などの生物学的製剤による治療を実施しています。

患者さまが安全に安心して治療を受けることができるよう、医師、看護師、薬剤師等の多職種がチームとなって、多方面から患者さまをサポートする体制を整えています。毎週 1 回、多職種で外来化学療法カンファレンスを実施し、最新のガイドラインやエビデンスをもとに、患者さまに応じた最適なレジメンを検討し、治療方針等の情報共有や、有害事象に対する対処方法の検討等を行っています。また、毎朝、曜日別の専任医師と、看護師、薬剤師によるショートミーティングを行い、過敏症発生時にはすぐに対応できる体制としています。

#### <センター実績>

平成 30 年度 外来化学療法件数

総件数：2,210 件（平成 29 年度より 67 件増）

内訳 がん化学療法：1,545 件 生物学的製剤：665 件

#### <学会・研修実績>

2018.6.9	第 19 回がん看護に携わる認定看護師のためのフォローアップ研修会 テーマ：がん化学療法看護認定看護師が関わる家族看護	[座長] 上野妙子 久留米大学認定看護師教育センター
平成 30 年度がん化学療法委員会主催研修会		
2018.10.4	化学療法セミナー ～がん免疫療法～ 演題「進行胃癌に対する最新薬物療法」 広島市立市民病院外科部長 丁多泰宏	[座長] 中原千尋 下関市立市民病院
2019.2.7	化学療法セミナー 講演 1「MSI 検査提出について」 下関市立市民病院検査部技師長 川元博之 講演 2「免疫チェックポイント阻害剤とマイクロナサテライト不安定性」 下関市立市民病院呼吸器外科部長 井上政昭	[総合司会] 石光寿幸 下関市立市民病院

#### 透析センター

透析センター長：坂井 尚二

看護師長：松本 和美

#### <概要>

透析センターは、腎臓内科医師 3 名、看護師 16 名、臨床工学士 7 名、看護補助者 1 名、クラーク 1 名で組織しています。「安全で、質の高い心の通った医療を提供致します」を理念に、血液透析及び腹膜透析をはじめとして血漿交換・腹水濾過・白血球除去など幅広い血液浄化を行っています。透析ベッド数は 32 床。血液透析は、午前・午後 2

クール体制で、月曜日～土曜日まで毎日行っており、他施設からの紹介も柔軟に対応しています。夜間透析は行っていません。

維持透析患者数は約 98 名前後で、平成 30 年度 透析件数は 15,341 件でした。透析導入数は、血液透析 35 名、腹膜透析 2 名でした。専門的知識と技術を用いて、安全で安心できる治療・ケアを提供するとともに、透析を継続していく上で抱える様々な問題に対し、相談、助言、調整を行っています。腹膜透析においては患者数 7 名で腹膜外来も行っていきます。

透析患者さまの下肢末梢動脈疾患の重症化予防としてフットケア・足回診、血液透析にとって重要なシャント管理としてシャント加圧マッサージの取り組み、新たに、透析後に起立性低血圧をきたす患者さまに対して透析中の運動療法に取り組んでいます。また、保存期の患者さまに、少しでも将来の透析に対する不安を軽減するよう腎代替療法の説明を行っています。また、スタッフの知識の向上を図るために、日本透析学会や近隣施設における研修・勉強会などにも積極的に参加をしています。

## 手術部

手術部部長：井上 政昭

看護師長：吉富 京子

<理念> 『安心』『安全』『ハートフル』

<概要>

手術室 6室 家族説明室 1室

(勤務体制) 平日 日勤

土・日・祝日 2名の8時間オンコール体制

(大型連休の救急輪番日 24時間オンコール体制)

\*平成 30 年 1 月より、土・日・祝日の救急輪番日・外科当番日も 24 時間オンコール体制をとっています。

全ての手術を受けられる患者さまが安全な治療を受けられるように、質の高い医療・看護の提供を心掛けています。麻酔科医・臨床工学技士・放射線技師や他部門のスタッフ、中央材料室・委託業者など医療従事者以外の多職種とも連携をとり、チーム医療を実践している部門です。周術期管理チームとして 2 名(看護師 1 名・臨床工学技士 1 名)が加わり、令和元年より活動を開始します。

<平成 30 年度 手術件数>

外科	428	歯科口腔外科	63	合計 2,357 件
呼吸器外科	97	小児外科	40	
整形外科	1,115	眼科	131	
心臓血管外科	153	産婦人科	6	
脳神経外科	56	ペイン (麻)	2	
泌尿器科	89	腎臓内科	55	
耳鼻咽喉科	121	皮膚科	1	

# リハビリテーション部

## 【スタッフ】

医師	山下彰久				
理学療法士	安部裕美子	宮野清孝	長谷知枝	水野博彰	鐘井光明
	小林健治	山田景子	池田高超	白幡雄大	宮田辰成
	宇都宮功一	木下修平	梅本翔	竹永秀平	月城一志
	伊藤大地	石村優人	中村祐太	平沼侑花	
作業療法士	錢本公子	平佐田紘子	黒瀬大貴	本村厚郎	和田将平
	中居昭博				
言語聴覚士	上田加津子	内田朋宏			
助手	山瀬陽加	大下夏栄			

## 【理念】

安心、安全に早期リハビリテーションの充実・促進を図ることにより、早期回復を促し、患者様の退院・転院の橋渡しを的確にできるよう努める。

## 【方針】

当部においては、急性期のリハビリテーションの役割を担っていると考え、主として発症まもない患者様、手術後まもない患者様を対象として積極的にリハビリテーションを実施します。

また、退院後の治療継続が必要な患者様においては、外来でのリハビリテーションを実施します。

## 【主な対象疾患】

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）  
骨折・外傷・脊椎脊髄疾患・関節疾患・関節リウマチ・切断など
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）  
脳出血・くも膜下出血・脳梗塞・頭部外傷など
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）  
廃用症候群（腎不全・腎盂腎炎・胆のう炎・脱水など）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）  
慢性閉塞性肺疾患・喘息・肺炎など
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）  
心筋梗塞・心不全・心大血管疾患術後等
- ・がん患者リハビリテーション料  
各種がん疾患・手術後・化学療法や放射線による治療中・治療後等

### 【重点診療方針】

- ・ 早期リハビリテーションの充実・促進
- ・ 患者様の満足度向上
- ・ チーム医療の充実

### 【施設基準】

- ・ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ がん患者リハビリテーション料

### 【概要】

平成 30 年度は、理学療法士を 4 名、作業療法士を 1 名増員し、理学療法士 19 名、作業療法士 6 名、言語聴覚士 2 名、助手 2 名の計 29 名の体制で、当院の基本方針・当部の重点診療方針に基づき、様々な疾患や外傷に伴って発生した障害をもつ患者さまに対して、発症早期または手術後早期よりリハビリテーションを実施しました。

平成 30 年度の重点目標として、『専門性を活かす』『退院支援の強化』『働きやすい職場作り』の 3 つを掲げ、取り組みました。

『専門性を活かす』については、前年度まで目標に掲げて高めてきた知識や技術を実際のチーム医療の中で活かし、それぞれの専門職としての役割を發揮するよう努めました。疾患の発症、術後早期から積極的に介入し、多職種と連携し、早期離床・早期回復・早期 ADL 獲得等を目指しました。

『退院支援の強化』については、入院期間の短縮の中で、いかに効率的な医療を提供するかを意識し取り組んできました。入院当初からこれまでの患者さまの生活等を多職種で共有し、退院後の生活を見据え、段階を追いながら計画的にリハビリテーションをすすめるよう努めました。

積極的に退院前カンファレンスへの参加や退院前訪問を実施し、患者さま、ご家族、ケアマネジャー等へ動作指導をはじめ、サービス利用や家屋改修・福祉用具の選定などの提案を行いました。今後も、患者さま、ご家族の思いに沿って、一人ひとりに合った患者中心のリハビリテーションの提供を心がけていきたいと考えております。

『働きやすい職場作り』については、今年度も、全スタッフとの面談や利用可能な制度の周知等を行いました。昨年より、検討事項として挙がっていた業務内容・勤務体制の見直しや業務の効率化などについては、十分な取り組みができませんでした。今後は、課題を一つでもクリアし、少しでも働きやすさを感じる職場を目指してまいります。

これまで経験したことの無い超高齢社会が進んでおり、当院の患者さまも高齢者が多く、その中でも独居の方や老老介護の方々、虚弱高齢者などが増えてきています。そのため、いかに住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けていただくかを常に意識することは重要と考えています。

今後も、我々リハビリテーション専門職が、急性期の段階から積極的に関わり、地域の多職種とも連携を強化し、地域の住民を支える医療の柱となれるよう努めていきたいと考えております。

【治療実績】（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

1) リハビリテーション処方数

平成 30 年度、リハビリテーション部に処方された患者数は 2,709 名（前年より 145 名増、前年比 5.7%）で、その疾患内訳数は表 1 に示します。全体数の中で運動器疾患が 41%、脳血管疾患等が 10%、廃用症候群が 18%、呼吸器疾患が 8%、心大血管疾患が 11%、がん疾患 12%を占めました。

表 1 リハビリテーション処方数（疾患別）

（単位：件,前年比：%,マイナス：▼）

疾患別名	処方数	前年比
運動器	1,099	2.9
脳血管疾患等	261	▼4.0
廃用症候群	491	11.9
呼吸器	217	50.7
心大血管疾患	315	▼7.4
がん疾患	326	7.9
合計	2,709	5.7

2) リハビリテーション実施延べ単位数

総数は 68,866 単位（前年より 264 単位減、前年比 0.4%減）。疾患・外来・入院別の内訳は、表 2 に示します。療法別の内訳は、表 3 に示します。

表 2 疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（外来・入院別）

（前年比：%,マイナス：▼）

	外来	前年比	入院	前年比	合計	前年比
リハビリテーション	7,592	21.2	61,274	▼2.5	68,866	▼0.4
運動器	7,156	19.1	29,105	▼5.1	36,261	▼1.2
脳血管疾患等	342	159.1	14,565	▼5.0	14,907	▼3.6
廃用症候群	18	▼85.2	8,976	4.5	8,994	3.2
呼吸器	6	0	2,376	21.8	2,382	22.1
心大血管疾患	70	69	3,085	▼13.3	3,155	▼11.4
がん患者			3,167	15.0	3,167	15.0

表3 疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（療法別）

（前年比：％，マイナス：▼）

	理学療法	前年比	作業療法	前年比	言語聴覚療法	前年比
運動器	32,081	▼2.1	4,180	6.9		
脳血管疾患等	5,760	▼9.1	6,424	▼2.4	2,723	7.1
廃用症候群	6,833	2.1	228	▼30.5	1,933	14.2
呼吸器	2,274	19.9	108	1		
心大血管疾患	3,136	▼11.6	19	58.3		
がん患者	2,692	18.2	243	148.0	232	▼38.6
合計	52,776	▼1.4	11,202	2.0	4,888	6.0

3) 退院患者の自宅復帰率

自宅復帰率は、全体で63.2%（前年より5.9%増、前年比10.3%）。疾患別の内訳は表4に示します。

表4 疾患別リハビリ別 自宅復帰率

（単位：人，前年比：％，マイナス：▼）

疾患別名	自宅復帰率	前年比
運動器	64.4	8.8
脳血管疾患等	44.9	30.5
廃用症候群	61.8	21.4
呼吸器	64.7	10.2
心大血管疾患	67.4	8.9
がん疾患	75.9	▼3.7
平均	63.2	10.3

4) 日常生活自立度の改善状況（BI値の変化）

各疾患において差はありますが、BI値利得は増えており改善がみられたといえます。

	運動器	脳血管疾患	廃用症候群	呼吸器	心大血管疾患	がん患者
リハビリ介入時	35	30	33	38	38	38
退院・転院時	79	65	55	63	78	79

【業績集】

<ファシリテーター>

開催年月	演題名	発表者	学会名	場所
2018.10	「がんのリハビリを实践する上での問題点」	安部裕美子	がんのリハビリテーション研修会	山口

<発表>

開催年月	演題名	発表者	学会名	場所
2018.6	「退院時リハビリテーション指導料算定率向上への取り組み」	宮野清孝	第68回日本病院学会	金沢
2018.7	「理学療法を実施した当院RST対象患者のADL転帰に影響を与える要因」	水野博彰	第6回日本呼吸理学療法学会学術大会	横浜
2018.9	「直腸癌術後に急性窮迫症候群を発症した患者に対する腹臥位療法の経験」	水野博彰	第1回山口県理学療法士会下関ブロック症例検討会	下関
2018.9	「上腕骨近位端骨折後にスクリー骨頭穿破および内反転位を呈した症例」	水野博彰	第1回山口県理学療法士会下関ブロック症例検討会	下関
2018.11	「肩関節屈曲時に側胸部皮膚は伸張される」	水野博彰	第28回山口県理学療法士学会	萩

【社会貢献活動】

2018.8	全国高等学校野球選手権山口大会	サポートスタッフ 水野博彰・鐘井光明・伊藤大地・平沼侑花
2018.9	平成30年度ふくふく健康21フェスタ	イベントスタッフ 内田景子・宇都宮功一・伊藤大地・石村優人・中村祐太・安部裕美子・内田朋宏
2018.10	第18回全国障がい者スポーツ大会福井元気しあわせ大会(福井市)	山口県男子バレーボールチームトレーナー帯同 宮野清孝・内田朋宏
2018.11	下関海響マラソン大会2018	サポートスタッフ 月城一志・安部裕美子・宇都宮功一・伊藤大地・中村裕太

【下関市生涯学習まちづくり 出前講座】

開催年月	テーマ	講師
2018.5	腰痛予防	鐘井光明・月城一志
2018.5	腰痛予防	宮野清孝・竹永秀平
2018.5	転倒予防	内田景子
2018.6	転倒予防	宇都宮功一
2018.7	腰痛予防	小林健治・池田高超
2018.9	腰痛予防	竹永秀平・池田高超
2018.11	転倒予防	宇都宮功一
2018.12	腰痛予防	月城一志・小林健治

2019.1	転倒予防	水野博彰・中村祐太
2019.2	腰痛予防	鐘井光明
2019.2	転倒予防	梅本翔・石村優人



# 放射線部

## 【概要】

放射線部は、診療放射線技師と放射線診断科・放射線治療科の医師、看護師などが互いに協力しながら一般撮影、CT、MRI、RI、血管撮影、消化管検査、透視下内視鏡検査、放射線治療などの幅広い領域で検査・治療を行っています。また、放射線に携わる医療人としての課題を認識しながら、常に安全で安心な患者さま中心の診療に努めています。

当院では FPD（フラットパネル）装置を一般撮影室全室（4 室）に導入し、積極的に被ばく線量の軽減を実践しています。他の検査機器でも被ばく低減を心がけ検査治療を実施しています。また、医療画像診断において電子カルテシステム、RIS（放射線部門情報システム）、PACS（放射線医用画像システム）の 3 つをネットワークで結ぶことにより、検査の効率化を実践し、検査の実施、即日所見作成に対応しています。

当院は、通常業務に加え二次救急病院として昼夜を問わず 24 時間急患対応を行うため、放射線部でも、一般撮影・CT・MRI・血管造影業務の緊急検査依頼にも対応しています。

また、各人が認定資格を取得し最先端の医療技術に対応できるよう医療人としてのスキルアップを図っています。

平成30年度の放射線部の人員は、退職者と新卒者の採用が重なり実質定員減のままの総勢18名（診療放射線技師は正規職員13名・有期雇用職員1名・事務関係4名）でした。今年度も『安全で安心な検査と治療への取り組み』を目標に掲げました。

部内では人員不足により配置を考えながら業務を行う過酷な日々が続きましたが、9月に念願の中途採用者が採用され、診療放射線技師15名の人数だけは確保でき、現在当直などに携われるよう新人・中途採用の2名は自己研鑽中です。

そのような状況の中、今年はCT認定診療放射線技師が1名誕生しました。

今後も放射線部職員は日々の研究に加え、認定技師資格取得を目指し努力を続けていきます。

## 【主な放射線機器装置】

一般撮影装置	4	泌尿器・婦人科専用 X 線 TV 装置(DR)	1
FPD 一体型撮影装置	1	64 MDCT 装置	2
乳房撮影装置	1	ワークステーション VINCENT	1
パノラマ撮影装置	1	1.5TMR 装置	1
骨密度測定装置	1	デジタルガンマカメラ装置	1
ポータブル撮影装置	4	バイプレーン血管撮影装置	1
CR システム	4	多目的血管撮影装置 (IVR・CT)	1
FPD・カセット型パネル	8	ヘリカル CT 装置 (16 列)	1
外科用イメージ	3	ライナック装置	1
X 線 TV 装置 (FPD)	2		

【関連学会等の認定資格取得など】 ☆は平成 30 年度新規取得者有

認定などの名称	人数	認定などの名称	人数
第一種作業環境測定士	1	救急撮影認定技師	1
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	4	放射線機器管理士*	2
消化器内視鏡技師	1	医療画像情報精度管理士*	1
医療情報技師	1	Ai 認定診療放射線技師	1
X 線 CT 認定技師☆	2	胃がん X 線検診技術部門 B 資格	2
シニア診療放射線技師認定*	1	アドバンスド診療放射線技師認定*	1
ICLS (日本救急医学会認定)	1		

\*は (公益社団法人) 日本診療放射線技師会認定資格

【代表的な参加学会・研究会等】 \*は役員有

日本放射線技術学会	山口 CT UPDATE セミナー
日本診療放射線技師会	21 世紀山口核医学セミナー
山口県診療放射線技師会	* 山口乳腺画像研究会
* 山口 MR 撮影技術研究会	* 山口 IVR 懇話会
山口放射線治療研究会	* 下関乳腺画像診断カンファレンス
山口核医学技術検討会	九州循環器撮影技術研究会
CT テクノロジーセミナー	九州放射線治療システム研究会
山口 MRI UPDATE	山口マルチモダリティセミナー

【検査数】 (2018.3.11 より更新された新富士通統計ナビゲータにより抽出)

項 目		件 数	合 計
一般撮影系 (延数)	一般撮影	44,956	54,228
	病棟撮影	7,183	
	手術室撮影	2,089	
CT 検査	単純	3,401	14,665
	造影	11,264	
MR 検査	単純	4,769	5,166
	造影	397	
透視下内視鏡検査 (延数) (延数)	消化器系	11	613
	気管支系	103	
	ERCP 関係	497	
	その他	2	
DR 検査	上部消化管	841	1,484
	下部消化管	83	
	肝胆膵・Tubu 系	118	
	泌尿器系	178	
	脊椎骨関係	242	

	その他	22	
核医学検査	脳神経系	24	242
	循環器系	72	
	全身検索系	144	
	その他	2	
血管造影・CT透視等	(延数)	1,321	1,321
放射線治療		135	135

### 【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	学会名	場所
2018.6.30	教育講演 「当院における脳血管内治療」 特別講演 「急性期脳梗塞に対する再開通療法」	高山裕健 [座長]	山口 IVR 懇話会	山口県立 総合医療 センター (防府市)
2018.9.21-23		片岡峰雄 高山裕健 菊地友紀 [実行委員]	第34回日本診療 放射線技師会学 術大会	海峡メッ セ下関・下 関生涯学 習プラザ (下関市)
2018.9.23	公開フォーラムⅡ ピンクリボンシンポジウム よく知ろう・受けよう乳がん検診 ーあなたとあなたの家族のためにー	高山裕健 菊地友紀 [座長]	第34回日本診療 放射線技師会学 術大会	海峡メッ セ下関・下 関生涯学 習プラザ (下関市)
2018.12.15	症例提示・症例検討発表	菊地友紀	山口乳腺画像研 究会	山口大学 医学部 附属病院 (宇部市)
2019.2.23	情報提供 「圧縮センシングの基礎」	細田文吾 [座長]	山口 MR 撮像技 術研究会	山口大学 医学部 附属病院 (宇部市)

# 検査部

## 【概要】

検査部は、検査部長 1 名、臨床検査技師 33 名（正規職員 17 名、有期職員 16 名）、事務職員 0.5 名で構成されています。検査室は、建物の構造上、外来検査室（一般検査、血液検査、血液管理センター）、生理検査室、免疫血清・生化学検査室、細菌検査室、病理検査室の 5 部門に分かれています。

当院は、地域の拠点病院としての責務を担い、24 時間救急体制に応える形で、日当直による迅速検査業務を多く実施しています。日常検査は、正確なデータを臨床側に提供することを常に念頭におき、検査項目の見直しに心掛けています。日本臨床衛生検査技師会標準化事業の共用基準範囲を取り入れて運用開始し、制度保証施設に認証されることで、確実なる検査室運営に努めています。

生理検査部門においては、心臓・腹部・体表などほとんどのルーチンでの超音波検査は、臨床検査技師が行っています。また、耳鼻咽喉科で看護師によって行われていた聴力・重心動揺検査を臨床検査技師が測定しています。健診センターへも派遣し、協力体制をとっています。

日当直は通常 1 名で、救急指定日は 1 名待機とし、血液、生化学、凝固、感染、免疫等様々な検査に加え、輸血業務やノロウイルス、ロタウイルス、レジオネラ菌、肺炎球菌、マイコプラズマ抗原の迅速検査を実施、キットに対しては適宜見直しを行っています。グラム染色や結核菌染色も依頼があれば実施し、また心電図検査も臨床検査技師が行っています。血液培養は 24 時間受付、陽性反応が出た場合は、時間外でも分離培養し、1 日でも早く結果を報告し、臨床に役立つよう努めています。

機器更新としては、細菌検査室に、質量分析装置（マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析法、MALDI バイオタイパー、ブルガーダルトニクス社）を導入しました。菌の同定、菌名報告が 1 日以上短縮され、治療選択、在院日数短縮へ貢献しています。生理検査室は、肺機能検査装置（CHESUTAC-8900、チェスト社）を更新しました。

電子カルテ（富士通）の 7 年目の更新に伴い、検体検査部門システム（富士通、HOPE/LAINS-GX）、輸血システム（バイオ・ラッド）、生理検査システム（富士通）、細菌システム（シスメックス）、病理システム（広鉄計算センター）が最新版に更新され、各々連携をさらに図りました。

平成 30 年 12 月施行の「医療法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備に関する省令」に伴う検体検査の品質・精度確保を遵守するために、作業書の見直しや部門システムを活用して在庫管理を構築しました。

院内活動では、輸血療法委員会、病院機能向上委員会、感染管理委員会、NST（栄養サポートチーム）運営委員会、管理運営会議など多くの委員会、また院内講演、学習支援活動等へ参加し、チーム医療の一員としての活動に努めています。糖尿病教室では、1 コマを検査部が担当し、検査の意義、検査値の解釈について講義しています。整形外科の手術に必要な自己血採取においては、看護師 1 名と臨床検査技師 1 名が協力し実施しています。

検査部内の勉強会を不定期ながら実施し、スキルアップを図っています。院外活動として、臨床検査技師会、専門学会をはじめ、多くの研修会、勉強会などに積極的に参加し、能力の向上に努力しています。

【検査実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比 (%)
一般検査														
便検査	98	221	316	326	370	290	365	375	257	324	397	132	3,471	110.1%
尿検査	2,348	2,608	2,418	2,665	2,812	2,317	2,790	2,690	2,442	2,575	2,880	2,334	30,879	102.5%
穿刺液・採取液	34	24	25	36	38	15	45	22	25	29	25	29	347	114.5%
ピロリ菌検査	7	10	5	7	11	6	12	9	3	10	6	9	95	93.1%
小計	2,487	2,863	2,764	3,034	3,231	2,628	3,212	3,096	2,727	2,938	3,308	2,504	34,792	103.3%
血液学検査														
血液形態/機能	5,096	5,576	5,381	5,234	5,848	5,065	5,790	5,674	5,256	5,483	5,508	5,113	65,024	103.1%
出血凝固検査	1,291	1,450	1,393	1,409	1,507	1,337	1,540	1,500	1,433	1,525	1,441	1,482	17,308	107.7%
小計	6,387	7,026	6,774	6,643	7,355	6,402	7,330	7,174	6,689	7,008	6,949	6,595	82,332	104.0%
生化学検査														
生化学	5,265	5,728	5,549	5,422	6,033	5,188	5,925	5,840	5,462	5,698	5,653	5,304	67,067	103.2%
糖尿病検査	847	1,018	1,071	1,057	1,148	937	1,057	1,101	1,007	991	1,275	902	12,411	103.7%
血液ガス分析	339	367	375	373	472	366	397	435	417	439	387	361	4,728	116.6%
尿生化学	394	409	388	402	453	356	407	385	400	376	364	365	4,699	106.7%
小計	6,845	7,522	7,383	7,254	8,106	6,847	7,786	7,761	7,286	7,504	7,679	6,932	88,905	104.1%
血清学検査														
血清検査	1,819	1,902	1,860	1,866	2,066	1,698	1,987	1,954	1,775	1,894	1,981	1,858	22,660	105.3%
血中薬物検査	44	35	43	26	54	39	21	44	37	56	24	28	451	100.7%
小計	1,863	1,937	1,903	1,892	2,120	1,737	2,008	1,998	1,812	1,950	2,005	1,886	23,111	105.2%
輸血関連検査														
血液型・不規則検査	335	426	417	415	455	395	462	461	381	444	428	311	4,930	104.6%
交差試験	162	196	206	158	182	169	198	214	175	197	174	153	2,184	94.9%
小計	497	622	623	573	637	564	660	675	556	641	602	464	7,114	101.4%
その他検査														
心筋マーカ検査	447	452	464	517	498	432	510	492	499	549	505	498	5,863	119.2%
小計	447	452	464	517	498	432	510	492	499	549	505	498	5,863	119.2%
細菌学検査														
一般細菌検査	649	682	613	622	699	615	753	647	599	692	587	626	7,784	112.5%
抗酸菌検査	63	81	67	76	73	51	74	71	46	61	53	65	781	104.4%
迅速検査	230	317	241	220	307	281	308	293	277	299	245	296	3,314	120.9%
小計	942	1,080	921	918	1,079	947	1,135	1,011	922	1,052	885	987	11,879	114.1%
病理検査														
組織検査	177	195	209	207	224	220	224	239	197	180	225	214	2,511	117.0%
組織迅速検査	6	6	8	11	15	8	10	10	9	16	10	8	117	96.7%
細胞診検査	157	215	219	237	244	214	265	291	216	240	294	222	2,814	104.1%
細胞診迅速検査	7	4	9	10	9	10	11	9	7	8	8	10	102	108.5%
小計	347	420	445	465	492	452	510	549	429	444	537	454	5,544	109.4%
生理学検査														
心電図検査	1,189	1,335	1,305	1,348	1,487	1,200	1,450	1,407	1,261	1,354	1,582	1,199	16,117	110.3%
脳波検査	14	12	10	21	38	38	14	17	11	6	6	27	214	110.9%
脈波検査	169	195	175	174	172	142	181	173	166	152	168	183	2,050	96.1%
肺機能検査	118	203	240	228	253	205	221	253	182	259	236	145	2,543	107.2%
超音波検査	841	1,104	1,147	1,097	1,220	1,057	1,283	1,149	1,050	1,142	1,092	987	13,169	112.0%
その他	17	22	28	24	22	8	11	16	14	9	17	15	203	131.8%
小計	2,348	2,871	2,905	2,892	3,192	2,650	3,160	3,015	2,684	2,922	3,101	2,556	34,296	109.8%
合計	22,163	24,793	24,182	24,188	26,710	22,659	26,311	25,771	23,604	25,008	25,571	22,876	293,836	105.4%

【資格取得】

認定団体	資格等	人数
日本輸血・細胞治療学会	認定輸血検査技師	1
日本超音波学会	超音波検査士（腹部領域）	4
日本超音波学会	超音波検査士（体表領域）	2
日本超音波学会	超音波検査士（循環器領域）	4
日本細胞学会	細胞検査士（国際細胞検査士）	2
日本臨床衛生検査技師会	認定病理検査技師	1
日本臨床救急医学会 日本臨床衛生検査技師会	認定救急検査技師	1
日本臨床検査医学会	緊急臨床検査士	1
厚生労働省	毒物劇物取扱者	3
厚生労働省	特化物・四アルキル鉛等作業主任者	3
厚生労働省	有機溶剤作業主任者	3
山口県医師会	山口県糖尿病療養指導士	4

【院外活動】

院外活動役職名	人数
山口県臨床検査技師会参与	1
山口県臨床検査技師会一般検査部門実務委員	1
山口県臨床検査技師会総合管理部門実務委員	1
日本試料分析学会評議委員	1

## 栄養管理部

【理念】 『食べることを通じてチーム医療の一翼を担い、患者さまの健康回復に貢献するよう努めます』

### 【概要】

栄養管理部は、平俊明栄養管理部長（耳鼻咽喉科部長）、管理栄養士 5 名、栄養士 1 名で栄養管理業務を担当しています。給食業務は一部委託での運用がされています。入院患者の栄養管理では、患者さまの栄養・喫食状態に基づいて、管理栄養士が医師・看護師と共に栄養管理計画を作成しています。患者さまに対する栄養管理内容の説明は、受け持ち病棟ごとに管理栄養士が行い、併せて患者さまの嗜好や喫食状況などを把握し、個別対応による食事提供を心がけています。また、1食1食の個別対応により、喫食量の増加に繋げるとともに、低栄養状態や治療による摂食障害の患者さまに対しては、多職種のスタッフで構成した NST（栄養サポートチーム）により栄養状態の改善に取り組んでいます。

給食管理においては、誕生食、化学療法による食欲不振の方には、にこにこ食（緩和食）、リクエスト食を継続し、嗜好、形態の考慮と摂取量の増加に委託業者とともに取り組みました。また、緩和ケア病棟においては、患者さまの嗜好により一層寄り添うためにオーダーメイド対応を実施。患者さまがその時食べたいものを提供する運用を行っています。行事食も例年通りほぼ毎月行い、季節感を大切に献立作成に取り組みました。また、毎週木曜日に開設している niko café（にこカフェ）は延 2,435 名に利用していただきました。

入院・外来患者に対しての栄養指導では、病棟担当栄養士が入院時栄養指導に力を入れ、入院時から治療にあわせた食事を食べていただき、患者さま自らが食事改善できるよう、より実践的な指導を行いました。

各病棟診療科のカンファレンスへ参画し、チーム医療で患者さまの栄養管理について検討し、また委員会活動は、栄養管理委員会をはじめ、感染管理委員会、クリニカルパス推進委員会、DPC・コーディング委員会、病院機能向上委員会、NST 運営委員会、褥瘡対策委員会、医療安全推進担当者会議などに参加しました。

### 【栄養管理部人員構成】 平成 31 年 3 月 31 日現在

平 俊明部長（耳鼻咽喉科部長兼務）	管理栄養士 5 名	栄養士 1 名	配茶配膳者 11 名
〈委託〉	管理栄養士 2 名	栄養士 4 名	調理師 9 名
	調理員 5 名	調理補助 3 名	食器洗浄 9 名

### 【資格取得】

認定団体	資格等	人数
山口県医師会	山口県糖尿病療養指導士	3
日本栄養士会	静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士	2
日本腎臓病協会	腎臓病療養指導士	1



【業務動向】

特別食算定率は63.8%→65.0%と増えており、入院時からの栄養士介入で患者さまの病態に適した治療食の提供と栄養管理がなされるように努めています。年間栄養指導件数は前年度に比べて(2,233件→2,206件)とほぼ横ばいの結果でした。外来での継続栄養指導も前年度に比べて増加しています。令和元年5月より新たにそらまめ教室(慢性腎臓病についての体験食付き勉強会)を開催するなど集団栄養指導の内容を新たに拡充することにより、さらなる栄養指導件数の増加に繋げていきたいと思っております。

また、栄養学科臨時実習の受け入れは、3大学計8名の学生を受け入れ、給食管理及び栄養管理に関する教育実習を行いました。

【給食実施状況(2018.4.1~2019.3.31)】

1. 食種別 患者給食数 (単位:食)

食種		合計	全体比%
一般食	常食	15,982	6.7%
	軟菜(米-5分)	63,251	26.9%
	3分粥	781	0.3%
	流動	1,874	0.8%
	計	81,888	34.7%
特別食	非加算		
	幼児	2,324	1.0%
	離乳	290	0.1%
	離乳アレルギー	0	0.0%
	アレルギー	13	0.0%
	消化不良	202	0.1%
	出産祝い膳	23	0.0%
	低残渣	5,856	2.5%
	減塩	20,648	8.8%
	カロリー制限	106	0.0%
	生もの制限Ⅰ	834	0.4%
	生もの制限Ⅱ	4,327	1.8%
	嚥下食	10,648	4.5%
	にこにこ食	11,720	5.0%
	濃厚流動	8,695	3.7%
	検査前低残渣	50	0.0%
	腸疾患(非加算)	0	0.0%
	腸検査(非加算)	3	0.0%
	検査後	893	0.4%
	非加算 計	66,632	28.3%
加算			
術後	4,836	2.1%	
潰瘍・吐血	2,075	0.9%	
肝A高たんぱく	199	0.1%	
肝B低脂肪	613	0.3%	
肝C	147	0.1%	
膵臓	1,693	0.7%	
腎不全	9,187	3.9%	
人工透析	6,067	2.6%	
ネフローゼ	1,567	0.7%	
小児腎	0	0.0%	
妊娠高血圧症	29	0.0%	
糖尿病性腎症	3,824	1.6%	
心臓病	23,782	10.1%	
カロリー制限	30,949	13.2%	
炎症性腸疾患・腸炎	711	0.3%	
腸検査食(加算)	139	0.1%	
貧血	95	0.0%	
加算 計	85,913	36.7%	
特別食 計	152,545	65.0%	
合計	234,433	100%	

2. 栄養指導件数 (単位:件)

指導内容		合計	入院	外来
個人	腎臓病・ネフローゼ	290	134	156
	妊娠高血圧症	1	1	0
	心・高血圧症	633	624	9
	貧血	4	4	0
	糖尿病	387	314	73
	肥満	19	8	11
	アレルギー	10	3	7
	肝臓病	6	6	0
	膵臓病	18	18	0
	胃潰瘍・術後	156	152	4
	人工透析	51	44	7
	脂質異常症	47	35	12
	クローン・腸炎	5	5	0
	糖尿病性腎症	51	36	15
	がん	6	6	0
	摂食嚥下	21	21	0
	低栄養	3	3	0
	非加算			
アレルギー・小児肥満	6	0	6	
地域包括ケア病棟	111	111		
その他	271	267	4	
計	2,096	1,792	304	
集団	加算			
	糖尿病教室	4	4	
	減塩教室	0	0	
	母親学級	0	0	0
非加算				
糖尿病教室	42	0	42	
計	46	4	42	
その他				
減塩教室(外部)	64		64	
総件数	2,206	1,796	410	



【niko café(にこカフェ)】



【当院でのお食事】

嗜好に応じた個食対応  
例：南蛮漬け・人参・魚・タマネギ・  
ピーマン・ショウガ・酢禁止

子供の日 お子様ランチ

誕生日プレート



●緩和ケア病棟では...



ブリのあら炊き



巻き寿司



とんこつラーメン



親子丼



牛丼



かき氷



サンドイッチ



皿うどん

【行事食実施状況】 ☆は、メッセージカード付

実施日		イベント	行事献立
毎月	1日		散らし寿司
4月	6日 ☆	お花見弁当	お花見弁当
5月	5日	こどもの日	柏餅、豆ごはん
6月	29日	あじさい弁当	あじさい弁当
7月	7日 ☆	七夕	そうめん、七夕デザート
	20日 ☆	土用の丑	うなぎ料理
8月	15日 ☆	暑中見舞い	冷やしうどん
9月	23日	秋分の日	栗ご飯
11月	14日 ☆	世界糖尿病デー	糖尿病献立
11月	16日	紅葉弁当	紅葉弁当
12月	21日	(女性と子どもの病棟・小児患者 クリスマスデザートプレート)	
	24日 ☆	クリスマスイブ	ケーキ、プレート
	31日	大晦日	年越しそば
1月	1日 朝☆	雑煮	
	1日 夕	おせち料理	
	2日 昼	散らし寿司	
	7日 ☆	七草粥	七草粥
2月	3日 ☆	節分	炊き込みご飯、福豆
	9日 ☆	“ふく”の日	ふく汁
3月	3日 ☆	ひなまつり	ひなまんじゅう、散らし寿司

【過去の行事食の一例】



1月おせち



2月ふくの日



7月土用の丑



12月クリスマス

【集団栄養指導（減塩教室）】



# 薬剤部

## 理 念

『患者様への安心、良質、適切な優しい薬物療法に寄与します』

## 基本方針

1. 常に患者様中心の医療を考え、医薬品の適正使用の推進を使命とします。
2. 「くすりの専門家」としての専門知識を携え、医療チームの一員として、高度医療を支えます。
3. 高い知識と技能の水準を維持するよう研鑽に努めます。

## 【スタッフおよび業務動向】

平成 30 年度は、薬剤部長以下総薬剤師数 18 名（前年対比 2 名増 2 名減）・調剤補助員 2 名のスタッフで、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・治験薬管理業務・医薬品情報管理（DI）・病棟薬剤管理業務・薬剤管理指導業務・チーム医療への参画（感染管理チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、医療安全推進担当者会議）に従事しました。

平成 30 年度の薬剤管理指導件数は拡大に向けて取り組んだ結果、平成 29 年度実績 7,446 件/年に対して、30 年度実績は 7,910 件/年、前年比 106.2%と大幅に拡大することができました。また本年度目標の 7,560 件/年と比較しても 104.6%と達成することができたのは、全薬剤師の努力の結果です。

外来がん患者指導件数は、前年度 64 件/年から 71 件/年へ着実に実績を拡大しています。

持参薬鑑別業務は平成 29 年度実績 7,161 件/年から 7,882 件/年と前年比 110.0%と拡大しました。また本年度目標の 6,200 件/年と比較しても、127.1%を達成することができました。

これは薬剤師の努力及び手術前注意薬の鑑別を積極的に行ったことによります。

薬剤師を 4 月より 2 名増員しましたが 2 名の退職者があり、その結果総員数は変わりませんでした。8 月より薬剤師の当直を救急当番日のみならず毎日行いました。薬剤師が 24 時間対応することにより、救急外来や病棟のサービスもより充実しました。

厚生労働省が推進している後発医薬品への切り替えも進めていますが、製造販売中止や供給困難な薬剤もあり、本年度では後発医薬品は 1 品目減となりました。

長期実務実習生を昨年度は 2 名受け入れていましたが、本年度は 4 名受け入れることができ、薬学教育における薬剤師の育成に寄与しました。

【平成 30 年度実績】

常備医薬品数（平成 31 年 3 月現在）

内服薬	590 品目
外用薬	220 品目
注射薬	515 品目
合計	1,325 品目

後発医薬品院内採用品目数

内服薬	127 品目 (20.4%)
外用薬	39 品目 (17.7%)
注射薬	56 品目 (10.9%)
合計	222 品目 (16.8%)

平成 30 年度薬事審議会結果

新規採用	19 品目
削除	30 品目
後発切替	-1 品目

払出し管理薬品数

麻薬	30 品目
毒薬	22 品目
向精神薬	12 品目
全身麻酔薬	5 品目
PGE <sub>1</sub> 膾坐剤	1 品目
血漿分画製剤	18 品目
合計	88 品目

院内製剤件数

院内製剤	品目数	製造件数
内用材	1	802
外用剤	19	966
注射剤	0	0
合計	20	1,768

無菌製剤処理件数	処理件数
TPN	481
抗がん剤	2,656

処方箋枚数（枚）		年間合計	1 日平均
外来処方箋	院内処方箋	9,535	39.0
	院外処方箋	67,003	274.6
入院処方箋		39,454	108.1
注射処方箋（入院）		72,684	199.1
注射処方箋（外来）		13,459	55.1
注射処方箋（外来化学療法）		1,528	6.2
麻薬処方箋	内服・外用	1,299	3.6
	注射	7,051	19.6
	合計	8,350	23.0

院外処方箋発行率	92.2%
----------	-------

薬剤指導算定件数	合計	月平均
患者数（人）	5,611	468
薬剤管理指導（件）	総算定数	7,910
	ハイリスク薬	3,145
	一般薬	4,765
加算（件）	麻薬指導	137
退院時指導（件）	1,958	163

外来がん患者指導件数	指導件数	71
------------	------	----

化学療法レジメン管理	レジメン数	230
------------	-------	-----

医薬品鑑別件数	件数	7,882
	剤数	54,179

外来患者薬剤情報提供件数	一般	3,118
	手帳	3,118

血中濃度解析件数（抗 MRSA 薬）

初期投与設計	35
TDM 解析	77

治験薬管理業務	治験実施件数	16
---------	--------	----

合計	3,137
----	-------

実務実習生受入実績

3ヶ月間：4名
---------

	症例数	57
--	-----	----

医薬品情報提供（紙媒体）

・医薬品集 2014 年度追補版 4 回発行
------------------------

【薬剤師の他の資格取得者】

日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会	生涯研修履修認定薬剤師	5名
日本病院薬剤師会	生涯研修認定薬剤師	14名
日本病院薬剤師会	日病薬病院薬学認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会	日病薬認定指導薬剤師	2名
日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師	3名
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	3名
日本糖尿病療法指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	1名
山口県糖尿病対策推進委員会	やまぐち糖尿病療養指導士	4名
日本静脈経腸栄養学会	認定 NST 専門療法士	1名
日本アンチ・ドーピング機構	公認スポーツファーマシスト	1名



# 臨床工学部

## 【理念】

質の高い臨床技術の提供と安全かつ効率的な医療機器の運用に寄与します

## 【基本方針】

1. 医療機器の専門家としての自覚を持ち、チーム医療に参画し良質で安全な医療を目指します。
2. 医療の高度化に対応するために、常に自己研鑽に励みます。
3. 医療機器の安全確保と有効性維持のための保守・管理・教育に努め安全・安心の医療に貢献します。

## 【スタッフ】

臨床工学部部長：栗栖和宏

臨床工学部技師長：松原伸夫

臨床工学技士：技師長を含め 14 名

委託職員：2 名

## 【概要】

平成 24 年 4 月 1 日、病院の地方独立行政法人化の際に医療器材部の名称を臨床工学部へと変更、透析センターの新館移築、ベッド数増加、血管造影室業務の増加などに対応し、業務の拡張・充実を図っております。今年度は 2 名増員し、各種の業務量の増加に対応、救急対応の充実を図りました。

業務は、臨床技術支援業務（手術部業務、心臓カテーテル関連業務、血液浄化業務、内視鏡室）と ME 機器中央管理業務の 2 つに大きく分けられ、専属の臨床工学技士 14 名、委託職員 2 名で、院内の生命維持管理装置や医療機器の操作及び保守点検を行っています。

業務部門を血液浄化業務部門、内視鏡室と手術室関連業務・医療機器管理業務部門に分け、血液浄化業務部門に 6.5 名と内視鏡室に 2 名、手術室関連業務・医療機器管理業務部門に 5.5 名（臨床工学技士 5.5 名、委託職員 2 名）を配置し、血液浄化業務と手術室関連業務 1 名を 1 日交代でローテーションしています。呼吸ケアサポートチームに 1 名が加わり活動をしています。また糖尿病患者における血糖測定器使用説明を 13 名の患者さまに実施しました。

今年度は、古くなった ICU のモニターをすべて更新、また自動麻酔記録装置導入に伴い、手術室と ICU のモニターを日本光電に統一することにより、Wi-Fi 環境を整備しタブレット端末で全てのモニターを監視できるようにしました。

院内活動としては、医療機器等検討委員会、感染管理委員会、医療安全推進担当者会議、広報年報委員会、CS 推進委員会など多くの委員会、各種院内講演会への参加、新規採用職員に対する教育講演の講師、院内職員に対する医療機器研修の企画立案、医療機器安全情

報の広報などを通してチーム医療への参画・業務支援に努めてきました。院外活動としては、臨床工学技士会、専門学会などの学術集会、研修会、勉強会などに積極的に参加し最新知識・技術の向上に努めてきました。また今年度も、東亜大学医療工学科学生 2 名の 1 ヶ月間の病院実習を受け入れ、教育指導を行いました。

## 【業務内容・動向】

### 1. 医療機器管理業務

院内での汎用性の高い臨床工学部管理機器 22 機種の出・返却業務と各種医療機器の定期点検、保守点検、修理は主に臨床工学技士の監督のもとに委託職員が担当しています。

臨床技術支援が伴う生命維持管理装置・術中モニタリング装置の保守・定期点検、医療機器管理台帳管理は臨床工学技士が担当し、さらに医療機器を安全かつ効率的に運用できるように保守点検・計画的購入を行っています。また、院内での医療機器セミナー及び他職種向けの医療機器取り扱いに関する研修会の開催や、医療機器安全情報を広報しており、患者さまに安全かつ有用な医療を提供できるように努めています。

2018.4.1	臨床工学技士 2 名増員。
2018.4.12	6 階東病棟のレギュレーター 2 台を 4 階西病棟に移設。
2018.4.25	長時間波形記録のために、救急外来に 3 階西病棟のセントラルモニター DS7640 を移設。
2018.5.18	ICU のベッドサイドモニター 2 台を修理不能のため日本光電の新型機種に更新。
2018.5.31	ベッドサイドモニター DS-8100N のバージョンアップ (Ver.06-01) を実施。
2018.6.1	中央採血室 DS8100N 長時間波形 SD カード設置。
2018.6.21	アコマ麻酔器 PRO-nexti の説明後デモ開始。
2018.7.6	ICU のベッドサイドモニター 2 台を修理不能のため日本光電の新型機種 MU-671R に更新。
2018.7.11	超音波血流計を 6 階東病棟に新規配置。
2018.8.28	経腸栄養ポンプ TOP ネオフィールド 2 台中央管理購入。
2018.8.29	テルモ輸液ポンプ TE-131 を 3 台更新、シリンジポンプ TE351 を 4 台更新。
2018.9.4	6 階東病棟・5 階東病棟・5 階西病棟、4 階東病棟・4 階西病棟の心電図モニターのアンテナに分配器、増幅器取り付け。
2018.10.3	モニター送信機 LX-5120 33 台を保守終了のため LX8100 へ更新。
2018.12.10	メラサキューム 900 を 6 台、900T を 4 台増設導入。
2018.12.28	ICU にスマートポンプシステムの輸液ポンプ TE-LM8702N を 4 台、TE-281A を 6 台、シリンジポンプ TE-SS702N を 8 台設置。
2019.1.12	手術室麻酔器 6 台定期点検実施。
2019.2.22	ICU 血液ガス装置メーカー保守点検実施。
2019.3.10	手術室生体情報モニターシステムを日本光電へ更新。自動麻酔記録システム導入。
2019.3.12	ICU の生体情報モニター 2 台を BSM6701 (日本光電) へ更新。
2019.3.26	ICU リカバリーの生体情報モニター 2 台をフクダから BSM6301 (日本光電) へ更新。



2019.3.28	輸液ポンプ TE-131A を 8 台更新。
2019.3.29	手術室と ICU のベッドサイドモニターを同一 IP アドレスグループに設定開始、タブレットでの監視開始。

【認定資格】

認定団体	資格等	人数
日本体外循環技術医学会	体外循環技術認定士	1
透析技術合同専門委員会	透析技術認定士	1
日本医療機器学会	臨床 ME 専門認定士	1
日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡認定技師	1
3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会	3 学会合同呼吸療法認定士	2

【所属学会】

日本臨床工学技士会	11	日本臨床検査技師会	2	日本臨床微生物学会	1
山口県臨床工学技士会	11	日本体外循環技術医学会	2		

2. 管理機器（単位：台）

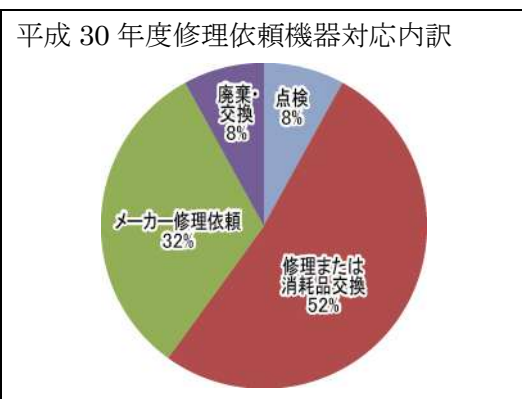
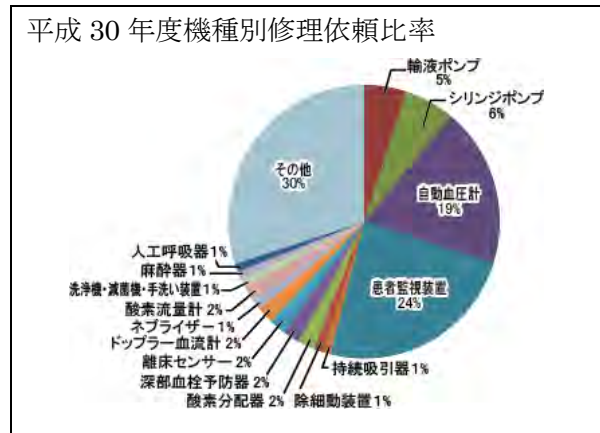
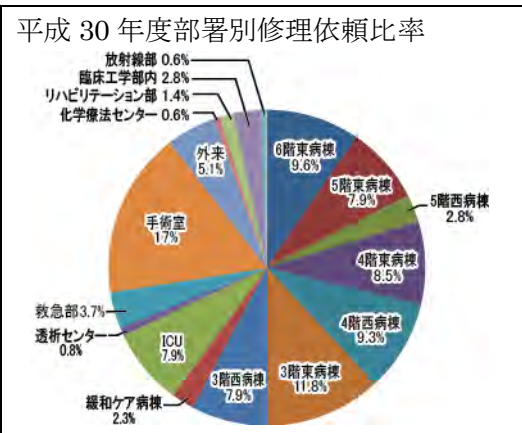
生命維持管理・モニタリング装置

機器名	台数	機器名	台数
人工心肺装置	2	透析装置	33
PCPS（経皮的な心肺補助装置）	2	アフエレーシス装置	2
IABP（大動脈内バルーンパンピング）	3	神経機能検査装置	3
除細動器	10	連続心拍出量測定装置	3
体外式ペースメーカー	11	術中自己血回収装置	3
人工呼吸器	14		

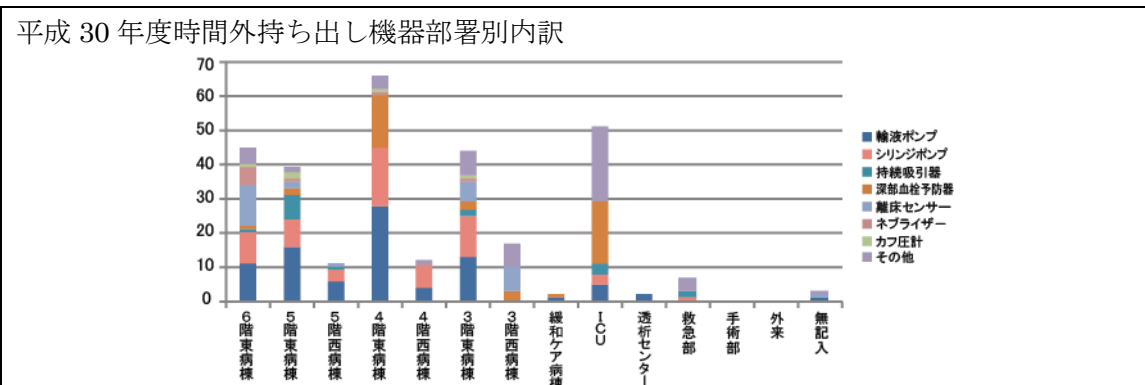
臨床工学部管理機器

機器名	台数	機器名	台数
AED	6	二又アウトレット	44
輸液ポンプ	195	離床センサー	28
シリンジポンプ	148	自動点滴装置	14
自動血圧計	10	超音波ネブライザ	16
セントラルモニター	21	経腸栄養ポンプ	8
ベッドサイドモニター	80	酸素流量計	138
ポータブル吸引機	7	圧力調整器付酸素流量計	39
低圧持続吸引機	41	パルスオキシメーター	119
IPC 装置	34	超音波ドップラー血流計	13
自己血回収装置	1	カフ圧計	9
空気清浄機	12	超音波診断装置	2

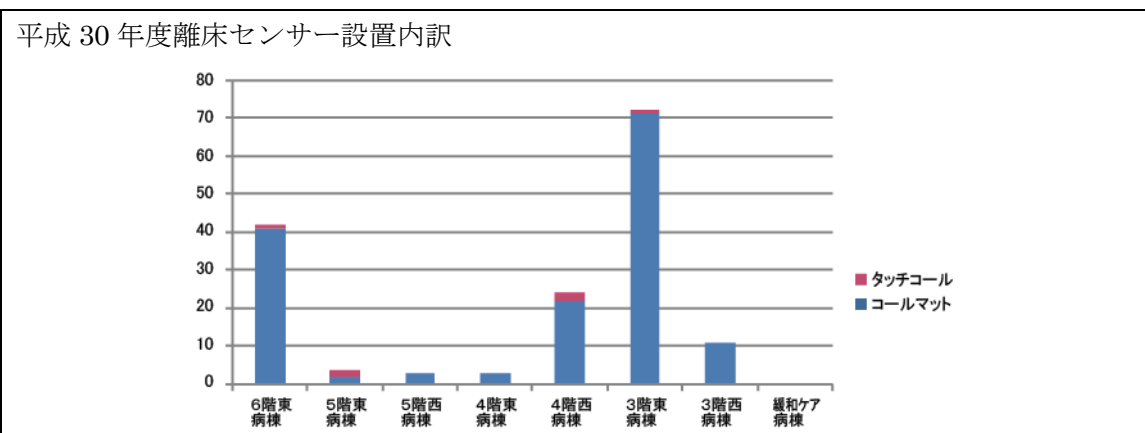
### 3. 修理関連統計



### 4. 時間外持ち出し統計



### 5. 離床センサー設置統計



## 6. 手術室業務

人工心肺装置、補助循環装置である PCPS（経皮的な心肺補助装置）や IABP（大動脈内バルーンパンピング）、術中自己血回収装置の操作及び保守点検、心臓血管外科・整形外科・脳神経外科分野での SEP（体性感覚誘発電位）、経頭蓋高電圧電気刺激による MEP（運動誘発電位）、SCEP（脊髄誘発電位）、SSEP（体制感覚誘発電位）による中心溝の同定、ABR（聴覚誘発電位）の測定および Facial の術中モニタリング業務を行っています。今年度、人工心肺装置を HAS-II に、テルモ遠心ポンプシステムを SP-200C へ更新しました。時間外緊急手術は 6 回でした。

平成 30 年度実績

項目	件数
人工心肺装置	45
OFF-PUMP	10
IABP	11
PCPS	2
術中自己血回収装置	180
誘発電位測定装置	276

## 7. 心臓カテーテル関連業務

2 名体制で心臓カテーテル検査・治療業務に従事しています。

心臓カテーテル検査・治療が安全で正確に行われるようにポリグラフによるモニタリングを行っています。急変時には PCPS（経皮的な心肺補助装置）や IABP（大動脈内バルーンパンピング）などの補助循環装置の組み立て・操作を行っています。

また下肢アンギオ、下肢 EVT の症例の立会い業務、心房細動のアブレーション、ペースメーカー植込み時、交換時の立会い、患者さまの定期フォローや遠隔フォロー、MRI 撮像時のモード変更も行っていきます。

時間外の呼び出しは 25 件でした。

平成 30 年度実績

患者数	815
緊急 PCI 数	45
CAG	457
PCI	175
LVG	2
右心	78
PMI	30
PME (G 交換)	5
EVT	168
EPS	1
ABL	38
体外式ペースメーカー	29

## 8. 血液浄化業務

スタッフは透析センター専任業務 5 名（嘱託 1 名を含む）、手術室兼務 1 名と前年度より 2 名減の 6 名体制で看護師と共に日々の透析業務に従事しています。昨年度はベッド数 32 床に増床し、その内 25 床を on-line HDF 対応の全自動透析装置にしましたが、今年度末に更に個人機 1 台を残し全て on-line HDF 対応の全自動透析装置にしました。来年度は更に、on-line HDF または I-HDF 治療を受けている患者さまの割合を増加し、透析中の血圧の安定化を図り、多くの患者さまの痒みや透析中の血圧低下などの透析合併症を軽減するよう対策をとっていきます。

平成 30 年度実績

項目	患者数
シャント PTA	107
血漿交換療法	18
血球成分除去療法	11
腹水濾過濃縮再静注法	25
CHDF	22

バスキュラーアクセスの観察、シャントマッサージに力を入れていますが、シャント PTA は年々増加しています。これは狭窄部位の早期発見、早期治療及び他院からの紹介患者さまの緊急シャント PTA が増加したことが原因と考えられます。シャント PTA 治療には、腎臓内科医師負担軽減のために臨床工学技士が応援に入っています。

救急センターでの急性血液浄化（持続的血液濾過透析を含む）は、昨年度の倍の件数となりました。アフェレシス分野では、緩和ケア病棟からのがん性腹水に対する腹水ろ過濃縮再静注法（KM-CART）の依頼が加わり昨年度より 40%の増加となりました。時間外の呼び出しは 9 回でした。

新規購入装置：血液浄化装置 ACH-Σ 1 台

## 9. 内視鏡室業務

4 月より、内視鏡室専属の臨床工学技士常時 2 名体制になり、内視鏡の洗浄消毒管理が円滑に行えるようになりました。また平成 30 年 3 月より内視鏡洗浄履歴管理が全て電子化され、今年度はそれを運用していき、患者さまが安心できる、より質の高い医療を提供できるようになりました。

### 平成 30 年度実績

上部内視鏡検査	3,780 件
下部内視鏡検査	1,190 件

### 【業績集】

#### <学会発表>

開催年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
2018.6.29	血液透析患者における rSO2 変化の検討	三田井盛将	藤田忍 前田友美 鈴木雄揮 佐々木毅 前田大登 吉村潤子 坂井尚二	第 63 回日本透析医学会学術集会	神戸国際会議場
2018.7.5	透析療法の基礎（技士編）	鈴木雄揮		透析セミナー in 海峡メッセ'18	海峡メッセ下関
2018.12.1	取り回しの良い PCPS システムの検討	鈴木雄揮	松原伸夫 前田友美 原田拓也 中村傑	日本体外循環医学会中国地方大会第 24 回秋季セミナー	トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校

#### <学会・研修会>

開催年月日	学会・研修会	参加者	場 所
2018.4.3	WEB 講演会 ～より良い透析医療を目指して～	佐々木毅、三田井盛将、兵頭栄輝	下関市
2018.4.8	平成 30 年度山口県臨床工学技士会学術大会・総会	松原伸夫、佐々木毅、鈴木雄揮、前田友美、藤田忍、中村傑、小田理絵、金田沙智奈、兵頭栄輝	防府市
2018.4.12	第 34 回山口県西部透析症例検討会	佐々木毅、藤田忍	下関市

2018.4.12-14	近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL) 2018	中村傑	大阪市
2018.4.21	第2回下関市立市民病院 ICLS コース 日本救急医学会主催	鈴木雄揮	下関市
2018.5.12-13	第80回日本消化器内視鏡技師学会	篠田直子、小田理絵	東京都
2018.5.25	下関市立市民病院医療安全講演会	松原伸夫	下関市
2018.6.9	第75回九州地区内視鏡機器取扱い等 講習会及び第73回消化器内視鏡技師 研究会	籠直子、小田理絵	北九州市
2018.6.29	第63回日本透析医学会学術集会	三田井盛将	神戸市
2018.7.5	透析セミナー in 海峡メッセ '18	佐々木毅、鈴木雄揮、藤田忍、 兵頭栄輝	下関市
2018.8.8-10	2018年度人工腎臓装置保守管理研修	前田友美	大野城市
2018.8.25	第6回福岡県・山口県臨床工学技士 合同夏期講習会	兵頭栄輝、金田沙智奈	福岡市
2018.10.22	サーボベンチレータのプリベンチブ メンテナンス講習会	藤田忍、中村傑	広島市
2018.11.3	WCCM in FUKUOKA 2018	原田拓也	福岡市
2018.11.10	2018年度周術期管理チーム認定試験	鈴木雄揮	神戸市
2018.11.17	第27回中国腎不全研究会学術集会	佐々木毅	広島市
2018.11.18	第3回下関市立市民病院 ICLS コース 日本救急医学会主催	鈴木雄揮	下関市
2018.11.25	第23回3学会合同呼吸療法認定士 認定試験	藤田忍	東京都
2018.12.1	日本体外循環医学会中国地方大会 第24回秋季セミナー	鈴木雄揮	広島市
2018.12.6	平成30年度「医療機関における電波 の安全性に関する説明会」(第3回)	松原伸夫、佐々木毅、藤田忍	山口市
2018.12.15	ペースメーカー講習会応用編 Medtronic 主催	中村傑	神奈川県
2019.1.27	第12回山口県血液浄化基礎セミナー	松原伸夫、佐々木毅、鈴木雄 揮、前田友美、原田拓也、藤 田忍、三田井盛将、兵頭栄輝、 金田沙智奈	下関市
2019.2.17	BLSヘルスケアプロバイダーコース	鈴木雄揮	下関市
2019.2.23	山口県在宅呼吸管理セミナー2019	松原伸夫、佐々木毅、藤田忍	山口市
2019.2.23-24	Evity 製品トレーニング (BIOTRONIK社製ペースメーカー)	中村傑	東京都
2019.2.27-3.1	2018年度人工腎臓装置保守管理研修	三田井盛将	大野城市

2019.3.9	YUDA LIVE 2019	原田拓也	山口市
2019.3.9	2018年度山口県臨床工学技士会 西部地区分科会	松原伸夫、佐々木毅、三田井 盛将、鈴木雄揮、前田友美、 藤田忍、中村傑	下関市
2019.3.17	第18回山口県臨床工学技士会主催 呼吸器セミナー	松原伸夫、佐々木毅、藤田忍	山口市

<院内医療機器講習会>

開催年月日	学会・研修会	参加者
2018.4.20	経腸栄養ポンプ TOP-A600 の使用操作説明	5階東病棟看護師 10名
2018.4.27	新規導入整形外科ナビゲーションシステムの使用説明	臨床工学技士 4名
2018.5.10	テルモ新型輸液ポンプ 28型の機器説明	看護師 12名
2018.5.17	平成30年度新規採用看護職員研修	新人看護師 19名
2018.5.22	呼吸器外科デモ機 メラサキューム 009T と故障更新 器 MS-900 の使用説明	看護師 21名 臨床工学技士 3名
2018.5.25	平成30年度新規採用看護職員研修 (血糖測定器取り扱い)	新人看護師 16名 臨床工学技士 7名
2018.6.12	透析用バスキュラーアクセスカテーテルの取り扱いに ついて	看護師 11名 臨床工学技士 7名
2018.6.28	CPM マンソン取り扱い説明 (1回目)	5階西病棟看護師 11名 4階西病棟看護師 3名
2018.6.29	CPM マンソン取り扱い説明 (2回目)	5階西病棟看護師 13名
2018.7.5	平成30年度新規採用看護職員研修 (心電図モニターの基礎)	新人看護師 14名 臨床工学技士 3名
2018.7.10	新規導入医療機器の導入時使用説明 (1回目)	看護師 5名 臨床工学技士 3名
2018.7.12	CPM マンソン取り扱い説明 (3回目)	5階西病棟看護師 7名 臨床工学技士 2名
2018.7.12	新規導入医療機器の導入時使用説明 (2回目)	看護師 12名 臨床工学技士 2名
2018.7.12	人工腎臓装置保守管理研修 NCV-3 基礎コース (1回目)	臨床工学技士 6名
2018.7.13	新規導入医療機器の導入時使用説明 (3回目)	看護師 21名 臨床工学技士 7名
2018.7.19	CPM マンソン取り扱い説明 (4回目)	5階西病棟看護師 6名 臨床工学技士 2名
2018.7.23	人工呼吸器 TrilogyO2 の使用説明ー上級編 (1回目)	看護師 19名 臨床工学技士 4名 リハビリテーション部 1名
2018.7.30	人工呼吸器 TrilogyO2 の使用説明ー上級編 (2回目)	看護師 47名

		臨床工学技士 5 名 リハビリテーション部 3 名
2018.8.1	テルモ新型ポンプ スマートインフュージョンシステム の使用説明 (1 回目)	ICU 看護師 1 名 麻酔科医師 1 名
2018.8.7	テルモ新型ポンプ スマートインフュージョンシステム の使用説明 (2 回目)	ICU 看護師 1 名 麻酔科医師 1 名
2018.8.7	人工腎臓装置保守管理研修 NCV-3 基礎コース (2 回目)	臨床工学技士 5 名
2018.8.8	テルモ新型ポンプ スマートインフュージョンシステム の使用説明 (3 回目)	ICU 看護師 4 名 手術部看護師 5 名 麻酔科医師 1 名
2018.8.9	テルモ新型ポンプ スマートインフュージョンシステム の使用説明 (4 回目)	ICU 看護師 7 名 麻酔科医師 1 名
2018.8.28	新規導入医療機器の導入時使用説明 経腸栄養ポンプ、シリンジポンプ (1 回目)	臨床工学技士 5 名
2018.9.11	新規導入医療機器の導入時使用説明 経腸栄養ポンプ、シリンジポンプ (2 回目)	臨床工学技士 3 名 委託職員 2 名
2018.9.14	離床センサー研修会	看護師 11 名 医師 1 名
2018.9.27	除細動器取り扱い説明 (1 回目)	看護師 6 名 診療放射線技師 1 名 臨床工学技士 1 名
2018.10.5	除細動器取り扱い説明 (2 回目)	看護師 3 名 臨床工学技士 2 名
2018.10.6	平成 30 年度新規採用看護職員研修 (人工呼吸器の管理)	新人看護師 17 名 臨床工学技士 3 名
2018.10.16	ニプロ社製汎用輸液ポンプ (FP-N11) 取り扱いについて	看護師 11 名 臨床工学技士 8 名
2018.11.30	新型機器 (輸液ポンプ、シリンジポンプ) 導入と輸液ラ イン変更に関する使用説明	看護師 90 名 医師 1 名
2018.12.20	新型機器 (輸液ポンプ、シリンジポンプ) 導入と輸液ラ イン変更に関する使用説明	看護師 13 名
2018.12.21	ドレナージの基礎と新型メラサキュームの使用説明	看護師 9 名 臨床工学技士 5 名
2019.2.12	除細動器の取り扱い説明 (3 回目)	透析センター看護師 9 名 臨床工学技士 6 名

## 地域連携部

平成 14 年 5 月から地域医療連携室として活動していましたが、平成 28 年 4 月より地域連携部へと名称変更しました。前方支援の病診連携室、入院支援センターと後方支援の医療相談室で連携強化に努めています。病病連携・病診連携を推進、地域の医療機関との更なる連携強化に努めています。

### 【スタッフ】

地域連携部長（病診連携室長）		坂井尚二（副院長）
病診連携室	主査	藤村美代子（副看護部長）
	事務担当	竹中順子・村上貴代美
医療相談室	副参与	河田うしを
	室長（病診連携室長補佐）	金子佳子
	退院支援専従看護師	廣幸恵
	室員	葛目知沙・水永佳歩・杉恵莉香・北野耕也
入院支援センター	看護師 百田桂子（副主任）・前村昌子（副主任）・幸裕美（副主任）	
	事務 城山恵介（医事グループ主査）	

### 【病診連携室】

#### ●コンセプト

地域医療支援病院としての前方連携の充実をはかり、地域の先生方との協力を推進する管制塔としての役割を果たす

#### ●業務

1. 紹介患者の予約
2. 医療機関への紹介予約（転院を含む）
3. 医療機関からの情報提供依頼や問い合わせの対応
4. 医療機関への診療情報依頼
5. 紹介元医療機関への返書管理
6. 病床管理
7. 奇兵隊ネット（連携医療機関へのカルテ開示）
8. 広報に関して

#### ●会議

地域医療連携推進委員会・地域医療研修委員会

#### ●紹介患者予約システムの特徴

看護師を含むスタッフが、専用直通電話・FAXにて対応しています。緊急患者受入、転院相談にも十分対応しています。CT・MRI等、医療機器の共同利用は放射線診断科で対応しています。登録医の先生方には、開放病床の共同利用も受けつけています。



疑問や不明な点があればご連絡ください。

●専用回線

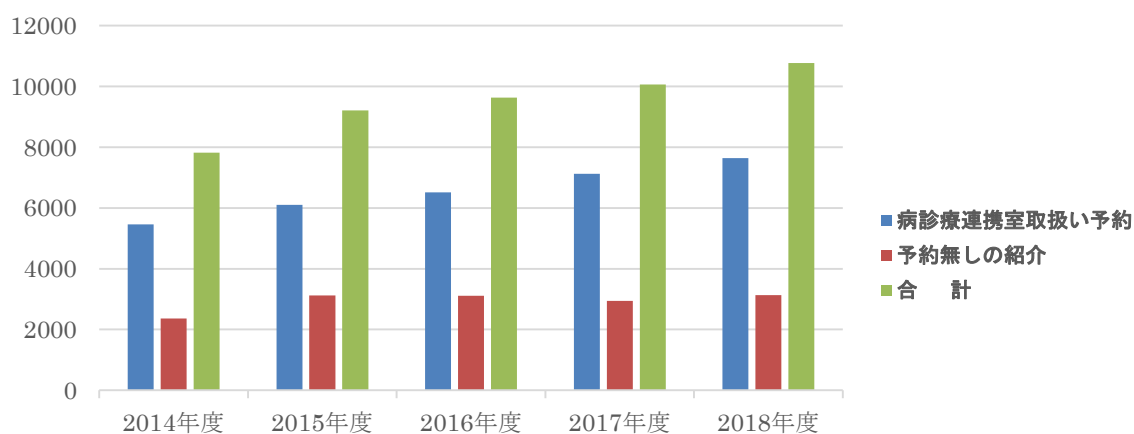
病診連携室 ※令和元年度より地域連携室（患者 さま紹介窓口）に名称変更	TEL：083-224-3860
	FAX：083-224-3861

●活動状況

1.紹介受入数

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
病診連携室 取扱い予約	件数	5,458	6,099	6,518	7,123	7,640
	比率	70	66	68	71	71
予約無しで紹介	件数	2,364	3,117	3,114	2,941	3,131
	比率	30	34	32	29	29
合計	件数	7,822	9,216	9,632	10,064	10,771

病診連携室の取り扱い件数は、紹介患者全体の約71%です。地域の医療機関からの紹介受入をよりスムーズにするためにも、更なる向上を目指しています。病診連携室の取り扱い件数のうち、当日紹介は24%でその内当日入院は約46%です。病診連携室は病床管理も行い、各病棟の空床状況を把握していますので、入院依頼についてもすぐに対応しています。



2. 他医療機関への紹介数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
紹介数	347	377	409	491
セカンドオピニオン	8	11	7	8

3.紹介率・逆紹介率（%）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
紹介率	61.96	67.16	68.06	77.13
逆紹介率	125.37	117.03	126.35	142.75

4.共同利用実績（共同病床利用のみ日数）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
CT	96	130	195	205
MRI	211	217	273	290
骨塩定量	11	12	25	9
RFA	4	4	3	8
共同病床利用			47	79

5. 奇兵隊ネットによるカルテ開示数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
施設数	17	16	20	18
総開示数	459	682	617	634

【医療相談室】

患者さま、ご家族をはじめ地域の各種関係機関および関係職種の相談窓口としての役割を担い、様々な相談や要望、苦情などに対応し、より安心・安全な医療を提供することを目指しています。

1. 患者サポート

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	2	19	18	8	13	21	29	18	14	13	13	14	182

2.医療ソーシャルワーカー相談対応件数

	医療相談生活相談		がん相談		相談総数	
	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度
4月	816	1,024	41	63	857	1,087
5月	961	1,004	40	70	1,001	1,074
6月	1,019	881	64	56	1,083	937
7月	802	892	30	64	832	956
8月	919	916	54	70	973	986
9月	884	834	34	41	918	875
10月	823	949	37	77	860	1,026
11月	965	774	29	47	994	821
12月	975	719	55	43	1,030	762
1月	962	889	48	55	1,010	944
2月	953	981	65	53	1,018	1,034
3月	1,174	878	53	80	1,227	958
合計	11,253	10,741	550	719	11,803	11,460

### 3. 臨床心理士対応件数

カウンセリング件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院 緩和ケア内科	2	2	1	6	8	7	7	9	7	10	13	12	84
入院 整形外科	0	1	2	0	0	0	0	1	1	1	1	1	8
入院 小児科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外来 整形外科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外来 小児科	0	0	0	0	2	2	2	3	3	1	2	3	18

心理検査	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
WAIS-II	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
WISC-IV	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	4
Vineland-II	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
P-Fスタディ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
SCT	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
バウムテスト	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
HDS-R・MMSE	0	0	0	3	0	0	1	0	0	2	4	1	11

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知症サポート チームラウンド	2	3	5	4	5	1	4	2	4	4	1	4	39

### 4. 地域連携について

#### ①下関市立市民病院 地域医療連携の会

平成30年11月14日「第4回下関市立市民病院 地域医療連携の会」を開催しました。

他医療機関より107名の参加があり、当院より60名（医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・理学療法士・薬剤師・臨床工学技士、事務職員）が参加し、症例検討および交流会を行い、地域連携に努めることができました。

#### ②下関市立市民病院 顔の見える連携交流会

多職種連携の推進を目的に、「下関市立市民病院 顔の見える連携交流会」を計9回開催しました。

開催日	対象	参加事業所	参加人数	院内参加人数			
				看護師	MSW	リハビリスタッフ	薬剤師
2018.5.18	訪問看護ステーション	13	14	23	5	3	0
2018.6.15	居宅介護支援事業所	27	46	24	5	4	1
2018.7.13	地域包括支援センター	9	11	19	5	4	1
2018.9.14	訪問看護ステーション	15	17	20	5	4	1
2018.10.12	居宅介護支援事業所	21	35	22	5	5	1
2018.11.16	地域包括支援センター	9	10	22	5	6	1
2019.1.18	訪問看護ステーション	15	15	23	5	4	1
2019.2.15	居宅介護支援事業所	23	37	23	5	4	1
2019.3.15	地域包括支援センター	8	10	19	4	6	1

MSW…医療ソーシャルワーカー

### 【入院支援センター】

#### 1.平成 30 年度の活動概要

当センターは、平成 29 年 4 月 1 日より地域連携部入院支援センターとして設置され、同年 5 月 8 日より入院支援を目的として運用を開始しました。平成 30 年度診療報酬改定により、入院時支援加算 200 点が新設されました。入院前に行った入院支援に対して診療報酬の基準を満たすことにより、入退院支援加算に加点されるようになりました。

開設時は看護師 1 名と事務職員 1 名からスタートしましたが、平成 30 年 5 月 1 日より看護師 3 名＋事務職員 1 名となりました。小児科を除く予定入院患者すべてを対象としており、実施率も増加しております。10 月 1 日からは、旧理容室を入院支援センター3 として改修、ブース造設したことにより最大 4 ブースで対応できるようになりました。

#### 2. 実績（平成 30 年 4～平成 31 年 3 月）[単位：名 実績率のみ単位：%]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予定患者数	292	292	290	295	321	270	356	342	277	280	288	339	3,642
実績数	163	159	134	142	182	160	216	235	200	228	217	235	2,271
実施率	56	54	46	48	57	59	61	69	72	81	75	69	62
算定数	29	80	84	85	61	61	60	64	63	36	53	57	733

算定数…入院時支援加算算定数

## 健診部（健診センター）

当センターでは、心臓病、高血圧、糖尿病などの生活習慣病やがんに対する予防とその早期発見、早期治療を目的とし、人間ドックをはじめ、脳ドック、企業健診、がん検診など各種健診を行っています。診療とは独立した環境の中で、ゆったりと検査を受けることができます。

また、受診者数も年々増加し、平成 30 年度の実績も前年比 111%となっております。健康に自信がある方もない方も、一年に一回の人間ドックをお勧めいたします。

### 【スタッフ】

健診部長	坂井尚二（副院長）
健診部次長	岩本秀樹（医事グループ長）
医師	1 日 2 名体制
看護師	4 名
放射線技師	1 名
検査技師	1 名
事務員	3 名

### 【平成 30 年度実績】

	人間ドック		企業健診	その他	計
	日帰り	一泊			
4 月	42	0	34	0	76
5 月	110	0	175	0	285
6 月	150	0	180	43	373
7 月	150	0	186	0	336
8 月	152	0	170	68	390
9 月	133	0	139	13	285
10 月	156	0	214	10	380
11 月	171	1	194	38	404
12 月	124	1	150	12	287
1 月	158	0	195	0	353
2 月	159	0	197	0	356
3 月	61	0	54	0	115
合計	1,566	2	1,888	184	3,640
平成 29 年度合計	1,407	6	1,684	178	3,275
前年比 (%)	111	33	112	103	111

# 医療安全対策室

## 【基本理念】

「みて きいて かんじて」

## 【基本方針】

- 1) 患者の安全を最優先に考える
- 2) 患者と医療従事者との対等な関係を築く
- 3) 院内の安全文化の向上
- 4) 組織全体のシステムの整備

## 【医療安全対策室の構成】（室員全員兼任）

室長	前田博敬（副院長）
室長補佐	牧野一郎（緩和ケア内科部長）、山下彰久（整形外科部長）、和田英一（事務部総務グループ長）
専従医療安全管理者	大久保典子（看護師長・主査）
室員	安部裕美子（リハビリテーション部技師長）、石田清子（救命センター師長）、山中裕子（6階東病棟主任看護師）、吉田英子（5階東病棟主任看護師）、中川美由紀（手術部副主任看護師）、林祥子（薬剤部主任薬剤師）、吉田圭（事務部医事グループ主任主事）

## 【概要】

医療安全を組織横断的に推進するために平成19年4月1日に設置された「医療安全対策室」は、医療事故の未然及び再発防止と発生時の適切な対応を図るため、システムやマニュアルの整備、医療安全に係る研修の企画・運営、各部門間の調整（調査）を中心になって行っています。また、医療に関する患者さまからのクレームや有害事象発生時の対応では、患者さまと医療従事者を結ぶ医療対話推進者としての役割を求められます。

各部署のリスクマネージャーによる医療安全 RM ラウンドを2回/月実施し、マニュアルやルールの周知状況や実践状況を確認するとともに、問題点の抽出を行い改善につなげるように取り組んでいます。毎朝室員によるミーティングとカンファレンスを行い、情報の共有とタイムリーな対応に努めました。

チーム医療と医療安全推進にはよりよいコミュニケーションが不可欠であり、当院においても院内コミュニケーションの改善の必要性は高いといえます。平成30年度は安全管理委員会の年間目標を『「安全管理に向けたチーム医療を実施する」①話し合いのできる、垣根の低い職場風土をつくる。②“前向きな言葉”があふれるコミュニケーションを心がける。③多職種および患者さん協同で“確認”を実施し、誤認のない安全な医療を実施する。』とし、多職種間のコミュニケーションの強化と誤認防止、PDCA サイクルの活用に取り組みまし

た。目標達成のため医療安全対策室が核となり、教育・実施・評価まで関与しました。

今年度は診療報酬の改定により、「医療安全対策加算における医療安全対策地域連携加算」が新設されました。それに伴い、医療安全対策室を中心に、連携病院を訪問し医療安全相互チェックを実施しました。医療安全対策の現状について病院間で意見交換および評価を行い医療安全体制の整備の推進、医療安全の質の向上を図りました。

### 【平成 30 年度の主な活動】

- ① 「医療安全対策室だより」2 回発行
- ② 医療安全院内巡視（医療安全 RM ラウンド、感染ラウンド、院長・看護部長室合同ラウンド他）
- ③ 「院内安全情報」2 回発行
- ④ 医療安全推進月間（11 月 1 日～11 月 30 日）

厚生労働省の定める医療安全推進週間（11 月 19 日～11 月 25 日）を含む 1 ヶ月間を医療安全推進月間とし、院内全体で取り組みを強化しました。今年度より医療安全・手指衛生月間合同キャンペーンとして、感染管理委員会と協同して取り組みました。来院患者さまをはじめとする市民の皆さま、職員より医療安全に関する標語・川柳・ポスターを募集し、1 階ロビーにて展示、来院された方、職員による投票で最優秀賞・優秀賞を選定し、11 月 22 日合同イベントで表彰を行いました。また、イベントではリハビリテーション部の協力で「転ばぬ先の予防運動」として、転倒予防の運動の指導を行いました。

標語・川柳（一般の部）最優秀賞：「もう一步 聞きたい勇気を 開けてみる」

標語・川柳（職員の部）最優秀賞：「安全は 他職種連携 垣根超え！」

- ⑤ 研修会等の企画・運営

開催日	テーマ	講師	参加者
2018.4.27	BLS 講習会	院内 BLS 講習チーム 大久保典子	新規採用看護職員 21 名
2018.10.26	地域医療研修会 あなたのラテックス対策 それであってる？	西嶋和弘氏・丸岡聖路氏 （済生会下関総合病院 手術看護認定看護師）	院内 43 名 院外 1 名
2018.11.5	医療安全研修会 「糖尿病・インスリンの基礎知識」	鈴木悠氏 （ノボルディスクファ ーマ株式会社）	院内 56 名

- ⑥ 患者クレーム対応など患者さま、ご家族への対応
- ⑦ BLS ヘルスケアプロバイダーコース山口トレーニングサイト誘致(BLS2 回・ACLS1 回)
- ⑧ 医療安全に関する院内研修会講師等

開催日	内容	講師
2018.4.2	新規採用看護補助者研修 「医療安全」	大久保典子
2018.4.4	新規採用看護職員研修 「医療安全・看護倫理」	大久保典子

2018.7.2	7月新規採用看護職員研修	大久保典子
2018.8.1	8月新規採用看護職員研修	大久保典子
2018.8.7	ふれあい看護体験 BLS講習	大久保典子
2018.9.4	9月新規採用看護職員研修	大久保典子
2018.9.25	臨地実習事前オリエンテーション (西南女学院大学保健福祉学部)「医療安全研修」	大久保典子
2018.10.2	10月新規採用看護職員研修	大久保典子
2018.10.17	臨地実習事前オリエンテーション (ウエストジャパン看護専門学校)「医療安全研修」 ボランティア BLS講習	大久保典子
2018.11.1	11月新規採用看護職員研修	大久保典子
2018.11.15	山口県立長府高等学校体験学習 BLS講習	大久保典子
2018.12.3	12月新規採用看護職員研修	大久保典子
2018.12.5	臨地実習事前オリエンテーション (下関看護リハビリテーション学校)「医療安全研修」	大久保典子
2018.5~9 19回実施	院内必須医療安全研修会(前期) 「ヒューマンエラーとコミュニケーション」	大久保典子
2018.10~ 2019.3 23回実施	院内必須医療安全研修会(後期) 「医療安全に必要なノンテクニカルスキルとは？」	大久保典子

⑨ 調査

- ・肺血栓塞栓症リスク判定と予防策に関する調査(4回/年 定点調査)
- ・説明と同意に係る記録の調査(4回/年)

⑩ 院外研修への参加

開催日	内 容	参加者	主 催	会 場
2018.4.17	第1回下関ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	下関市立市民病院
2018.5.13	応援!“おひとりさま”で医療安全を担う方 in 福岡	大久保典子	日本医療機能評価機構	九州大学医学部百年講堂
2018.6.28	第2回下関ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	下関市立市民病院
2018.7.7-8	平成30年度医療対話推進者養成セミナー基礎編(聴講)	大久保典子	日本医療機能評価機構	日本医療機能評価機構(東京)
2018.5.19-20, 2018.6.16-17, 2018.7.21-22	医療事故・紛争対応 人材養成講座	牧野一郎 大久保典子	医療事故紛争対応研究会	株式会社日本経営セミナールーム(大阪)
2018.8~10	医療安全管理者養成研修	小嶋加寿子	山口県看護協会	山口県看護



		古谷直子		研修会館
2018.8.23	第3回下関ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	下関市立市民病院
2018.9.20	医療安全管理者養成研修公開講座	大久保典子	山口県看護協会	山口県看護研修会館
2018.10.25	第4回下関ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	下関市立市民病院
2018.12.7	平成30年度医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	山口県看護研修会館
2018.12.12-13	ImSAFEを用いた分析手法	大久保典子	西尾病院	西尾病院
2018.12.22	医療事故紛争対応研究会中国・四国セミナー	石田清子 大久保典子	医療事故紛争対応研究会	岡山国際交流センター
2019.2.23	医療・看護マネジメント in 広島	谷畔由香 大久保典子	株式会社ケアコム	広島
2019.3.7	第1回下関・長門・萩ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	下関市立市民病院
2019.3.8	フォローアップ研修	大久保典子	山口県看護協会	山口県看護研修会館

⑪ 医療安全対策地域連携における医療安全相互チェック

日付	チェック対象病院	参加者
2018.11.9	下関医療センター	前田博敬、大久保典子、坂本由紀子、安部裕美子、林祥子、吉田圭
2019.2.15	西尾病院	前田博敬、大久保典子、坂本由紀子、安部裕美子、林祥子、吉田圭
2019.3.1	下関市立豊田中央病院	前田博敬、大久保典子、坂本由紀子、安部裕美子、林祥子、吉田圭
参加者所属役職名：前田博敬（副院長・医療安全対策室室長）、大久保典子（専従医療安全管理者）、坂本由紀子（看護部長）、安部裕美子（リハビリテーション部技師長）、林祥子（薬剤部主任薬剤師）、吉田圭（事務部医事グループ主任主事）		
日付	当院チェック実施病院	
2018.11.27	下関医療センター（5名）・西尾病院（6名）	

# ドクターズクラーク室

## 【概要】

医師事務作業軽減のために 11 名配置されています。

(医師事務作業補助体制加算 1 40 対 1)

医師からの要望があり必要度の高い外来診療科に 11 名全員が配置されています。

外来にてオーダー代行入力等の診療補助を行い、医師の負担軽減に努めました。外来業務終了後には 6 階西病棟ドクターズクラーク室にて、診断書などの書類作成業務補助、各種症例登録補助などを行いました。診断書の大半はドクターズクラークが代行作成を行っています。医師事務作業補助者としての定められた業務に基づき医師の事務作業軽減に貢献しました。

今後も医師の事務作業を補助し、負担軽減できるように努めてまいります。

## 【主な業務実績（平成 30 年 1 月~12 月）】

主な業務内容	件数
診断書作成補助	7,212
実施済み注射・処方代行入力	32,531
サマリー作成補助	414
外科系・心臓血管外科症例登録補助（NCD）	535
循環器内科症例登録補助（J-PCI・J-EVT）	183
心臓血管外科開心術症例登録補助（JACVSD）	44
心臓血管外科術式登録補助	130
手術部位感染データベース登録補助	304
麻酔チャート登録補助（日本麻酔科学会）	176
外来診療補助	—

# 薬事審議会

## 【目的・委員】

当審議会は医薬品の診療上の有効性及び安全性及び経済効率を考えた合理的運営を図ることを目的とし、常備医薬品の選定や当院で使用する医薬品の問題を審議する為に設置されています。

当審議会は、院長、副院長 5 名、医局幹事、感染管理委員会代表、医局選出医師 18 名、歯科医師、看護部長、事務部長、事務部 3 名、薬剤部長、薬剤師 3 名の総数 35 名の委員で構成されています。

## 【動向】

平成 30 年度は、5 月、9 月、11 月、2 月の 4 回審議会を開催し、常備医薬品に 19 品目新規採用し、30 品目を削除しました。長期不使用薬や、複数規格、同種同効薬の整理を積極的に行い、採用品目数の適正化に尽くしました。なお、後発薬の採用は -1 品目でした。

## 【平成 30 年度 薬事審議会実績】

	品目数
新規採用	19 品目
削 除	30 品目
後発切替	-1 品目

# 感染管理委員会

## 【概要】

当委員会は、患者さまや職員の交叉感染を防ぐために活動を行っています。

当院は下関医療圏の感染症法上の第二種感染症指定医療機関として、指定感染症の診療や新型インフルエンザ等の対策を行っております。

また、日本環境感染学会の認定教育施設と日本感染症学会の専門医研修施設として、多数の感染症専門医を輩出しています。地域のネットワーク作りの実績が地域連携につながり、現在も地域で中心的役割を果たしています。

院内では全職員を対象とした感染防止の必須研修を行うほか、職種に応じた研修を開催し、出前セミナーも行っています。日本化学療法学会の抗菌化学療法指導医1名を中心に、抗菌薬の届出制と許可制を行っており、アフターケアまで抗菌薬ラウンドを行い、Antimicrobial Stewardship Program（抗菌薬適正使用）を実践しています。

2018年4月に、抗菌薬適正使用支援加算を取得いたしました。

## 1. 定例会（12回／年）

毎月、感染情報レポートと抗菌薬（注射剤）使用状況、サーベイランス報告を行っています。状況に応じて、感染防止対策について検討しています。

### 1) 感染情報レポート

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）をはじめとした薬剤耐性菌検出状況、ノロウイルス、クロストリジウム・ディフィシル感染症（いわゆる偽膜性腸炎、抗菌薬関連下痢症）、インフルエンザなどについて院内の状況、県・国の動向と合わせ報告を行っています。この感染症情報は速やかに感染管理チームで共有され、集中して発生が認められた場合にはリアルタイムで介入しています。

### 2) 抗菌薬（注射剤）使用状況

抗菌薬には、許可制と届出性になっている薬剤があります。許可制は広域剤（カルバペネム系、第4セフェム系など）で届出制は抗MRSA薬と広域ペニシリンです。その指標としてWHOによる抗菌薬使用密度（AUD）を用い、地域の近隣病院と比較して多寡による検討も行っています。当院ではキノロン系抗菌薬についても使用を監視しています。

### 3) サーベイランス

中心静脈カテーテル使用状況および血流感染の有無を調査して報告しています。血流感染を疑う症例について検証し啓発予防を行っています。

厚生労働省の院内感染対策サーベイランス事業に参加し、検査部門、手術部位感染（SSI）部門へ報告を行っています。各参加医療機関の集計・解析から比較した還元情報を活用しています。

### 4) 地域連携

感染対策ネットワーク下関の世話人として、医師・感染管理認定看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務職の多職種でカンファレンスや相互ラウンドを実施し、地域の感染防止

対策実践者と協働しています。このネットワークでは、地域の医療関係者が参加可能な学術集会を年に1回開催しており、10月20日に104名の参加がありました。

地域の感染防止対策担当者を対象とした、感染症セミナーや急性期医療機関関係者と耐性菌研究会を開催しています。

#### 5) 環境整備

昨年に引き続き、ATP（アデノシン三リン酸）を利用した清浄度調査を実施し、清掃状況の確認および改善を図りました。

環境整備は要望に応じて、病院内の改修を行いました。主に、守衛室前のカウンターが木製のため清拭消毒が可能な材質に変更、緩和病棟と5階東病棟の清潔リネン庫を適正な管理が出来るように棚の設置、外来の流しの水はね防止用に衝立の設置などを行いました。

#### 6) アウトブレイク対策

季節性インフルエンザに対するワクチン接種の推奨、早期発見、タミフルの予防投与等を行うほか、ノロウイルス感染症では検査キットに反応しにくいとされる型に対し、臨床症状により判断するなど感染の拡大防止に努めています。

今年流行の麻疹と風疹について、関連部門や保健所と連携を図り感染の拡大防止に努めており、職員にはその都度電子カルテなどを活用し情報の共有と周知を行っています。

#### 7) 海外感染症

グローバル化が進む中で渡航者への感染予防、帰国者や諸国からの入国者に対し感染症診療を行っています。この遂行において、管轄の保健所と密接な連携を図っています。

#### 8) 手指衛生推進

2018年1月に手指衛生推進月間として、標語や啓発ポスターを募集し、委員を中心に推進活動を実践しました。

新たに11月に医療安全対策室と合同でイベントを開催いたしました。感染管理部門は、手指衛生に関する標語と川柳、ポスターを職員と一般を対象に募集し、1階のロビーに1ヶ月間掲示しました。11月23日には共同イベントとして、一般と職員の方の表彰式を行い、一般向けに蛍光塗料を用いた「手洗いチェック」と「正しくマスクを装着する」体験イベントを開催いたしました。職員だけでなく、一般の方も一緒に参加できる取り組みの第一歩となりました。

毎月、擦式アルコール製剤の使用量調査と年3回手指衛生のモニタリングを行い、各部署にデータを還元して手指衛生の遵守率の向上を目指しています。

## 2. 感染管理チーム（ICT）カンファレンス・耐性菌ラウンド、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）カンファレンス・ラウンド

毎週火曜日に、ICT会議とASTラウンドをカルテ上および病室訪問で行っています。許可制・届出制の前提は抗菌薬投与前の血液培養検査採取としており、2セット採取を定着しています。これらの培養結果に基づいてチームで介入を行いました。

## 3. ICT・環境ラウンド（74回/年）

毎週木曜日に全部署を対象とし、チェックリストを用いて点検しています。

環境ラウンドでは、その場で指摘と改善案を提示し、ラウンドの結果を電子カルテ上に掲載してフィードバックしています。

#### 4. 感染管理セミナー

##### 1) 必須研修

全職員を対象に前期と後期に分けて 23 回開催しました。

研修内容は、2018 年 4 月から抗菌薬適正使用支援加算の取得に伴い、前期は「抗菌薬適正使用の重要性」、後期は「抗菌薬について」を行いました。感染防止対策は、前期「標準予防策・感染経路別予防策、感染症トピックス」、後期「針刺し・体液曝露の報告、病院清掃、冬期感染症対策、感染症トピックス」について行いました。

##### 2) 職種別研修

- (1) 新規採用者研修
- (2) 感染症病棟稼働訓練
- (3) 空気感染予防、N95 マスクの取り扱い
- (4) 薬剤耐性菌
- (5) 感染症診療や結核対策、感染防止について

医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・看護助手・コメディカル等、業務別に対象者に合わせた内容で開催しています。

#### 5. 業績（平成 30 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

<学会発表等>

開催年月日	演 題 名	演者等	学 会 名	場 所
2018.1.11	「感染症危機管理」19 世紀の 3 師から学ぶ 21 世紀の感染管理	吉田順一	地域医療研修会	下関市立 市民病院
2018.2.18	(シンポジウム) 病院の行っている感染対策について	吉田順一 [座長]	第 147 回山口県 医師会生涯研修 セミナー・平成 29 年度山口県 医師会勤務医部 会総会	山口県総合 保健会館
2018.2.23～24	感染対策ネットワーク下関 (ICNS) における 8 施設の擦式アルコール手 指消毒薬使用量の増加要因	浅野郁代 又賀明子 吉田順一 他	第 33 回日本環境 感染学会総会・ 学術集会	東京

2018.4.6	Clostridium difficile 感染症再発を 予防するベズロトクスマブ 【The New England Journal of Medicine】	吉田順一 中原千尋 井上政昭 大谷和広 宮竹英志 江口大樹 石光寿幸 牧野一郎 金山雅弘 名部裕介 岡山卓史 鈴木宏往 田中雅夫	第 118 回日本 外科学会定期 学術集会	東京
2018.5.25~26	産科病棟と小児病棟合併による病棟 改築工事に伴う感染対策の取り組み	又賀明子	第 7 回日本感 染管理ネット ワーク学会 学術集会	仙台市
2018.5.31~ 6.2	(一般演題 (ポスター)) 日本初の Evidence を目指そう: ガイ ドライン等に引用された論文から、査 読や被引用を活かした良循環の勧め	吉田順一 原田由紀子 他	第 92 回日本 感染症学会 学術講演会、 第 66 回日本 化学療法学 会総会合同 学会	岡山
2018.7.5	〔Closing Remarks〕	吉田順一	下関 EGFR 陽 性肺癌薬物治 療セミナー	下関グランド ホテル
2018.8.4	平成 30 年度感染防止研修会	吉田順一 〔座長〕	平成 30 年度感 染防止研修会	関門医療 センター
2018.8.9~10	認定看護師によるノンアルコール手 指消毒薬使用プログラムの効果	浅野郁代 藤重淳子	第 49 回日本看 護学会看護管 理学術集会	仙台国際 センター
2018.10.20	特別講演	吉田順一 〔座長〕	感染対策ネット ワーク下関 第 4 回学術集会	下関市立 市民病院
2018.10.20	シンポジウム A : 感染防止対策	浅野郁代	感染対策ネット ワーク下関 第 4 回学術集会	下関市立 市民病院

2018.10.31	講演 2	吉田順一 [座長]	感染制御セミナーIN 下関	東京第一 ホテル下関
2018.11.28~29	外科感染症入門講座 4・5	吉田順一 [座長]	第31回日本外科感染症学会 総会学術集会	大阪市
2018.11.28~29	パネルディスカッション	吉田順一 [座長]	第31回日本外科感染症学会 総会学術集会	大阪市

<論文>

発表年	表 題	著書等	雑誌・巻・ページ
2018	敗血症の新・旧定義など諸因子による腹部 感染症術後の転帰予測	吉田順一 裴惺哲 宮竹英志 江口大樹 大谷和広 石光寿幸 中原千尋 牧野一郎 井上政昭 田中雅夫	救急医学 42 (1) 115-119
2018	感染症に対する抗体医薬	吉田順一 他病院医師	医学のあゆみ 265 (1) 110-115
2018	シンポジウム「感染対策について」	吉田順一	勤務医ニュース 22 (1) 1-16
2018	感染症に対する抗体医薬	吉田順一 他病院医師	別冊・医学のあゆみ 108-113



## 保険委員会

### 【概要】

保険委員会では、病院の経営上最も重要な収入である診療報酬の保険請求について、毎月1回委員会を開催し、検証、検討を行なっています。

主な活動として、保険請求を行った診療のうち、減点査定されたものに対し査定の適否を検討し、不当と思われる査定に対しては、審査支払機関へ再審査を依頼しています。

また、減点査定一覧表を各医師に配布することで審査の動向を把握し、適宜減点査定されないよう注意喚起を行なっています。

なお、平成30年度の診療報酬保険請求査定減点状況は以下のとおりで、外来診療では査定減は件数、点数とも前年を上回る成績でしたが、入院診療の査定減点率は、前年を大きく下回る結果となりました。

社会保険審査支払基金及び国保連合会では、査定の強化、厳正化を進めており、当院としても請求前点検の実施強化など、引き続き、査定減の縮小に向けた取り組みが必要になります。

	査定減点件数 (件数)			査定減点率 (%)		
	外来	入院	合計	外来	入院	合計
4月	350	59	409	0.46	0.09	0.18
5月	168	69	237	0.12	0.22	0.19
6月	175	86	261	0.21	0.27	0.25
7月	194	69	263	0.18	0.12	0.14
8月	152	72	224	0.15	0.22	0.20
9月	163	50	213	0.12	0.28	0.23
10月	187	56	243	0.40	0.21	0.26
11月	118	50	168	0.11	0.12	0.12
12月	141	55	196	0.21	0.15	0.16
1月	136	65	201	0.13	0.10	0.11
2月	144	75	219	0.28	0.10	0.15
3月	176	64	240	0.22	0.17	0.18
合計	2,104	770	2,874	0.21	0.17	0.18
前年	1,690	672	2,362	0.18	0.25	0.23

# 輸血療法委員会

## 【構成】

委員長：上野 安孝 副院長

委員：17名 院長、副院長、医師、看護師長、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務局より構成。(学会認定・自己血輸血責任医師、学会認定・自己血輸血看護師、学会認定・臨床輸血看護師、認定輸血検査技師、医療安全対策室専従リスクマネージャーを含む。またオブザーバーとして山口県赤十字血液センター医薬情報担当者も参加。)

## 【活動状況】

平成30年度は血液製剤の適正使用の啓発、より良い自己血輸血に向けての体制整備を目標として活動を行いました。また、正しく安全な輸血療法を実施するための取り組みとして、多職種に向けた研修会などを積極的に開催しました。

### 主な活動内容

1. 血液製剤の適正使用に関する啓発
2. 血液製剤の依頼・使用状況に関する解析、報告
3. 自己血貯血・輸血の体制整備
4. 輸血依頼に関する諸問題への対策
5. 輸血療法に関する教育・啓発活動
6. 血液製剤に起因する輸血副作用に関する情報提供
7. インシデント事例の検証と再発防止対策
8. システム障害・非常時への対応・対策
9. 各種調査への協力

## 【輸血療法関連実績】

1. 血液製剤等使用量 (平成30年4月～平成31年3月)

輸血依頼総件数	2,183 件	
輸血患者数 (延数)	745 名	
血液製剤総使用量	7,931 単位	(3,249 本)
赤血球製剤 (Ir-RBC-LR など)	3,496 単位	(1,748 本)
新鮮凍結血漿 (FFP-LR)	1,156 単位	(553 本)
血小板製剤 (Ir-PC-LR)	2,560 単位	(256 本)
自己血 (貯血式)	719 単位	(692 本)
自己血 (回収式)	70,166mL	(180 件)
自己血 (希釈式)	6,287mL	(5 件)

アルブミン製剤	5,437.5g	(503 本)
---------	----------	---------

2. 貯血式自己血貯血量 (平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)

実施症例数	207 症例	
自己血貯血量	745 単位	(712 本)

【副作用監視状況】

1. 輸血副作用報告

輸血副反応ガイド（日本輸血・細胞治療学会）に沿って、症状を 17 項目に分類、製剤ごとの報告とし、輸血副作用の有無に関わらず全例報告する体制をとっています。輸血を実施した全例のうち、輸血中・後に「副作用あり・疑い」と報告されたものは 38 件でした。

いずれも疾患に起因するものや手術後の発熱等と鑑別ができない非重篤例で、特に原因検索や厚生労働省・日本赤十字社への副作用報告を要する例は認められませんでした。

対象製剤	RBC	FFP	PC	自己血	計
報告件数	20	2	5	11	38
患者数（重複あり）	17	2	3	10	31

対象製剤		RBC	FFP	PC	自己血
対象製剤本数		20	2	5	11
症状項目		報告数（重複あり）			
1	発熱	15	0	3	6
2	悪寒・戦慄	1	0	0	0
3	熱感・ほてり	0	1	0	0
4	掻痒感・かゆみ	1	1	2	0
5	発赤・顔面紅潮	0	1	0	0
6	発疹・蕁麻疹	1	1	3	0
7	呼吸困難	0	0	0	0
8	嘔気・嘔吐	2	0	0	4
9	胸痛・腹痛・腰背部痛	0	0	0	0
10	頭痛・頭重感	0	0	0	1
11	血圧低下	0	0	0	0
12	血圧上昇	1	0	0	0
13	動悸・頻脈	0	0	0	0
14	血管痛	0	0	0	0
15	意識障害	0	0	0	0
16	赤褐色尿（血色素尿）	0	0	0	0
17	その他	0	1	0	0

## 2. 輸血前後感染症マーカー検査

厚生労働省「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」にのっとり、輸血前感染症マーカー検査 582 件、輸血後感染症マーカー検査 148 件を実施しました。輸血後肝炎をはじめとした感染性輸血副作用は認められませんでした。

### 【その他の活動】

#### 1. 教育活動

院内職員を対象に、輸血療法に関する研修を行い、輸血療法委員会委員がその教育活動に講師として参加・協力しました。

昨年度に引き続き、新人看護師研修として、模擬血液製剤バッグと輸血セットを用いた実技演習を行いました。病棟勉強会でも同様の演習を行い、輸血施行準備のポイントや注意点について実技を交えて指導しました。

また、多職種向けの地域医療研修会を2回開催し、自施設だけでなく近隣の医療従事者も対象に、輸血療法への知見を深める機会を設けました。

2018.5.17	新人看護師研修「輸血検査に関する注意点」	大菌優子
2018.6.7	輸血に関する新人看護師研修	柴田千春 田村將子 福田直子
2018.7.25	輸血療法に関する研修会（地域医療研修会） 「エビデンスに基づいたアルブミン製剤の適正使用について」	WEB 講演会
2018.10.31	輸血療法に関する研修会（地域医療研修会） 「アルブミン製剤の適正使用と今後の使用動向」	WEB 講演会
2018.11.9	輸血に関する新人看護師見学研修	大菌優子
2019.3.12	山口県赤十字血液センター供給部門勉強会輸血業務に関する研修会「当院における輸血の現状」	大菌優子
2019.3.26	病棟勉強会 「輸血セットの使用方法に関する実技講習会」	田村將子 福田直子 柴田千春 大菌優子

#### [講師一覧]

大菌優子	主任 臨床検査技師 認定輸血検査技師
柴田千春	主任 看護師 学会認定・自己血輸血看護師
田村將子	副主任 看護師 学会認定・自己血輸血看護師 学会認定・臨床輸血看護師

福田直子	副主任 看護師 学会認定・自己血輸血看護師
------	--------------------------

## 2. 対外活動

### (1) 山口県輸血療法委員会合同会議への出席

山口県健康福祉部薬務課主催の山口県輸血療法委員会合同会議へ出席し、山口県内の献血および血液製剤の供給・使用状況について協議を行いました。

### (2) 輸血用血液の供給に関する懇談会への出席

山口県赤十字血液センター主催の懇談会へ出席しました。山口県赤十字血液センターの製剤需給に関する諸問題、また、血液製剤の準備に苦渋する症例への対応などについて、県内医療機関の代表者とともに協議・検討しました。

### (3) 献血への協力・推進活動

当院で毎年実施される献血について、事前の広報活動や献血実施の呼びかけなどを積極的に行い、職員が献血に参加しやすくなるよう協力活動を行いました。

輸血療法委員会が献血への呼びかけを行うのは今回初めてのことでしたが、例年よりも多くの職員・来院者から協力を得ることができ、目標以上の採血を行うことができたそうです。今後も献血に対して広報活動などの協力を続けていこうと考えています。

### (4) 血液センターへの協力

山口県赤十字血液センター職員研修会に参加し、供給部門のセンター職員へ講演を行いました。当院で行われる輸血療法について、緊急度や病態、様々な疾患別のガイドラインなどに沿って、血液製剤が発注・使用される状況などを解説しました。医療機関で行われている輸血療法の実情を伝えることで、血液製剤の需給調整に対して、より良い情報共有や連携への一助になると期待されます。

### (5) 各種調査への協力

厚生労働省をはじめとする種々の輸血療法関連調査について、調査協力や回答を行いました。

血液製剤使用実態調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血業務に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血製剤年間使用量に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血用血液製剤及び関連業務に関する調査	日本赤十字血液センター
血液事業に関する医療機関意識調査	日本赤十字血液センター
医療機関における災害時等の輸血用血液製剤ならびに血漿分画製剤供給不足への対策に関するアンケート調査	厚生労働科学研究「血漿分画製剤の安定的確保・製造供給体制のあり方に関する研究」班

輸血検査に関する調査	山口県赤十字血液センター
血液製剤発注システムに関する調査	山口県赤十字血液センター
輸血療法の実施に関する調査（山口県輸血療法委員会合同会議事前調査）	山口県健康福祉部薬務課

# 治験審査委員会

## 【目的】

医薬品の臨床試験の実施に関する省令(GCP)により、病院長による設置が義務付けられ、治験依頼者（製薬会社）が立案した治験計画が、科学的、倫理的及び医学的に適正であるか、また更に被験者の立場に立ち、その妥当性等、治験を実施するに当たり必要な事項について審議する。

## 【委員構成】

医師 3 名、薬剤師 1 名、看護師 1 名、事務局職員 2 名、外部委員 2 名の 計 9 名

## 【平成 30 年度開催実績】

年 12 回（1 回／月）

## 【平成 30 年度実績】

肩・肘・足関節に加えて膝の変形性関節症の疼痛・炎症をコントロールする SI-613、ヒトメタニューモウイルスに対する治療薬、間欠跛行を有する腰部脊柱管狭窄症に対する NS-304、関節リウマチに対する生物学的製剤 TS-152(MTX 併用 or 非併用)および慢性咳嗽に対する MK-7264 の 6 試験の実施が承認されました。しかし、クロストリジウム・ディフィシルトキソイドワクチンについては中間解析の結果より試験の無益性が認められ中止、また、ヒトメタニューモウイルスに対する治療薬についての契約は締結されましたが開始前に更なるデータ入手・解析が必要なため中止となりました。本年度の実施試験数は 16 試験で過去最高となりました。

	治験名称	依頼会社名	診療科
1	セレンの補充を必要とする患者を対象とした FPF3400 の長期投与試験—多施設共同オープン試験—	藤本製薬株式会社	救急科
2	クロストリジウム・ディフィシル感染のリスクにさらされている被験者を対象としたクロストリジウム・ディフィシルトキソイドワクチンの有効性、免疫原性、安全性試験 (Cdiffense™)	サノフィ株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
3	成人の慢性腰痛症患者を対象とした Tanezumab の鎮痛効果および安全性を評価する第 3 相多施設共同無作為化、二重盲検、プラセボおよび実薬対照、並行群間比較試験	ファイザー株式会社	整形外科
4	日本人成人の慢性腰痛症患者を対象とした Tanezumab の長期皮下投与時の安全性および有効性を評価する第 3 相、多施設共同、無作為化、二重盲検、実薬対照比較試験	ファイザー株式会社	整形外科

5	メトトレキサートによる治療で効果不十分な関節リウマチ患者を対象とした E6011 の用量反応性試験	エーザイ株式会社	リウマチ膠原病内科
6	活動性関節リウマチ患者に対する YLB113 の長期継続投与試験	YL バイオロジクス株式会社	リウマチ膠原病内科
7	骨折の危険性の高い原発性骨粗鬆症に対する MN-10-T AI の第 III 相臨床試験－注射用テリパラチド酢酸塩を対照とした骨量非劣性試験－	旭化成ファーマ株式会社	整形外科
8	待機的、後方進入での切開による、インストゥルメンテーションを使用した多椎間におよぶ脊椎固定術を予定する成人を対象とした 4 抗原黄色ブドウ球菌ワクチン (SA4Ag) 接種による安全性および有効性を検討する第 2b 相、プラセボ対照、無作為割付け、二重盲検試験	ファイザー株式会社	整形外科
9	SI-613 の変形性関節症（肩関節、肘関節、股関節、足関節）患者を対象とした第 III 相試験	生化学工業株式会社	整形外科
10	ASP5094 前期第 II 相試験 —メトトレキサート (MTX) 併用下における関節リウマチ患者を対象とした無作為化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験—	アステラス製薬株式会社	リウマチ膠原病内科
11	SI-613 の変形性膝関節症患者を対象とした第 III 相試験（検証的試験）	生化学工業株式会社	整形外科
12	ヒトメタニューモウイルス感染症の成人入院患者を対象とした Lumicitabine (JNJ-64041575) を経口投与したときの抗ウイルス活性、臨床アウトカム、安全性、忍容性、及び薬物動態の検討のための後期第 2 相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試験	ヤンセンファーマ株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
13	間欠跛行を有する腰部脊柱管狭窄の患者を対象とした NS-304 のプラセボ対照二重盲検法による探索的試験（前期第 II 相）	日本新薬株式会社	整形外科
14	メトトレキサートで効果不十分な関節リウマチ患者を対象とした TS-152 の第 II/III 相臨床試験	大正製薬株式会社	リウマチ膠原病内科
15	メトトレキサート非併用の関節リウマチ患者を対象とした TS-152 の第 III 相臨床試験	大正製薬株式会社	リウマチ膠原病内科
16	慢性咳嗽を有する成人被験者における MK-7264 の有効性及び安全性を評価する 12 ヶ月間の無作為化、二重盲検、プラセボ対照の第 III 相試験	MSD 株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)

なお、GCP 第 28 条により、治験業務手順書、治験審査委員会委員名簿、治験審査委員会の審議概要を平成 21 年 4 月から当院のホームページで公開しています。



# 検体検査管理委員会

## 【精度管理調査】

2018年度、日本臨床衛生検査技師会、日本医師会をはじめ、多くの精度管理調査に参加しました。

日本臨床衛生検査技師会の成績は、臨床化学、免疫血清、微生物、一般、病理、細胞、血液、輸血、生理において96.5%でした。日本医師会の成績は、総合標点99.8点でした。また、会議を2019年3月に開催し、精度管理調査成績報告を行いました。

## 【主な院内精度管理】

生化学検査	市販コントロール血清	毎日
血清学検査	市販コントロール血清	毎日
一般検査	市販コントロール試料	毎日
血液検査	市販コントロール試料	毎日
血中薬物検査	市販コントロール血清	1回/週
血液ガス分析検査	市販コントロール試料	1回/週
凝固線溶検査	市販コントロール血漿	毎日
輸血関連検査	市販コントロール試料	毎日

## 【外部精度管理】

全部門	日本臨床衛生検査技師会精度管理調査	1回/年
	山口県臨床検査技師会精度管理調査	1回/年
血液、生化学、免疫、一般	日本医師会精度管理調査	1回/年
血液学的検査	QAP(シスメックス)	2回/年
生化学的検査	QAP(シスメックス)	1回/月
微生物学的検査	山口県臨床検査技師会サーベイ	1回/年
組織・細胞検査	日本細胞学会精度管理調査	1回/年

上記以外にも、多くのメーカー精度管理を実施、参加しました。

## 【検体検査管理加算】

当院は、検体検査管理加算Ⅱを届出しています。

## 【精度保証施設認証】

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会が認定している「精度保証施設認証」を、2014年4月1日より認証を受け、2020年3月までの2年間の認証更新がなされています。

# 診療録管理委員会

診療録管理委員会は、適正な診療録の記載と管理に資するため、診療録に関する諸問題について協議しています。

## 【平成 30 年度 診療録管理委員会議事要約】

第 1 回 2018.6.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年度診療録監査計画を呈示、意見は特に無く承認された。</li> <li>第 1 回目の監査は 7 月におこない、8 月に結果報告を行うこととした。</li> </ul>
第 2 回 2018.8.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>7 月実施の診療録監査結果を報告。</li> <li>医師部門では、手術記録が簡素すぎるものがある。説明と同意書の医師氏名が印刷されているため自署がないものがあるので自署に変更する。略号が多いが、学会で認められているものは認めることとする。日々の記述にコピーが多い。コピーだけの日があるのは良くない。入院診療計画書は改善傾向。退院療養計画書は努力義務。患者家族に対する説明とそれに対する反応の記載が不十分（52%）等の指摘があった。</li> <li>看護部門では、各勤で観察項目のチェックが充分行われていない。変換間違いがあまりに多いとの指摘があった。</li> <li>2011.2.27 までの入外カルテは保管庫及び下関市立市民病院分室で保管することに取り扱い要綱を変更。</li> </ul>
第 3 回 2018.11.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>10 月実施診療録監査の結果を報告。医師部門で最適率の改善傾向がみられた。看護部門で項目改善の意見があった。</li> <li>第 3 回は 1 月に実施。</li> </ul>
第 4 回 2019.2.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 月実施診療録監査結果。</li> <li>医師部門で説明と同意の監査内容を詳しくすべきとの意見。前田医療安全対策室室長に項目の案を依頼した。主観的、感情的な文言の記載がみられた。</li> <li>事務部門で、退院療養計画書の医師サインを監査項目から削除する提案。承認。</li> <li>看護部門では、やはり各勤での観察項目のチェックが半数しか行われていない。</li> </ul>

## 【平成 30 年度 診療録適正化のための監査及び監視活動】

### (1) 入院診療録の質的監査の実施

平成 30 年度は、入院診療を行っている全診療科全医師の入院カルテの監査を 3 回に分けて行いました。7 月、10 月、1 月に各 50 冊のカルテを抽出し、医師及び看護師がそれぞれ医師記録及び看護記録の記載が適正に行われているかを監査しました。

(2) 退院時要約の監視と督促

退院時要約の作成状況を診療情報管理室で監視し、3段階で主治医に督促を行っています。退院時要約の完成率は100%ですが、月毎の退院後14日以内の完成率は1年を通じて90%以上を保っているものの、低下傾向です。

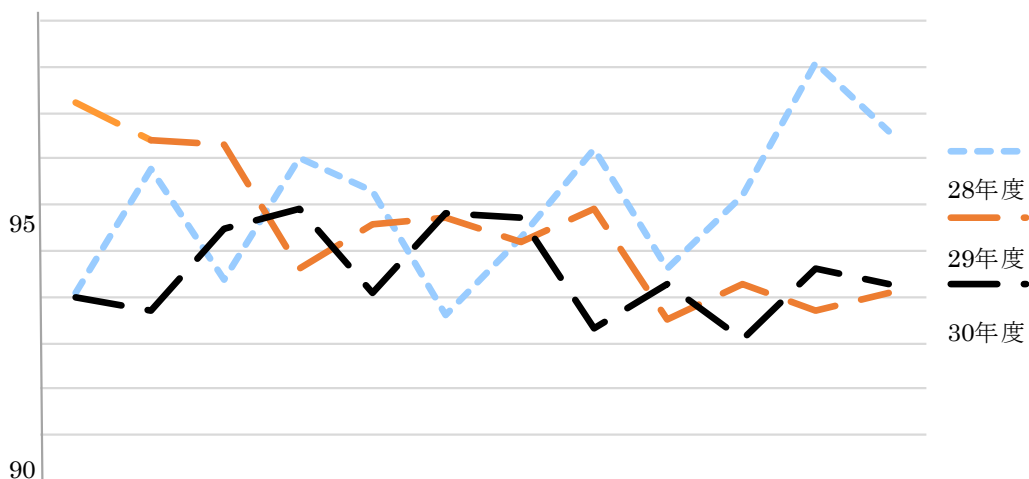
(3) 入院診療計画書の監査

入院7日後に入院診療計画書の監査を行っています。未完成、未署名のものには督促を行い、完遂させています。

(4) 委譲者オーダーの承認の監査

看護師、コメディカルなどにより代行で出されたオーダーに対し、医師の確認と承認がなされていることを毎月監査し、督促しています。

14日以内退院時要約作成率 (%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
28年度	93.1	95.8	93.4	96.0	95.3	92.6	94.3	96.2	93.6	95.2	98.1	96.6
29年度	97.2	96.4	96.3	93.6	94.6	94.7	94.2	94.9	92.5	93.3	92.7	93.1
30年度	93.0	92.7	94.5	94.9	93.1	94.8	94.7	92.3	93.3	92.1	93.6	93.3

# 安全管理委員会

## 1.安全管理委員会（毎月第4水曜日開催）12回／年開催

医療事故を防止するためには、医療に係る各職員がその必要性と重要性を自分の課題と認識して事故防止に努め、医療の質の向上を図るとともに事故防止体制を確立することが必要です。この目的に鑑み、当委員会は平成14年に発足し、以下の5つの部会 1) リスクマネジメント部会 2) インシデント事例検討部会 3) 各種ワーキングチーム 4) ヒヤリ・ハットミーティング 5) 医療案件検討部会を基盤としています。

平成30年度は年間目標を『「安全管理に向けたチーム医療を実施する」1. “前向きな言葉”があふれるコミュニケーションに心がけ、話し合いのできる垣根の低い職場風土をつくる。2. 患者をチームメンバーと位置づけ、説明と同意をはじめとした医療に、患者が参加できる場をつくる。3. 多職種および患者さん協同で“確認”を実施し、誤認のない安全な医療を実施する。』とし、具体的行動目標を各部署、グループで決め取り組みました。平成24年度より医療安全推進のためには、院内コミュニケーションの改善が不可欠という考えのもと、「松本宣言」を病院全体で実践することを推奨し、スタッフ間の円滑で積極的なコミュニケーションの醸成を目指しています。今年度はさらに、多職種間のより良いコミュニケーションにより、横のつながりを強くして、誰もが自由に意見を言い合うことができる風通しの良い垣根の低い環境を作り出すことが真のチーム医療を実現する第一歩ととらえ、組織全体で取り組みました。

医療安全管理マニュアルにおいて、平成30年度に改正を行った項目は以下のとおりです。

- 医療安全対策室業務手順
- 静脈血栓塞栓症リスク評価表（非手術例）（手術例・外傷例）

安全管理委員会主催の講演会は次のとおりです。

その他の研修会は、医療安全対策室より報告します。

### 【医療安全講演会】

開催日時	テーマ	講師	参加者
2018.5.25	「静脈血栓塞栓症の予防～リスク評価と予防対策～」	小林隆夫氏（浜松医療センター 名誉院長）	院内 101名 院外 20名
2018.9.12	「医療従事者のための睡眠の質をあげるヒケツとは!？」	濱田隆晴氏 (睡眠健康指導士)	院内 96名 院外 2名
2019.2.21	「医療事故に関する刑事事件への対応と診療記録の重要性」	瓜生修一氏（赤坂門法律事務所 弁護士）	院内 134名 院外 43名

## 【リスクマネジメント大会】

開催日時	「第15回リスクマネジメント大会」
2019.2.14	発表部署：5階西病棟・6階東病棟・5階東病棟・手術部 報告：リハビリテーション部・医療安全対策室

### 2.医療安全推進担当者会議（毎月第2木曜日開催）12回／年開催

安全管理・医療事故防止などに関する重要事項について、院内全部署から選ばれたリスクマネージャーが真剣に討議し、有効な対策を提案し安全管理委員会に議案を提出、決定事項については安全管理委員会よりリスクマネジメント部会および院内に広報しました。

インシデント事例報告については、高リスクレベルあるいは発生頻度が多い事例について例会で検討し部会に通知し、適宜インシデント報告の状況を報告しました。

また、医療安全 RM ラウンドを各部署のリスクマネージャーによって隔週で行い、結果を部会で報告しました。

### 3.インシデント事例検討部会（毎月第3金曜日開催）11回／年開催

提出されたすべてのインシデント・アクシデント報告（ヒヤリハット報告含む）について、安全管理委員会委員長ほか10名のメンバーが全事例を確認し、対策の必要度をトリアージしています。取り上げた事例について関連部署で分析し、リスクマネジメント部会で報告しました。また、ヒヤリ・ハットミーティング報告事例は事例検討部会に還元しました。インシデント・アクシデント報告（転倒転落事故報告含む）の集計は後半に示します。

### 4.医療案件検討部会（開催は必要に応じて随時）5回／年

平成30年度は緊急案件5件を審議検討しました。部会メンバーは、安全管理委員会委員及び関係診療科・部署の責任者となりました。

リスクレベル3以上の事例、または対応に苦慮している事例、他部署から疑義が出た事例について、病院としての考え方、対応のあり方を組織横断的に検討しました。

倫理上の問題に関しては、臨床倫理委員会へ検討の場を移しました。

### 5.ヒヤリ・ハットミーティング（毎月第1・3月曜日開催）18回／年

インシデント・アクシデント報告のうち、リスクレベルの高いもの、早期に対応を要する事例、繰り返し起こっている事例、医療上のクレームなどを選択し、幹部職員に報告、早期に指示を得ることを目的として開催しています。内容によっては早めの方針決定や医師への周知が必要なものがあり、院内電子掲示板（My-Web）や関連会議で周知・確認を行った結果、早期対策の実施につながりました。

### 6.インシデント・アクシデント報告件数：1,324件／年（転倒転落を含む）

リスクレベル分類の0～5は多くの施設が採用している分類です。当院では、患者さまに実施されない医療に関連したクレーム、医薬品の紛失・破損、医療従事者に発生したもの、分類困難なもの等、広く収集するためにリスクレベル6を設定しています。

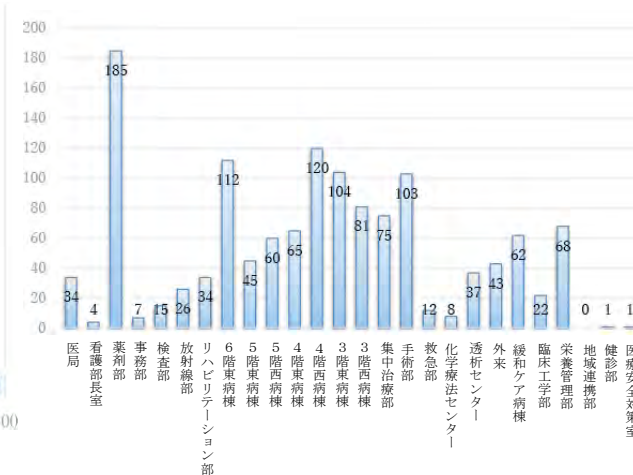
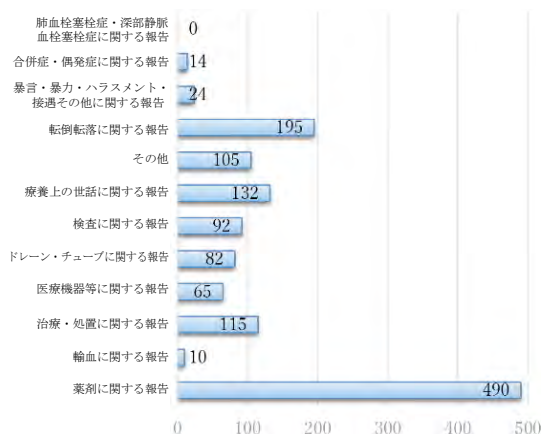
平成 30 年度インシデント・アクシデント報告件数（集計期間 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

【事例別一覧】

肺血栓塞栓症・深部静脈血栓塞栓症に関する報告	0
合併症・偶発症に関する報告	14
暴言・暴力・ハラスメント・接遇その他の報告	24
転倒転落に関する報告	195
その他	105
療養上の世話に関する報告	132
検査に関する報告	92
ドレーン・チューブに関する報告	82
医療機器等に関する報告	65
治療・処置に関する報告	115
輸血に関する報告	10
薬剤に関する報告	490
総件数 1,324	

【部署別報告一覧】

医局	34	3階西病棟	81
看護部長室	4	集中治療部	75
薬剤部	185	手術部	103
事務部	7	救急部	12
検査部	15	化学療法センター	8
放射線部	26	透析センター	37
リハビリテーション部	34	外来	43
6階東病棟	112	緩和ケア病棟	62
5階東病棟	45	臨床工学部	22
5階西病棟	60	栄養管理部	68
4階東病棟	65	地域連携部	0
4階西病棟	120	健診部	1
3階東病棟	104	医療安全対策室	1
		総件数	1,324



# 褥瘡対策委員会

## 【目的】

入院患者さまに安全で快適な療養環境を提供するために、褥瘡予防・治療上における各職種専門性を生かした対策を検討し、全職員へ周知、徹底させることを目的としています。

## 【活動概要】

褥瘡対策委員会は、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士および理学療法士等、多職種で構成されています。毎月1回定期的に委員会を開催し、褥瘡対策に関する協議、症例検討等を行っています。また、カンファレンス、回診を週に1回行い、患者さまに応じた褥瘡治療・ケアを提供しています。

平成30年度は病棟単位で褥瘡対策に関する年間計画の立案と計画に沿った活動を行い、「褥瘡発生0」をめざしました。

## 【平成30年 褥瘡に関する数値】

院内褥瘡発生率 0.08%

<年間発生数>

院内発生	85件
院外発生	83件

<転帰>

	治癒	軽快	不変	悪化
院内発生	37件	7件	23件	18件
院外発生	27件	17件	24件	15件

院内発生褥瘡について

<診療科別>

整形外科	呼吸器外科	外科	脳神経外科	消化器内科	救急科	循環器内科	腎臓内科	緩和ケア内科	心臓血管外科	その他
20件	6件	11件	3件	6件	3件	10件	4件	16件	2件	4件

## 【平成30年度 研修内容】

- ・当院での褥瘡対策
- ・スキン・ケア（皮膚裂傷）とMDRPU（医療関連機器圧迫創傷）
- ・おむつの当て方と交換間隔
- ・褥瘡予防と発生後の対応
- ・失禁関連皮膚炎の基礎知識とケア



# NST運営委員会

## 【目的】

栄養管理はすべての疾患治療のうえで共通する基本的医療の一つであり、栄養管理をおろそかにするといかなる治療もその効力を発揮できず、逆に栄養障害に起因する種々の合併症を発症してしまうことがあります。適切な栄養療法が行われるためには、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などの多くの職種が、各々の知識と技能を持ち寄って栄養管理を行っていかねばなりません。栄養管理を個々の症例や各疾患治療に応じて適切に実施することを栄養サポートと言い、この栄養サポートを職種の壁を乗り越えて実践する集団（チーム）をNSTと言います。早期栄養管理や栄養療法の標準化を図ることで、栄養療法の質の向上化だけでなく、合併症の予防や在院日数の短縮も期待されています。

当院では平成18年度より全科型NST活動を開始しました。栄養サポートチームの活動を通じ、患者さまの栄養状態を改善させ、必要に応じて経口摂取への円滑な移行を促進することを目標に関わっています。

## 【主な活動内容】

毎月1回 NST運営委員会を開催

毎週1回 NSTカンファレンスと回診、嚥下回診を実施

年2回 院内職員を対象に嚥下研修会を実施

第11回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会 2題発表

### 1. NST運営委員会について

毎月1回開催しています。各部署の委員は年1回ずつ症例発表又は勉強会を実施し、栄養に関する知識の習得に努めています。また、栄養や嚥下に関する議題について話し合っています。

### 2. 嚥下回診

全病棟の嚥下食を提供中の患者さまと、摂食機能療法を実施している患者さまを対象に、週1回、回診を行っています。

嚥下食を提供中の方に対しては段階的食事形態アップ評価表を使用し、個人の嚥下機能に応じた食事が提供できているかどうかを定期的に評価し、確認しています。

摂食機能療法は、嚥下機能が低下した方に対して評価・リハビリを行うことで安全な経口摂取ができることを目的としています。嚥下機能の低下が著しく経口摂取が対象となる方には脳卒中だけでなく、肺炎、大腿骨頸部骨折後・外科の手術後などでも嚥下機能の低下が起こる場合があるため、入院され食事が開始される前には飲み込みの状態を確認し、安全な経口摂取が行えるように対応しています。

飲み込みの検査で嚥下機能の低下が見られる場合には、耳鼻咽喉科で嚥下内視鏡検



査を行い嚥下チームで安全に経口摂取が行えるように計画を立て、リハビリを行っています。

### 3. 嚥下研修会

年 2 回 NST 運営委員会主催で院内職員を対象とした嚥下研修会を行っています。

研修会	研修内容	講師	参加人数
口腔ケアを見直そう	口腔ケアの基本について	内田 朋宏	45 人
食事介助と嚥下食について	ベッド上での食事姿勢・ポジショニング、ゼリー・嚥下食の試食	内田 朋宏	30 人

#### 研修会の様子



口腔ケアの基本や、間接嚥下訓練について、スポンジブラシやガーゼを用いて実技を交えながら説明を行いました。



ゼリー、トロミ水などを用いて、食事介助方法やポジショニングについて研修を行いました。また、院内で提供している嚥下食の試食も行いました。

#### 【活動実績】

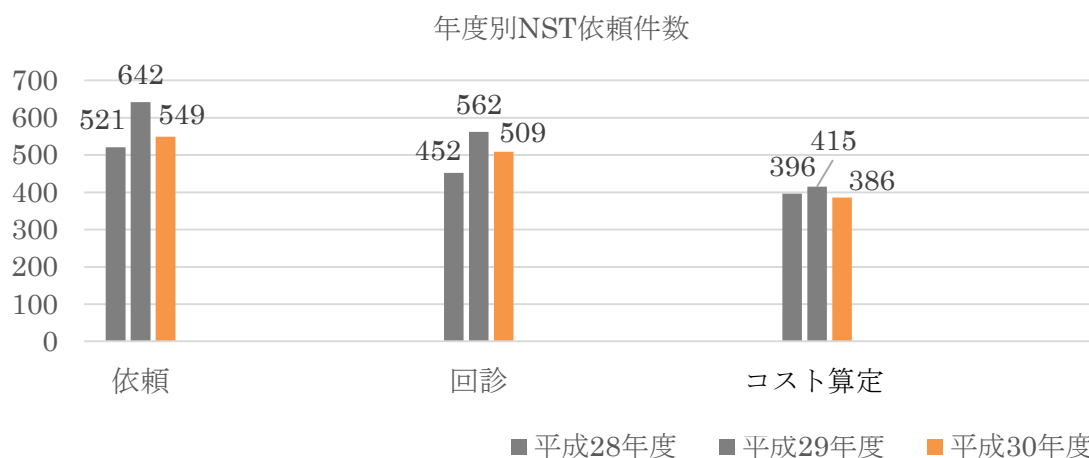
平成 28 年 6 月から週 1 回、栄養サポートチーム加算の算定を開始しました。歯科医師も回診メンバーに加わり、歯科医師連携加算も算定しています。回診メンバーは、所定の研修を終了した医師、看護師、薬剤師、管理栄養士に加え、歯科医師や言語聴覚士、臨床検査技師で構成されています。平成 30 年度は新規介入依頼件数の増加、低栄養状態・食事摂取不良の改善目的での介入依頼件数の増加、褥瘡の改善目的での介入依頼件数の増加を目標に活動しました。

NST は嚥下チームも兼ね併せており、全病棟の嚥下食を摂取している患者さまを対象に、

摂食・嚥下障害看護認定看護師と言語聴覚士、管理栄養士により週 1 回嚥下回診を行っています。当院の摂食機能療法は平成 30 年 10 月よりマニュアルや評価などを改訂し平成 31 年 1 月より摂食機能療法加算の算定を開始しました。

[年度別 NST 依頼件数]

	依頼件数	回診件数	コスト算定件数	新規依頼件数
平成 28 年度	521	452	396	126
平成 29 年度	642	562	415	135
平成 30 年度	549	509	386	153

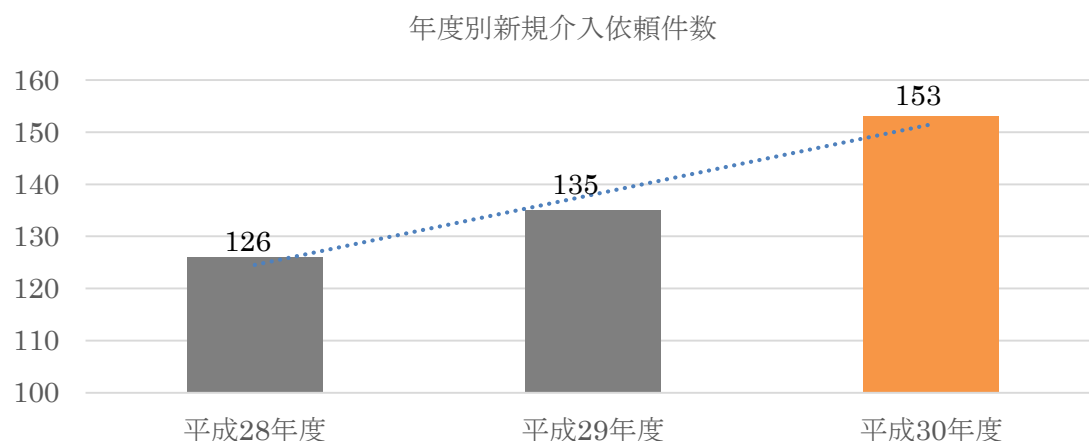


[年度別 NST 介入理由内訳 (件数)]

	低栄養・ 食事摂取不良	経腸栄養	褥瘡	頭頸部癌 リニアック	嚥下	病態管理
平成 28 年度	22	88	3	4	6	3
平成 29 年度	7	111	1	5	9	2
平成 30 年度	20	110	3	6	13	1

[年度別新規介入依頼件数]

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
新規依頼件数	126	135	153



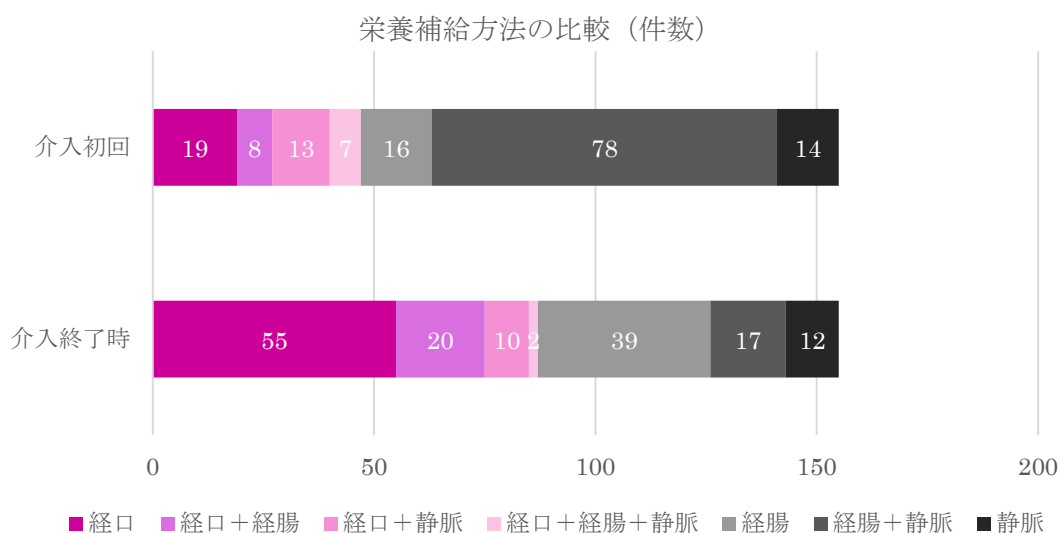
[平成 30 年度 NST 介入実績]

患者データ	男性	女性	合計	患者データ	年齢	入院日数 (死亡症例を除外)	回診回数
介入人数	80	75	155	中央値	79 歳	30 日	2 回

[平成 30 年度 NST 介入開始時と終了時の各種検査データの比較 (上昇率 (%))]

	アルブミン	プレアルブミン	BMI
全体の介入患者	100	132.9	99.1
低栄養状態改善目的、嚥下食調整、褥瘡対策での介入患者	104.2	140.8	

[平成 30 年度 NST 介入開始時と終了時の栄養補給方法の比較]



NST 介入終了時には経口摂取を開始する症例が増加しています。また、経口栄養だけで栄養補給を行う症例が増加し、反対に静脈栄養を施行する症例が減少しています。さらに、NST 介入終了時には経腸栄養だけで栄養補給可能な症例も増加しています。

[平成 30 年度 摂食機能療法加算算定件数]

	1 月	2 月	3 月
摂食機能療法 1	37	132	71
摂食機能療法 2	9	13	2
合計	46	145	73

【保有資格】

氏名	職種	保有資格
長畑 佐和子	歯科医師	日本口腔ケア学会認定資格（4級）
藤川 雄也	薬剤師	日本静脈経腸栄養学会認定 NST 専門療法士
高橋 理恵	看護師	摂食・嚥下障害看護認定看護師 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 専門療法士
内田 朋宏	言語聴覚士	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定療法士
吉見 文子	管理栄養士	日本栄養士会静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2018.8.18	当院 NST における 栄養障害患者の早期 抽出への取り組み	栗原悠二	吉見文子 長本陽子 保村宏樹 兼安美保	第 11 回日本静脈 経腸栄養学会中 国支部学術集会	呉市役所
2018.8.18	経腸栄養開始時の栄 養剤の違いによる栄 養投与量と栄養状態 の変化、経済効果の 比較	吉見文子	高橋理恵 兼安美保 栗原悠二 藤川雄也 徳永知世 岩崎加津子 内田朋宏 長本陽子 保村宏樹	第 11 回日本静脈 経腸栄養学会中 国支部学術集会	呉市役所

# 栄養管理委員会

## 【目的】

当委員会は、院内における栄養管理業務の円滑な運営と、その質の向上を図ることを目的としています。

## 【構成】

委員長：平 俊明 耳鼻咽喉科部長（栄養管理部長兼務）

副委員長：前田 博敬 副院長

委員：医師 2 名、看護師長 2 名、主任看護師 2 名、管理栄養士 1 名、事務部 4 名

## 【活動状況】

会議は 4 回の定例会議を開催しました。審議内容は以下のとおりです。

### ◇医師検食について

医師検食に関して、ICU 検食とは別に当直医への検食をサービスで提供していますが、当直医が検食を実施していないことが多く、損失が大きい現状がありました。その点について協議を行い、不要な当直医の検食は事前キャンセル制にすることとなり、それによって年間 20 万円のコストカットが見込まれます。

### ◇集団栄養指導の開催について

平成 29 年度より一般市民を対象とした減塩教室を今年度も継続して開催しました。年間参加合計人数は 64 名（平均 9 名）で継続的に参加される方も多く、再参加率は 73% と好評を得ております。また新たに令和元年 5 月よりそらまめ教室（慢性腎臓病についての体験食付き勉強会）の開催も予定しており、集団栄養指導の内容を拡充することによって、さらなる栄養指導件数の増加に繋がっていききたいと思います。

### ◇入院患者への食事アンケート結果について（2018 年 6 月・10 月・2019 年 2 月実施）

栄養管理部で行った入院患者に対する年 3 回の食事アンケートの結果、みんなの声について評価を行いました。アンケート結果では当院の給食について味・量・彩り・盛りつけ・総合満足度で昨年度と変わらず良好な結果でした。引き続き、献立の見直し等を行い、食事サービスの質と満足度向上に努めていきます。

### ◇災害用備蓄水の購入について

災害備蓄用食品は患者及び職員含めて 250 名分を 3 日間確保しており、災害時専用のディスプレイの食器も今年度補充が完了しました。しかし災害時の備蓄水が確保できていなかったため、協議の結果、購入することとなりました。備蓄数としては水分必要量なども考慮すると少なくとも 1,500 本（500ml）必要となります。

今後患者及び職員の想定人数の見直しを行った場合は、備蓄食・備蓄水の追加補充や保管場所に関する検討が必要と思われます。

# 広報年報委員会

当委員会は、広報活動として広報誌「まごころ」の発刊及びインターネット上の公式サイト  
の管理を行い、各部署の年報の企画と編集を行っています。

## 1. 広報活動

### ● 病院広報紙「まごころ」

原稿を編纂し、3ヶ月ごとに発刊しています。当院外来ロビーに設置し、外来患者さまへ  
配布をするとともに近隣病院など400余りに発送しています。その際、トピックに合わせた  
お知らせを同封しています。

電子版のバックナンバーの一覧は、<https://shimonosekicity-hosp/index61.html> に掲載  
しています。

平成30年度発刊分：

【春号】 5月15日発刊	特集「放射線診断科のご紹介 放射線診断科とはどんな診療科でしょうか？」 “地域の絆”のコーナー（登録医の先生方にご寄稿いただくコーナー） ・いとう整形外科 院長 伊藤裕 先生 ・しものせき皮膚科クリニック 院長 中村好貴 先生
【夏号】 8月15日発刊	特集「整形外科のご紹介 脊椎ナビゲーション手術」 “地域の絆”のコーナー ・はら医院 院長 原良英 先生 ・上野医院 院長 上野雄史 先生
【秋号】 11月15日発刊	特集「循環器内科のご紹介 不整脈とは」 “地域の絆”のコーナー ・ひらの胃腸科・内科医院 院長 平野厚宜 先生 ・喜多整形外科医院 院長 喜多正孝 先生
【冬号】 2月15日発刊	特集「看護部のご紹介」 “地域の絆”のコーナー ・だて整形外科リハビリテーションクリニック 院長 伊達亮 先生 ・山口内科 院長 山口敢 先生

以上のように地域の先生方にも加わっていただき、よりよい広報誌を目指しています。

### ● 公式サイト

当院公式サイト <https://shimonosekicity-hosp/>に新着情報やお知らせなどを掲載してい  
ます。スマートフォンなどにも対応しています。サイトのリニューアルを行いました。

- 年報

電子化したものを当院ホームページに掲載しています。30年度に編纂した29年度版は、<https://shimonosekicity-hosp/> において、[年報]で検索すると各診療科・部署のページにおいて表示されます。

## 2. その他の広報活動

- 院外広報

公共性の高い情報は、下関市の「市報しものせき」においても広報しています。その例として、採用情報案内や市民公開講座の案内があります。

# 臨床倫理委員会

## 【臨床倫理委員会の役割】

- (1) 臨床現場で起こる様々な倫理的問題のうち、現場の協議では解決できない問題について協議する。
- (2) しばしば遭遇する代表的な臨床倫理的問題に対する病院としての方針を決定する。
- (3) 新しい医療行為の導入に当たりその倫理的適否を審議する。

## 平成 30 年度委員会開催実績

2018.4.9	左側頬粘膜癌 術式について	診療部 歯科・歯科口腔外科
2018.4.9	免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) 使用時の①消化器と②呼吸器の免疫関連有害事象 (iRAE) における抗体医薬インフリキシマブの保険適用外使用について (再提出)	化学療法委員会
2018.5.28	リードスペースメーカー「Micra」の導入	診療部 循環器内科
2018.6.12	下咽頭梨状窩瘻に対する化学的焼灼術について	診療部 小児外科
2018.6.12	威圧的な言動を繰り返す患者の時間外における救急科受診時の対応について	診療部 血液内科
2018.6.12	不穏患者の治療継続について	診療部 循環器内科
2018.7.12	介護保険申請を行わない透析患者の今後の診療について	看護部 5階東病棟
2018.9.10	威圧的な言動を繰り返す患者の時間外における救急科受診時の対応について②	看護部 外来
2018.10.18	コンドリアーゼ (ヘルコニア) 椎間板内注入術の開始について	診療部 整形外科
2019.3.11	「維持血液透析の見合わせ」について	看護部 3階東病棟



# 倫理研究委員会

## 【概要】

委員長：井上 政昭（呼吸器外科部長）

副委員長：上野 安孝（副院長）

委員：7名（外部委員含）

平成 30 年度の委員会開催回数は 2 回、審査件数は 1 件でした。なお、倫理研究委員会設置要綱に則った迅速審査による審査件数は 24 件であり、総審査件数は 25 件でした。

研究の侵襲性や個人情報の保護、インフォームド・コンセントが適切であるかなどについて検討し、全て承認となりました。

## 【平成 30 年度 審査実績】

	研究課題名	申請者職種
1	緊急手術における米国外科学会全米外科の質向上プログラム（ACS NSQIP）のリスク計算機を日本の一病院において検証する研究	医師
2	肺癌診療の実態及び治療の有用性を明らかにするための前向き観察研究（CS - Lung - 003 SYUDY）（平 29 市民倫第 6 号の一部変更申請）	医師
3	経腸栄養開始時にグルタミン製剤の代わりに消化態栄養剤を使用することによる栄養状態に与える影響と経済的効果についての検討	管理栄養士
4	当院 RST 発足一年後の活動報告と今後の課題	看護師
5	急性冠症候群に対するエベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤 2 剤併用療法（DAPT）期間を 1 ヶ月短縮することの安全性を評価する研究（STOPDAPT - 2 ACS）	医師
6	リハビリテーション部臨床研究 側胸部皮膚伸張性は VAST 術後患者の肩関節機能と QOL に影響するか？	理学療法士
7	浅大腿動脈カテーテル治療における、スコアリングバルーン：NSE - PTA の 3 回拡張による有効性の検討（単施設後ろ向き研究）	医師
8	大腿膝窩動脈病変を有する症候性閉塞性動脈硬化症患者に対する薬剤溶出性バルーンを用いた末梢血管内治療に関する多施設前向き研究 PrOsPective multiCenter registry Of dRug-coated balloN for femoropopliteal disease ; POPCORN	医師
9	栄養障害患者の早期抽出を目的とした CONUT 変法導入検討	看護師
10	小児前腕骨幹部骨折の手術治療後合併症と機能予後についての研究	医師
11	全身状態不良 PD - L1 高発現の未治療非小細胞肺癌患者に対するペムブロリズマブの有用性を検討する第 II 相試験 OLCSG1801	医師

12	<p>活性型 EGFR 遺伝子変異を有する進行・再発非小細胞肺癌患者に対する一次治療としてのアファチニブ+ベバシズマブ併用療法とアファチニブ単剤治療のランダム化Ⅱ相試験 (プロトコールの一部変更：平 29 市民倫第 15 号関連)</p>	医師
13	<p>クロストリジウム・ディフィシル毒素 (CDT) と抗菌薬適正使用 (AS) 観察研究：2008 - 2017 年</p>	医師
14	<p>新生児・乳児消化管アレルギーの病態解明及び診断法の確立</p>	医師
15	<p>川崎病血管炎における宿主側因子と治療反応性予測マーカーの検討</p>	医師
16	<p>DPC データを用いた心疾患における医療の質に関する事業</p>	医師
17	<p>レセプトを用いた脳卒中救急疫学調査</p>	医師
18	<p>活性型 EGFR 遺伝子変異を有する進行・再発非小細胞肺癌患者に対する一次治療としてのアファチニブ+ベバシズマブ併用療法とアファチニブ単剤治療のランダム化Ⅱ相試験 (プロトコールの一部変更：平 30 市民倫第 25 号関連)</p>	医師
19	<p>活性型 EGFR 遺伝子変異を有する進行・再発非小細胞肺癌患者に対する一次治療としてのアファチニブ+ベバシズマブ併用療法とアファチニブ単剤治療のランダム化Ⅱ相試験 (臨床研究法下での研究への移行：平 30 市民倫第 31 号関連)</p>	医師
20	<p>石灰化を伴う浅大腿動脈病変に対する編み込み型ナイチノールステントを用いた血管内治療の実態調査 BURDOCK study</p>	医師
21	<p>大腿膝窩動脈病変を有する閉塞性動脈硬化症患者に対するパクリタキセル薬剤溶出型末梢ステントを用いた血管内治療に関する多施設・前向き研究</p>	医師
22	<p>高齢者非小細胞肺癌完全切除後病理病期 IB/II/IIIA 期症例の術後補助化学療法に対する S - 1 の連日投与法および隔日投与法のランダム化第二相試験 (平 24 市民倫第 4 号関連：臨床研究法で定める臨床研究への移行に伴い、2019 年 1 月 22 日岡山大学臨床研究審査委員会(認定番号 CRB6180001)にて新規申請案件として審査され、承認されたもの)</p>	医師
23	<p>「OPTIVUS-Complex PCI:Optimal Intravascular Ultrasound Guided Complex Percutaneous Coronary Intervention study (至適な血管内超音波ガイド経皮的冠動脈インターベンションの複雑性病変における臨床経過を評価する前向き観察研究)」</p>	医師
24	<p>日本消化器内視鏡学会 医療安全委員会 「消化器内視鏡に関連した偶発症の全国調査」</p>	医師
25	<p>肺癌診療の実態及び治療の有用性を明らかにするための前向き観察研究 (CS - Lung-003 SYUDY) (平 29 市民倫第 6 号 平 30 市民倫第 15 号の一部変更申請)</p>	医師

# 研修管理委員会

当委員会は、下関市立市民病院群の臨床研修について具体的な事項の立案・計画を行うことを目的とし、7名の外部委員を含む31名の委員で構成されています。

平成30年度における活動実績は、次のとおりでした。

## 1. 初期臨床研修医数

(1) 基幹型 2年次 2名

## 2. 協力病院での研修

精神科 医療法人水の木会下関病院

## 3. 協力施設での研修

地域医療 下関市立豊田中央病院

医療法人社団松涛会 安岡病院

医療法人社団季朋会 王司病院

## 4. 活動状況

(1) 研修医合同説明会への参加

MECマッチングフェア (5/6 福岡)

レジナビフェア (7/1 大阪、3/3 福岡)

eレジフェア (10/28 福岡)

県内臨床研修・専門研修合同説明会 in やまぐち (7/22 宇部)

(2) 病院見学会 (23回)

# CS推進委員会

## 【概要】

CS推進委員会は、例年のごとく毎月第3水曜日に開催し、「みんなの声」の投書に対する回答を含め、病院のCSに関する改革について検討を行いました。

委員長：坂井 尚二（副院長）

副委員長：前田 博敬（副院長）・高山 裕健（放射線部主査）

委員：各部署より20名

## 【みんなの声】

平成30年度「みんなの声」投書数は、322件（前年比91件増）でした。そのうち、お褒めの言葉が92件（29%（前年比2ポイント増））、ご意見・ご要望・苦情・その他が230件（71%（前年比3ポイント減））でした。

いただいた「みんなの声」全322件に対し、当院の回答率は94%（前年比9ポイント増）でした。残りの6%については、内容の判読困難なものなどであったため回答ができませんでした。回答については、正面玄関横の掲示板、病院ホームページにて公開しています。

## 【接遇研修会】

より多くの職員が研修会にて学べるよう、同一テーマで3回実施しましたが、今年度の目標でもあった「研修参加率50%」は達成することはできず、およそ37%の職員の参加となりました。

テーマ	「市民と信頼を築く接遇」～ホスピタリティと言葉の力～		
講師	外部講師招聘		
	開催日	対象者	参加者数
第1回	2018.9.19	全職員（委託職員含）	108
第2回	2018.10.17	〃	103
第3回	2018.10.18	〃	89

## 【患者さまアンケート】

平成30年9月12日と、平成31年2月13日に、外来患者さまと入院患者さまを対象にアンケート調査を実施しました。

その結果について小冊子にまとめ、正面玄関のみんなの声掲示板前にて閲覧できるようにし、病院ホームページにて公開しました。

平成30年度の平均総合得点は88.0点（前年比-1.4点）であり、施設の老朽化に対するご意見、接遇や職員のマナーの問題、患者さまの待ち時間の問題など今後の課題が多く挙げられました。

市民の皆さまに、より評価される病院を目指し改善に向けた努力を続けてまいります。

# クリニカルパス推進委員会

本委員会は、以下のことを審議・実施することを使命として、活動しています。

- (1) 新たなクリニカルパスの作成に関する事項
- (2) 使用中のクリニカルパスの見直しに関する事項
- (3) その他クリニカルパスの推進に関する必要な事項

平成 30 年度の委員会は、医師 5 名、看護師 17 名、事務職員 4 名、理学療法士 2 名、臨床検査技師・放射線技師・薬剤師・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・診療情報管理士 各 1 名の計 34 名、多職種から構成されています。

活動内容としては、次のとおりです。

# 月 1 回の委員会開催

# それぞれの分担下での、クリニカルパス管理

# 大腿骨頸部骨折・脳卒中地域連携パス・がん地域連携パスを通して、地域医療連携に関与

(下関市大腿骨頸部骨折・脳卒中地域連携パス研究会に参加)。

本年度内に作成された新規クリニカルパスは、1 診療科・4 種でしたが、既存のパスにも適宜、見直しを行い、整理・改良を加えました。

現在当院で作成・使用中のクリニカルパスは、以下のとおり計 100 種・14 診療科 であり、全入院患者さまの 30~35% のケースで使用されています。

科	パス	
消化器内科	ポリペク	胃瘻造設
	内視鏡的胃粘膜下層剥離術クリニカルパス	
循環器内科	血管造影検査	下肢動脈形成術
	冠動脈形成術	ペースメーカー植え込み術
	ペースメーカー電池交換	急性心筋梗塞
腎臓内科	PET (腹膜機能検査)	内シャント PTA
	内シャント造設術	腎不全教育入院
	腎生検クリニカルパス・前日入院	腎生検クリニカルパス・当日入院
外科	ラパコレ	鼠径ヘルニア
	虫垂切除術	腹腔鏡下結腸切除術
	乳房部分切除術	乳房切除術 (全摘)
	ERCP	

呼吸器外科	胸腔鏡下肺切除術（悪性）	胸腔鏡下肺切除術（良性）
	胸腔鏡下肺切除術（気胸）	肺切除術（開胸）
心臓血管外科	腹部大動脈瘤人工血管置換術	下肢静脈瘤（ルンバール）
	下肢静脈瘤（全身麻酔）	下肢血管手術
	ステントグラフト内挿術（胸部）	ステントグラフト内挿術（腹部）
脳神経外科	慢性硬膜下血腫手術（前日入院）	慢性硬膜下血腫手術（当日）
	脳血管撮影（前日入院）	脳血管撮影（当日）
	脳梗塞	脳出血（手術なし）
産婦人科	緊急帝王切開	腹式帝王切開
	経膈分娩	子宮脱
	子宮筋腫腹式手術	円錐切除
	腹腔鏡補助下卵巣腫瘍摘出術	
小児科	低身長 A 検査アルギニン負荷	低身長 B 検査 4 者負荷試験
	インバギ（腸重積）空気整復治療	感染性胃腸炎
	気管支喘息	食物負荷試験
	小児インフルエンザ	免疫グロブリン補充療法
小児外科	2 泊 3 日手術	小児虫垂切除術
整形外科	右 THA（人工股関節置換術）	左 THA（人工股関節置換術）
	右橈骨遠位端骨折骨接合術	左橈骨遠位端骨折骨接合術
	BKP：経皮的椎体形成術	胸・腰椎圧迫骨折／コルセット治療
	右大腿骨骨接合術	左大腿骨骨接合術
	右大腿骨人工骨頭置換術	左大腿骨人工骨頭置換術
	抜釘術（上肢）	抜釘術（下肢）
	1 泊 2 日脊髄造影（ミエロ CT）	腰椎後方椎体間固定術
	1 期目／2 期的低侵襲腰椎側方椎体間固定術	腰椎椎弓形成術
	内視鏡下髄核摘出術	頸椎椎弓形成術
	右人工膝関節置換術	左人工膝関節置換術
	右 HTO（高位脛骨骨切り術）	左 HTO（高位脛骨骨切り術）
	右 ACL（前十字靭帯）再建	左 ACL（前十字靭帯）再建
	右 ACL 縫合あり（前十字靭帯再建＋半月板縫合）	左 ACL 縫合あり（前十字靭帯再建＋半月板縫合）
	膝関節鏡（半月板切除）	膝関節鏡（半月板縫合）
泌尿器科	前立腺生検	TUR BT
	TUR P	
眼科	右白内障手術	左白内障手術
	右白内障手術（全身麻酔）	左白内障手術（全身麻酔）
耳鼻咽喉科	扁桃摘出術	内視鏡下副鼻腔手術（両 ESS）

耳鼻咽喉科	喉頭鏡下微細手術	眩暈
	鼓膜チュービング術	小児扁桃腺摘出術
	突発性難聴	急性咽頭蓋炎
	顔面神経麻痺	扁桃周囲膿瘍

# 緩和ケア委員会

## 【目的】

- ① 緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟の円滑な運営を図る。
- ② 院内外において緩和ケアの普及・啓発活動を行う。
- ③ 急性期病棟において緩和ケアの積極的な介入を行う。

## 【構成メンバー】

- ◇ 医師（緩和ケア内科、外科、血液内科、呼吸器外科、精神科）
- ◇ 看護師（緩和ケア病棟、緩和ケア外来、急性期各病棟、認定看護師）
- ◇ 薬剤部
- ◇ リハビリテーション部
- ◇ 事務部門

## 【主な活動内容】

1. 緩和ケア委員会の開催（月 1 回）
2. 院内症例検討会の開催（月 1 回）
3. 緩和ケア領域の研修会、研究会、学会などへの参加
  - ・日本ホスピス緩和ケア協会年次大会（2018年7月14・15日）
  - ・山口県緩和ケア研究会（世話人）（2018年5月13日、10月28日）
  - ・下関チーム医療緩和ケア懇話会（当院主催）（2018年9月14日）



# ボランティア活動

## 【概要】

平成 12 年 6 月から市民参加によるボランティア活動を開始しました。

「市民の方のボランティア活動を通して、開かれた病院づくりを目指す」「地域の方とのつながりを大切にする」を目標に活動しています。

## 【活動について】

(1) 登録人数 27 名

(ア) 活動内容

- ① 外来ボランティア（月曜日～金曜日の平日、8：45～11：15）  
受診科案内、車イス介助、再来受付、代筆など
- ② 図書ボランティア（毎週水曜日、13：00～14：00）  
移動図書「ふくふく文庫」など
- ③ 緩和ケア病棟ボランティア（月曜日～金曜日の平日、10：30～11：30）  
草花の手入れ、季節の飾り付け、イベント準備など

(イ) 年間活動

- ① ボランティア連絡協議会…偶数月 5 回／年
- ② ボランティア交流会…1 回／年
- ③ 「市報しものせき」によるボランティア募集…適宜

## 出前講座

【平成 30 年度実績】

テーマ	実施日	会場	参加者数 (名)	講師
腰痛予防	2018.5.15	下関農業協同組合 川中支部	35	リハビリテーション部 鐘井光明理学療法士
腰痛予防	2018.5.23	おたがいさま下関	20	リハビリテーション部 宮野清孝主査
転倒予防教室	2018.5.29	コープやまぐちネット 「しるばっこ」	13	リハビリテーション部 内田景子副主任
転倒予防教室	2018.6.6	石神町茶話会	14	リハビリテーション部 水野博彰副主任
腰痛予防	2018.7.26	下関市教育委員会教育部 学校保健給食課	129	リハビリテーション部 小林健治副主任 池田高超理学療法士
腰痛予防	2018.9.20	社会福祉法人 下関社会福祉協議会	22	リハビリテーション部 竹永秀平理学療法士
転倒予防教室	2018.11.19	厚母サロン会	19	リハビリテーション部 宇都宮功一理学療法士
腰痛予防	2018.12.14	殿居公民館	13	リハビリテーション部 小林健治副主任 月城一志理学療法士
転倒予防教室	2019.1.11	殿居公民館	20	リハビリテーション部 水野博彰副主任
腰痛予防	2019.2.6	(株)ザメディアジョン・ リージョナル	8	リハビリテーション部 鐘井光明理学療法士 中村祐太理学療法士
転倒予防教室	2019.2.20	(株)ザメディアジョン・ リージョナル	10	リハビリテーション部 梅本翔理学療法士 石村優人理学療法士